



JAPAN
GAMES

新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。



柔道競技会

2024年10月12日(土)～14日(月)

SAGAサンライズパークSAGAアリーナ

主催：公益財団法人日本スポーツ協会・文部科学省・佐賀県
公益財団法人全日本柔道連盟・佐賀市

SAGA 2024

新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。

SAGA2024から、国体の愛称で親しまれてきた「国民体育大会」が「国民スポーツ大会」へ変わります。大会の名称が変わるはじまりの地に選ばれた佐賀県は、すべての人にスポーツのチカラを届ける新しい大会を目指し、さまざまな取り組みにチャレンジします。

リアルアスリート・ピクトプロジェクト

新しい「国民」の「スポーツ」大会だから、みんなで作りたい。そんな思いを込めて制作したピクトグラム。すべて実在するアスリートのシルエットが元になっています。



国スポ 総合開会式

10 / 5 (土)

SAGAスタジアム

佐賀県佐賀市日の出2丁目1-10



国スポ 総合閉会式

10 / 15 (火)

SAGAアリーナ

佐賀県佐賀市日の出2丁目1-10



(公財)日本スポーツ協会(JSPO)は、「スポーツは、もっとオモシロイ。」を掲げ、スポーツが誰にとってもオモシロくなり、幅広い世代でスポーツが身近にある社会の実現を目指す『JAPAN GAMES』構想を推進。JSPOと佐賀県は、連携・協働してスポーツの新たな価値を創造します。

大会HP詳しくはこちら

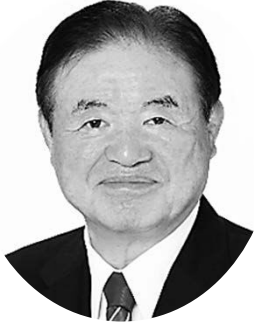
SAGA 2024



目 次

あいさつ

大会会長 公益財団法人 日本スポーツ協会会長	遠 藤 利 明 …… 2
文部科学大臣	盛 山 正 仁 …… 3
公益財団法人 全日本柔道連盟会長	中 村 真 一 …… 4
歓迎のことば	
SAGA2024実行委員会会長 佐賀県知事	山 口 祥 義 …… 5
SAGA2024佐賀市実行委員会会長 佐賀市長	坂 井 英 隆 …… 6
佐賀県柔道協会 会長	小 形 健 二 …… 7
国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程	8
国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程	9
大会役員	10
競技会役員	14
競技役員	17
競技補助員 競技会係員 競技会補助員	19
総 則	20
柔道競技実施要項	36
表彰式次第	42
佐賀県柔道協会 「投の形」	43
「古式の形」	44
競技日程	51
組合せ表	53
IJF技名称一覧	56
都道府県別参加数一覧	57
選手・監督名簿（少年男子）	58
選手・監督名簿（成年男子）	65
選手・監督名簿（女子）	68
柔道競技成績採点方法	72
男女総合（天皇杯得点）成績一覧表	73
女子総合（皇后杯得点）成績一覧表	74
過去成績一覧表	75
競技会場周辺図	98
競技会場配置図	99
交通案内図	101
関係機関連絡先	102
競技関連資料	103



あいさつ

公益財団法人 日本スポーツ協会

会長 遠藤利明

国の特別史跡に指定されている「吉野ヶ里遺跡」をはじめとする重要文化財や、ユネスコ無形文化遺産に登録された「唐津くんち」などの伝統的行事が根付く、ここ佐賀県において第78回国民スポーツ大会が開催されますことは、誠に喜ばしい限りであります。

スポーツを通じた明るく豊かな国づくりを目指して昭和21（1946）年からスタートした国民体育大会は、今日まで多くの関係者のたゆまぬ努力と情熱に支えられ、我が国最大のスポーツの祭典として発展を遂げ、本年から「国民スポーツ大会」へと名称を変え、新たなスタートを切ります。

今大会は、幅広い世代の人々が、スポーツが身近にある生活を体験出来る社会の実現を目指した「JAPAN GAMES」の取組を本格化し、すべての人に「スポーツの力」を届けることができる大会を目指しております。

スポーツを「する」人、「みる」人、「ささえる」人、すべての方々がスポーツのオモシロさを体現し、スポーツで日本を元気にする大会となることを願っております。

さて、国民スポーツ大会を巡っては、今後の在り方に関して様々なご意見が寄せられておりますが、より魅力ある持続可能な大会とするため、幅広い分野の皆様に参加いただいた有識者会議を設置しております。

今後、検討を進めるに当たっては、今回の佐賀大会における「JAPAN GAMES」をはじめとする新たな取組の成果も充分活かしていきたいと考えております。

今大会は、当初から1年遅れての開催となりましたが、佐賀県の関係者の皆様をはじめ、開催を控えていた各県の皆様方のご協力なくしては実現できなかったものであり、改めてお礼申し上げます。

結びに、今大会の開催にあたり、長年諸準備にご尽力いただきました、地元佐賀県をはじめ関係の皆様方のご支援、ご協力に対し心から深く感謝申し上げます。



あいさつ

文部科学大臣

盛山正仁

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、ここ佐賀県において第78回国民スポーツ大会「SAGA2024国スポ」が盛大に開催されますことを、誠に喜ばしく存じます。

佐賀県は玄界灘、有明海という多くの恵みをもたらす2つの海に面し、広大な佐賀平野やラムサール条約湿地に登録された「東よか干潟」「肥前鹿島干潟」等豊かな自然の魅力にあふれ、国の特別史跡である「吉野ヶ里遺跡」や400年以上の歴史を誇る「有田焼」を有する等、歴史と文化が息づく県です。

昭和51年の若楠国体以来48年ぶりの佐賀県での開催となり、「新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。」をメインメッセージに、エンタメ性の高い式典、ナイトゲームの開催、スポーツホスピタリティ等、スポーツの可能性を追求する「新しい」取組に挑戦し、県全域を舞台に熱戦が繰り広げられます。

また、トップアスリートの育成を通じ、県民がスポーツを「する」「育てる」「観る」「支える」「稼ぐ」というスポーツ文化の裾野拡大を目指し、スポーツのチカラを生かした人づくり、地域づくりを進める「SAGAスポーツピラミッド構想」という「新しい」仕組みも広がっています。国民体育大会から国民スポーツ大会への名称変更後初めての開催にふさわしい、今後のモデルケースとなる魅力的ですばらしい取組となっております。

郷土の代表として参加される選手の皆さんが、これまで積み重ねてこられた練習の成果を思う存分発揮され、我が国の国際競技力の向上が図られるとともに、この機会に全国の仲間や佐賀県民の皆さんとの交流の輪を広げられ、思い出に残る大会となりますことを期待しております。

本年はパリオリンピック・パラリンピック競技大会が開催され日本代表選手が大活躍し、国民のスポーツへの関心はますます高まっています。

文部科学省としましても、アスリートや子供たちの活動の機会を確保し、スポーツの持つ力やすばらしさが社会の活力につながるよう関係の皆様と一丸となって取組を進めてまいります。

結びに、「SAGA2024国スポ」の開催に当たり御尽力いただいた地元佐賀県、会場となる各市町をはじめとする関係の皆様への御支援、御協力に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、御挨拶といたします。

令和6年7月29日



あいさつ

公益財団法人 全日本柔道連盟

会 長 中 村 真 一

第78回国民スポーツ大会柔道競技会が、「新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。」のローガンのもと、SAGAアリーナにおいて開催されることを誠に嬉しく思います。

国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力向上を図ることを目的に開催されております。本連盟と致しましても、柔道のさらなる普及・発展とともに、国民スポーツ大会を通じた競技の一層の充実を図るため、今後も幅広い世代の競技力向上の施策を検討してまいります。

さて、今年の8月に開催されたパリオリンピックでは、日本柔道が個人戦で金メダル3個、銀メダル1個、銅メダル3個を獲得し、男女混合団体戦では東京オリンピックに引き続き準優勝の成績を収めました。今回の国民スポーツ大会に出場する選手の皆さんには、世界の舞台を目指し、鍛錬を重ねていただきたいと思っております。

また、本連盟では、現代社会における柔道の役割と価値を再定義すべく、長期育成指針を策定しております。『『みんなの柔道』というローガンのもと、多様性を認め合い、性別、年齢の違いや障がいの有無にかかわらず、全ての人々が個人の成長を感じ、助け合う』、このような自他共栄の精神が広がっていくよう、活動を続けてまいります。柔道の「競技性」のみに固執せず、「人生の道」としての価値に焦点をあて、個人の成長、社会への貢献を皆様とともに目指していきたいと思っております。

最後に、本競技会の開催に多大なるご尽力いただいた佐賀県、佐賀市、そして佐賀県柔道協会をはじめとする関係の皆様に対し、厚く御礼申し上げます。



歓迎のことば

SAGA2024実行委員会会長

佐賀県知事 山口 祥 義

「すべての人に、スポーツのチカラを。」新しい大会へようこそ。

感動する。魂が揺さぶられる。年齢や国境を超えて、人と人がつながる。心身ともに健やかになる。スポーツには、人間の根源的な喜びを生み出すチカラがあります。

こうしたスポーツの真の価値を大切にする佐賀県では、「SAGAスポーツピラミッド（SSP）構想」と銘打ち、アスリートの人生にコミットした人材育成、セカンドキャリア支援やスポーツビジネスの創出を進めて、アスリートが現役時代も引退後も、キャリアを活かして輝き続けることができる社会の実現を目指してきました。

その中で開催する「SAGA2024」は、スポーツ新時代を多くの方に実感できる大会として、日本に世界標準のスポーツ文化が根付く転機となると確信しています。

「SAGA2024」柔道競技会、いよいよスタートです。

柔道は、最先端の観覧環境をもつ「SAGAアリーナ」が競技会場になります。心技体を鍛えた選手による、多種多様な技の攻防など、柔道の魅力をあますことなく観客の方に伝えることができる、まさにアスリートがもっと輝く舞台です。

「SAGA2024」は“国体”から“国スポ”へと変わる大会です。

競技会では、選手個人にスポットを当てた表彰制度やメダルの授与、ナイトゲームや動画配信により選手の活躍を称え、熱戦をより多くの方に届けます。式典でも新たな演出に取り組みます。総合開会式の自由で楽しさあふれる選手団入場、音と光、映像を最大限に活かした総合閉会式など、大会に関わるすべての人と感動を分かち合います。

選手の皆様には、日々の練習に打ち込んできた情熱と、磨き上げてきた技を、この舞台で披露していただければ、これ以上の喜びはありません。

佐賀県は、「弥生時代の吉野ヶ里遺跡」、「日本文化が開いた肥前名護屋城」、「明治維新の礎を築いた偉人の輩出」と三回にわたり日本史転換の舞台となりました。これは「挑戦なくして、伝統なし」のマインドがこの地で培われているからだと考えます。有田焼、佐賀牛、佐賀酒といった文化・食材が世界で高い評価を受けていることもその証です。スポーツの世界も例外ではありません。佐賀県は、先人達の積み重ねに想いを馳せながら、新たな挑戦を続けていきます。

スポーツ新時代の幕が上がる、その瞬間を一緒に体感できることを嬉しく思うとともに、開催にあたり、多大な御支援と御協力を賜りました関係者の皆様に心から感謝を申し上げ、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

SAGA2024佐賀市実行委員会会長

佐賀市長 坂井英隆

「SAGA2024」柔道競技会を、佐賀市で開催できますことを大変嬉しく思います。また、全国各地からお越しいただく選手・監督、関係者の皆様、ようこそ佐賀へ。佐賀市民を代表して心から歓迎いたします。

「SAGA2024」は、戦後78年続いた「国民体育大会」から「国民スポーツ大会」へと生まれ変わる最初の大会です。「体育」から「スポーツ」へと名称が変わるだけでなく、すべての人に、スポーツのチカラを感じていただけるよう、これまでの大会にはなかった新たな取り組みで皆様をお迎えします。

全競技を対象に実況を交えた動画配信を行うほか、サンライズパークに隣接する佐賀市文化会館を会場とする「全天候型おもてなし広場」では、本市開催競技やバーチャルスポーツを体験できるコーナーを設けます。さらに、佐賀市民を挙げた「応援によるおもてなし」や、ナイトゲームの開催など、競技を「する」選手だけでなく、「みる」、「ささえる」の様々な形で参加いただく市民や来場者にとって、「スポーツの魅力」や「スポーツの力」を実感できる大会にしたいと思っています。

佐賀市には、日本を牽引してきた賢人たちの功績を今に伝える、世界遺産「三重津海軍所跡」や、「佐賀城本丸歴史館」などの歴史・文化遺産が多く残っています。また、食も豊かで、最長となる14年連続で「特A」評価を獲得しているブランド米「さがびより」をはじめ、ブランド牛の「佐賀牛」、有明海で育てられた芳醇な旨みの「佐賀海苔」、人気の日本酒など、全国的にも高い評価をいただいております。滞在中には、ぜひ、佐賀の多彩な魅力を体感いただければ幸いです。

本大会の開催に多大なるご支援、ご協力をいただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、ご参加の皆様のご活躍を心から祈念いたしまして、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

佐賀県柔道協会

会 長 小 形 健 二

歓迎のことばに先立ち、先の能登半島地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復旧と復興をお祈りいたします。

天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、全国から多くの選手及び役員の皆様方をお迎えして、「国民体育大会」から名称変更となる記念すべき最初の「第78回国民スポーツ大会」をここ佐賀県で開催できますことは、この上ない喜びであり、佐賀県柔道協会を代表しまして心から歓迎申し上げます。

「さわやかに・すこやかに・おおらかに」のスローガンを掲げた佐賀県初の若楠国体から半世紀の時を経て、より一層進化した「SAGA2024国スポ」では、開催延期を乗り越えた先催県との絆を複数回にわたって深めながら、すべての人にスポーツ～柔道～の力を届けるべく佐賀県柔道協会一丸となって「精力善用」「自他共栄」の理念のもと、準備を進めてまいりました。そして今、全国の選手の研ぎ澄まされた心・技・体が相まみえる一戦に、SAGAサンライズパークSAGAアリーナにて立ち会うことができることは、佐賀県柔道協会会長として筆舌に尽くしがたい栄誉です。

最後に、本大会の開催にあたりご尽力いただきましたすべての皆様に深くお礼申し上げますとともに「SAGA2024国スポ」が深い感動を与え、魂を揺さぶる大会となりますことを祈念し、歓迎のことばといたします。



天皇杯

皇后杯

詳しくはこちら
(国スポ諸規定)



国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程

第1条 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、天皇杯は、男女総合成績第1位の都道府県、皇后杯は、女子総合成績第1位の都道府県に授与する。

2 第1位が2都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第2条 天皇杯及び皇后杯は、総合閉会式に授与し、次回の総合開会式において返還する。

第3条 天皇杯又は皇后杯を授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

(1) 信託会社又は確実な金庫に保管する。

(2) 破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。

(3) 公益財団法人日本スポーツ協会が優勝都道府県名刻印のため又はその他の必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第4条 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。



大会会長トロフィー

国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程

第1条 国民スポーツ大会開催基準要項第11項に基づき、国民スポーツ大会会長トロフィー（以下「大会会長トロフィー」という。）は、正式競技別男女総合成績第1位の都道府県に授与する。

2 第1位が2都道府県以上の場合、当該都道府県で共有する。

第2条 大会会長トロフィーは、競技会表彰式に授与し、次回競技会において返還する。

第3条 大会会長トロフィーを授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

- (1) 責任をもって保管する。
- (2) 破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。
- (3) 優勝の刻印を次回大会までに行うものとする。ただし、第1条第2項の場合は、当該都道府県で協議して決めるものとする。
- (4) 公益財団法人日本スポーツ協会が必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第4条 本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

河	口	端	子	增	田	和	伯	中	嶋	実	山	本	誠	三
松	本	恭	幸	船	田	一	彦	奥	田	晃	横	尾	英	治
近	藤	一	幸	小	寺	祐	洋	河	村	祐	渡	邊	浩	三
田	中	康	稔	馬	越	勝	希	青	木	章	城	戸	英	敏
旗	生	嘉	之	小	柳	幸	彦	辛	木	秀	宮	成	康	蔵
藤	本	朗	格	岩	元	隆	成	平	良	朝	藤	原	正	樹
大	河	司	朗	川	上	妙	弘	佐	藤	廣	奈	良	久	隆
小	菅	孝	司	宇	木	純	子	菊	あ	俊	小	林	宗	美
寺	澤	子	孝	山	口	伸	子	あ	べ	章	今	枝	一	郎
本	田	明	子	安	江	成	夫	藤	原	貢	矢	野	和	彦
西	條	三	明	寺	門	健	真	尾	縣	東	鈴	木	大	地
田	嶋	信	三	山	西	俊	一	坂	田	直	三	須	和	泰
内	田	明	子	川	合	益	弘	藤	岡	良	三	屋	裕	子
富	山	子	一	馬	場	光	二	砂	田	正	金	丸	恭	文
橋	本	宏	一	安	道	雅	豊	河	井	満	千	丸	喜	室
中	村	成	宏	三	宅	人	人	村	匠	一	松	福	達	郎
網	代	子	成	土	田	堯	堯	丸	城	郎	福	不	安	夫
世	耕	之	子	笹	川	薰	信	番	川	英	清	野	智	司
久	保	也	也	北	藤	勝	司	岩	村	生	柏	木	清	司
石	井	彦	也	加	田	有	一	荒	村	子	北	村	元	士
達	増	人	彦	鶴	本	富	博	吉	藤	司	大	野	英	裕
大	川	朗	人	福	本	博	浩	遠	田	浩	花	角	秀	世
熊	谷	一	朗	山	口	浩	隆	岡	本	治	高	野	明	剛
新	部	光	一	馳	本	義	典	中	谷	加	大	村	秀	章
阿	井	彦	光	田	田	英	也	西	脇	二	牧	野	昭	次
向	藤	也	彦	河	宗	誠	昌	岸	本	隆	林	岡	嗣	男
齋	山	市	也	池	田	孝	實	荊	田	周	村	部	誠	政
丸	内	吾	市	越	田	隆	博	大	塚	知	服	山	豪	太
柿	石	一	吾	槇	斐	ニ	一	麻	生	岩	春	田	和	郎
大	田	志	一	甲	城	直	康	原	口	益	春	田	雄	志
塩	串	博	一	玉	川	美	美	福	岡	一	岩	下	伸	親
大	場	芳	博	古	斐	直	一	奥	田	資	山	上	伸	平
江	里	秀	次	甲	島	健	一	山	口	弘	井			一

杉	本	好	二	東	野	眞	理	子	田	中	徹	川	口	雅	三
金	子	和	裕	品	治	恵	子	映	富	澤	佑	小	竹	純	太
政	岡	航	大	小	河	百	卓	司	田	口	雅	吉	丸	尚	宏
宇	田	俊	郎	西	口	卓	直	樹	鈴	木	宏	宮	村		元
高	階	匡	平	松	井	直	定	幸	坂	本	雄	鈴	木		忠
見	田	茂	樹	大	泉	直	直	巳	金	丸	利	高	橋		清
山	形	信	之	神	久	祐	祐	紀	高	野	正	岩	埜	直	史
小	林	雄	一	深	谷	浩	浩	一	矢	島	裕	金	田	貴	人
新	保		暢	江	野	文	文	孝	児	玉	晶	井	澤	克	行
近	本		彰	大	村			哲	松	井	直	藤	田	隆	司
西	島	義	典	井	上			久	木	原	哲	高	橋	健	二
宮	崎		聖	田	伏	利	利	也	田	中		渡	部	浩	二
山	本	浩	之	田	口	新	新	幸	伊	藤	啓	青	木	秀	夫
渡	邊	浩	司	辻	岡	英	昌	宏	三	谷	哲	中	野	一	成
松	山	度	良	濱	本	昌	直	人	佐	保	宏	横	山	美	和
徳	田	清	信	宮	城	直	忠	男	遠	藤	信	千	葉	雅	也
菅	間	裕	晃	庄	司	忠	正	博	細	貝	和	竹	内	延	和
北	野	善	樹	北	村	正	嘉	彦	武	田	知	木	平	芳	定
今	井	良	広	山	崎	嘉	浩	二	田	部	長	住	吉	徳	彦
荒	木	健	治	山	村	浩	志	帆	渡	嘉	敷	綾	部	吉	也
木	塚	俊	博	北	村	志		彰	瀬	戸		川	原		恵
田	久	保	真	遠	藤										

競 技 会 役 員

(順不同・敬称略)

名 会 副 顧 参	譽 会	長 長 長 問 与	隆	英	井	坂											史	林	正	博
			一子	真淳	村井	中石	西	田	孝	宏	冲	永	佳	史	林	正	博			
			二裕	健泰	形下	小	西	木	火	箱	芳	文	細	川	伸	二				
			潤夫	孝	野	山	藤	岡	近	石	康	宏	梶	木	壽	喜				
			肇彦	秀	田	金	笹	木	千	葉	知	昭	野	瀬	清	里				
			己悟	克賢	田	川	佐	藤	御	嶽	隆	士	增	村	利	行				
			昌	宏	野	前	岩	下	古	川	誠	誠	穴	井	隆	信				
			一郎	裕	木	吉	吉	村	大	西	洋	翠	田	川	晋	治				
			太郎	啓	江	矢	大	森	尾	角	久	仁	桐	原	弘	毅				
			実秋	步	保	奈	坂	本	清	崎	昭	子	園	田	教	子				
			男昌	千國	本	大	塚	崎	樋	水	眞	平	浅	賀	健	一				
			孝雄	博敏	田	久	石	井	市	川	重	隆	伊	藤	綏	之				
			久章	敏義	野	谷	岩	田	上	田	晃	弘	内	野	幸	重				
			輔隆	裕	原	宇	遠	藤	大	作	修	司	大	西	珠	枝				
			宏雄	恭	内	梶	金	子	河	川	謙	三	川	人	芳	正				
			一治	隆	野	木	北	哲	橋	野	賢	嗣	木	村	三	樹				
			司弘	雅	林	久	郷	博	河	口	直	人	児	玉	俊	悟				
			之俊	克	原	小	小	泰	左	本	恒	夫	高	谷	正	和				
			俊	晋	綱	佐	重	宏	島	川	夫	男	田	木	順	子				
			司	修	澤	末	高	勝	高	橋	政	久	田	島	謙	治				
			弘	一	川	高	田	健	谷	口	久	雄	友	原	優	子				
			之	治	山	立	坪	正	寺	脇	一	峰	中	添	秀	則				
			俊	司	成	玉	中	石	中	中	和	久	友	島	政	司				
			之	弘	田	友	野	弘	永	廣	信	治	中	戸	昭	夫				
			俊	之	宮	中	野	周	萩	原	忠	榮	長	谷	大	恭				
			俊	正	箱	火	平	秀	平	間	正	幸	平	間	哲	雄				
			俊	正	島	福	藤	庸	洞	口			牧		泰	二				

松	本	範	昌	松	本	薰	宮	城	進	武	藤	久	枝
本	橋	順	二	諸	井	三	八	代	一	山	崎	立	実
山	本	典	夫	吉	田	忠	渡	辺	三	松	永	幹	哉
中	島	妙	子	藤	田	佳	江	口	己	諸	富	八	千
稻	葉	嵩	広	川	崎	健	御	厨	行	西	岡	真	一
江	原	新	子	富	永	明	久	米	也	中	村	宏	志
村	岡		卓	松	永	憲	山	田	誠	実	松	尊	信
永	淵	史	孝	宮	崎		川	副	龍	重	松		徹
平	原	嘉	徳	江	頭	弘	千	綿	正	堤		正	之
福	井	章	司	川	原	裕	重	田	音	中	野	茂	康
野	中	宣	明	黒	田	利	山	下	明	嘉	村	弘	和
西	岡	義	広	堤		和	撫	尾	知	鳥	飼	亜	美
長	崎	美	聡	山	田	久	池	田	一	鈴	木	宏	一
坂	井		元	武	富	将	古	賀	伸	川	副	光	行
稻	又	宏	之	江	頭	聖	宮	崎	圭	片	副	明	子
森	留	賢	美	大	久	雅	筒	井	竜	大	松	明	浩
大	申		一	姉	川	久	寺	田	千	吉	次	明	司
関		正	毅	大	中	陽	大	澤	和	本	村	哲	也
北	村	一	豊	香	川	文	三	島	安	山	田	邦	雄
井	崎	裕	文	陣	内	芳	末	次	康	高	木	辰	巳
本	村	正	信	松	尾	正	竹	尾	啓	池	上	寿	伸
坂	井	欣	吾	中	野	武	八	谷	克	古	賀	釀	治
留	守	茂	幸	山	下	雄	坂	本	昭	松	尾	真	也
永	瀬	一	裕	野	田		吉	松	幸	堤		孝	二
廣	重	昭	博	原		敏	吉	原	正	東	島	伸	氏
宇	都		圭	齋	藤	秀	小	城		牛	島	英	人
谷	宮	政	司	吉	田	彰	愛	野	時	阿	部	俊	浩
富	永	敬	二	西	山	倍	野	中	通	江	口	多	壽
光	武	則	秋	高	木	邦	秀	島	久	塚	原	勝	美

委 副 委	員 委 員	長 長 員	中 岡 松 本 八 寬 天 松 近	里 泉 井 郷 本 木 藤 野 田 藤	壯 通 次 玲 基 智	也 茂 勲 亮 秋 男 子 子	久 大 山 辻 中 高 天 眞	富 迫 本 本 村 野 崎	和 明 国 佳 江 安 武	彦 伸 博 修 央 津 喜 子 浩	井 小 黒 正 兒 渡 中	口 野 山 田 木 玉 辺 村	浩 修 一 嘉 涼 淳	樹 平 彦 美 篤 子	山 高 鳥 山 神 塗 田	口 山 居 藤 谷 師 中	龍 吉 哲 兼 純 秀	德 健 二 夫 正 子 一郎
-------------	-------------	-------------	---	--	----------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---	---------------------------------	--------------------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------------	---------------------------------	----------------------------	----------------------------------

競 技 役 員

(順不同・敬称略)

総 括	宮 崎 豊	坂 口 陽 一		
審 判 長	鯨 井 甫			
審 判 委 員	川 島 一 見	中 西 美 智 子	花 本 幸 次	岡 田 保 彦
審 判 員	山 本 良	平 野 弘 幸		
	河 合 美 紀	松 田 昭	赤 岡 志 保	本 田 綾 香
	小 島 孝 則	灰 原 茉 美	鈴 木 貴 士	稲 川 郁 子
	野 本 大 道	有 川 勇 貴	山 本 紀 市	濱 岡 睦 月
	矢 富 克 成	板 井 剛	三 好 紀 孝	中 橋 政 彦
	近 藤 哲 平	栗 健	金 谷 明 子	中 島 洋 文
	内 田 彰	工 藤 文	野 田 敦 史	伊 志 嶺 朝 広
	相 良 尚 武	牧 瀬 和 也	上 戸 友 和	大 橋 晴 海
	園 田 知 比 古	井 手 久 美 子		
審 判 係 主 任	西 村 太 地			
審 判 係	山 口 元 明	内 田 希 美	野 中 ゆ かり	
総 務 係 主 任	水 田 亮			
総 務 係	山 岸 裕 二	松 岡 圭 一	西 山 訓 央	山 口 浩 二
競技進行・統括係主任	蒲 原 弘 行			
競技進行・統括係	福 地 翔 磨	片 瀨 賢	片 瀨 健 太 郎	
ケアシステム係	原 田 晃 希	小 田 唯 斗	渡 辺 正 樹	
決まり技係主任	山 口 浩 二			
決まり技係	中 原 史 昭	原 田 卓	寺 田 圭 佑	宮 崎 喜 則
	山 口 拓 基			
時 計 係 主 任	陣 内 広 則			
時 計 係	相 良 宗 知	相 良 幸 成	石 松 凌	
記 録 係 主 任	坂 口 雅 輝			
記 録 係 (本部)	古 賀 秀 幸	尊 田 弘 一	野 北 弘	三 島 千 代
記 録 係 (試合場)	古 賀 拓 也	永 田 陸	鶴 本 健 太	向 井 秀 水
	古 賀 裕 紹	平 石 匠		
掲 示 係 主 任	佐 藤 根 義 隆			
選 手 係 主 任	大 久 保 幸 美			

選手係	坂本了一	谷本繁信	水田陽介	吉次紀子
練習会場係主任	大石野乃			
練習会場係	川原哲朗	奥村洋介	中島貴大	江口翼
放送係主任	兵動順彦			
放送係	石丸真理子	廣瀬尚子		
計量係主任(男子)	野上桂子			
計量係主任(女子)	西村太地			
計量係(男子)	坂井友美	原田卓	寺田圭佑	鶴本健太
	中原史昭	平石匠	江頭佑亮	山口元明
計量係(女子)	古賀裕紹	吉次紀子	大久保幸美	大石野乃
	永田睦	廣瀬尚子	内田希美	野中ゆかり
	淵上真実			
報道・速報係主任	坂口雅輝			
報道・速報係	古賀秀幸	尊田弘一		
会場係主任	南川真輝			
会場係	池内崇	江口朋典	太郎丸裕平	
式典係主任	平野弘高			
式典係	柴田康平	江頭佑亮	寺田圭佑	南光紘
	渡辺正樹	西村成司	内田修太郎	園田康之亮
	小田唯斗	石松凌		
総合成績計算委員長	岡泉茂			
総合成績計算委員	淵上純	古賀浩		
受付・接待係主任	坂井友美			
受付・接待係	青柳有咲	吉田むつみ	田中咲絵	淵上真実
	橋口皓樹	荒巻絵梨奈	川頭優賀	
プログラム係主任	井手亜里沙			
プログラム係	喜多宗樹	橋口皓樹		
イベント係	植松円	椋島ゆかり	大坪加奈	中村由依
	松雪明日香			
救護係	平山隆裕	大富忠		

競技補助員

- ◆佐賀県立佐賀北高等学校
- ◆佐賀県立佐賀工業高等学校
- ◆佐賀県立佐賀商業高等学校
- ◆佐賀県立小城高等学校
- ◆佐賀県立嬉野高等学校
- ◆学校法人佐賀龍谷学園龍谷高等学校
- ◆学校法人佐賀学園佐賀学園高等学校
- ◆学校法人江楠学園北陵高等学校

競技会係員

- ◆佐賀市実施本部職員一同

競技会補助員

- ◆佐賀市ボランティア一同

総 則

開催の趣旨

国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとする国内最大のスポーツの祭典である。

佐賀県で開催する第78回国民スポーツ大会「SAGA2024」は「新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。」をメインメッセージに掲げ、「する」「観る」「支える」の視点から、選手も、選手でない人も参加できる大会、エンターテインメント性の高い大会、みんなで力を合わせ、つくる大会をコンセプトに、体育からスポーツに変わる、今だからこそ、すべての人にスポーツのチカラを届ける新しい大会を目指して開催する。

実施方針

1 実施競技

(1) 正式競技（37競技）

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ローイング、ホッケー、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、クレール射撃、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

(2) 公開競技（7競技）

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック

(3) デモンストレーションスポーツ（28競技）

合気道、アジャタ、いごてだま、ウォーキング、草スキー、クップ、皿かぶり競走、さわやかグラウンド・ゴルフ、3B体操、室内ペタンク、シャッフルボード、スカットボール、スケートボード、スポGOMI、スポーツウエルネス吹矢、スポーツチャンバラ、ソフトバレーボール、滝登り、チャレンジ・ザ・ゲーム、パークゴルフ、バグジー、ビリヤード、フライングディスク、マリンスポーツ、ユニカール、ラージボール卓球、ラダーゲッター、ロープ・ジャンプ・X

(4) 特別競技（1競技）

高等学校野球

2 会期及び会場地

(1) 正式競技・特別競技（13市、11町：計24市町）

会 期	会 場 地
2024年10月5日（土） ～10月15日（火） 〔11日間〕	佐賀市、唐津市、鳥栖市、多久市、伊万里市、武雄市、鹿島市、小城市、嬉野市、神崎市、吉野ヶ里町、基山町、上峰町、みやき町、玄海町、有田町、大町町、江北町、白石町、太良町、大分県日田市、兵庫県三木市
2024年9月5日（木） ～9月17日（火） 〔13日間〕	佐賀市、伊万里市、鹿児島県湧水町 ※ 水泳、ローイング、バレーボール（ビーチバレー）、体操（体操競技、トランポリン）、カヌー（SL・WW） 競技会は上記会場地で実施
2024年9月21日（土） ～10月1日（火） 〔11日間〕	佐賀市、唐津市、鳥栖市、神崎市、大分県由布市 ※ サッカー、テニス、体操（新体操）、セーリング、ソフトテニス、ライフル射撃、剣道、クレー射撃競技会は上記会場地で実施

(2) 公開競技（6市、1町：計7市町）

会 期	会 場 地
2024年8月24日（土） ～9月22日（日）	佐賀市、唐津市、鳥栖市、武雄市、鹿島市、嬉野市、基山町

(3) デモンストラレーションスポーツ（7市、8町：計15市町）

会 期	会 場 地
2024年4月21日（日） ～10月13日（日）	佐賀市、唐津市、鳥栖市、武雄市、鹿島市、嬉野市、神崎市、吉野ヶ里町、基山町、上峰町、有田町、大町町、江北町、白石町、太良町

(4) 文化プログラム

文化プログラムの実施については、「文化プログラム実施基準」に基づき、2024年4月1日から2024年12月31日までの期間で、原則として、県内市町で開催する。

3 競技方法

各競技別実施要項に示す方法とし、正式競技は都道府県対抗で実施する。

4 ドーピング検査の実施

大会におけるアンチ・ドーピング活動（ドーピング検査及びアンチ・ドーピング教育活動）は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構が定める「日本アンチ・ドーピング規程」及び別に定める「国民スポーツ大会アンチ・ドーピング活動に関するガイドライン」に基づき実施する。

なお、治療の目的で禁止物質・禁止方法を用いる必要がある場合は、事前に「治療使用特例」（TUE）の手続きを行うこと。

各都道府県の代表選手は、大会期間中は常に「国民スポーツ大会ドーピング検査同意書」を所持しなければならない。選手が18歳未満の場合、本人の署名及び親権者の署名がある同意書を所持すること。

5 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

選手及び監督の参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準は、次のとおりとする。

なお、参加資格については、「第78回国民スポーツ大会参加資格、所属都道府県及び年齢基準等の解釈・説明」を併せて確認すること。

【公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ <http://www.japan-sports.or.jp/>】

(1) 参加資格

ア 日本国籍を有する者であることとするが、選手及び監督のうち、次の者については、日本国籍を有しない者であっても、大会に参加することができる。

(ア) 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち「永住者」（「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」に定める「特別永住者」を含む。）

(イ) 少年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a 「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍する学生又は生徒で、「8 参加申込方法」で定めた参加申込締切時に1年以上在籍していること。

b 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、「留学」、「家族滞在」又は「定住者」に該当していること。

(ウ) 成年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a 少年種別年齢域にあった時点において前号(イ)に該当していた者であること。

b 「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、大会参加時から終了時まで「留学」に該当しないこと。

[注] 上記(ウ)bについて、大学及び専修学校等に在籍する成年種別の年齢域に該当する者は、「出入国管理及び難民認定法」に定める「留学」以外の在留資格を有する場合も「留学」と同等に扱う。

イ 選手及び監督は、所属都道府県の当該競技団体会長（代表者）と体育・スポーツ協会会長（代表者）が代表として認め、選抜した者であること。

ウ 第77回又は2023年開催の特別大会（都道府県大会及びブロック大会を含む）において選手又は監督として参加した者は、次の場合を除き、第77回又は2023年開催の特別大会と異なる都道府県から参加することはできない。

(ア) 成年種別

a 「学校教育法」第1条に規定する学校を卒業した者

b 結婚又は離婚に係る者

[注] a及びbは当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

c ふるさと選手制度を活用する者（別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

[注] 別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

d 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

e 能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者（別記6「能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

(イ) 少年種別

a 「学校教育法」第1条に規定する学校を卒業した者

b 結婚又は離婚に係る者

c 一家転住に係る者（別記2「『一家転住等』に伴う特例措置」による。）

[注] aからcは当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

d JOCエリートアカデミーに在籍する者（別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」による。）

- e 東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）
 - f 能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者（別記6「能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）
- エ 選手と監督の兼任は、同一種別内に限る。
- オ 選手及び監督は、回数を同じくする大会において、冬季大会及び本大会にそれぞれ1競技に限り参加できる。
- カ 選手及び監督は、回数を同じくする大会において、異なる都道府県から参加することはできない。
- キ 選手、監督並びに本部役員帯同のスポーツドクター及びアスレティックトレーナーは、大会参加前の1年以内に公益財団法人日本スポーツ協会（以下「日本スポーツ協会」という。）が指定するアンチ・ドーピング教育を受講し、「国スポ本戦出場前のアンチ・ドーピング教育履歴」に記載した者であること。
- ク 上記のほか、選手については次のとおりとする。
- (ア) 都道府県大会及びブロック大会に参加し、これを通過した者であること。
 - (イ) 健康診断を受け、競技会への参加に支障がない者であること。
 - (ウ) ドーピング検査対象に選定された場合は、検査を受けなければならない。
- ケ 上記のほか、監督については日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく競技別指導者資格を有する者とし、監督が不在の場合選手は参加することができない。各競技における対象資格については当該競技実施要項によるものとする。
- (2) 所属都道府県
- 所属都道府県は、当該競技団体が限定する場合を除き、次のいずれかが属する都道府県から選択することができる。
- ア 成年種別
- (ア) 居住地を示す現住所
 - (イ) 勤務地
 - (ウ) ふるさと（別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）
- [注] 別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。
- イ 少年種別
- (ア) 居住地を示す現住所
 - (イ) 「学校教育法」第1条に規定する学校の所在地（以下「学校所在地」という。）
 - (ウ) 勤務地
 - (エ) 別記3「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」に定める小学校の所在地
- ※ 「居住地を示す現住所」、「勤務地」、「学校所在地」のいずれかから参加する場合は、2024年4月30日以前から本大会終了時（2024年10月15日）まで、引き続き当該地に、それぞれ居住、勤務、又は通学していなければならない。ただし、次の者はこの限りではない。
- [成年種別]
- a 別記4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
 - b 別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
 - c 別記6「能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

[少年種別]

- a 別記2「『一家転住等』に伴う特例措置」の適用を受ける者
 - b 別記4「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
 - c 別記5「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
 - d 別記6「能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者
- (3) 選手の年齢基準
- ア 選手の年齢基準については、下記を原則とする。
 - (ア) 成年種別に参加する者は、2006年4月1日以前に生まれた者とする。
 - (イ) 少年種別に参加する者は、2006年4月2日から2009年4月1日までに生まれた者とする。
 - (ウ) 年齢を区分している種別へ参加する者の年齢計算は、2024年4月1日を基準とする。
 - イ 日本スポーツ協会が特に認める場合は、上記アにかかわらず、競技ごとに年齢区分を設定することができる。ただし、年齢の下限は中学3年生（2009年4月2日から2010年4月1日までに生まれた者）とする。
- (4) 前記の各事項に疑義のあるときは、日本スポーツ協会及び当該競技団体が調査・審議のうえ、日本スポーツ協会がその可否を決定する。

6 各正式競技の総合成績決定方法

各正式競技の総合成績決定方法は次のとおりとする。

- (1) 次のア、イの得点を合計したものを男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）とする。
- ア 競技得点
競技得点は、各種別、種目などの第1位から第8位までの都道府県に与え、次のとおりとする。ただし、同順位の場合は、次の順位のものに加え、当該都道府県で等分し、割り切れない場合は、小数第3位以下を切り捨てる。

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
種別	4人以下	24点	21点	18点	15点	12点	9点	6点	3点
	5人以上7人以下	40点	35点	30点	25点	20点	15点	10点	5点
	8人以上	64点	56点	48点	40点	32点	24点	16点	8点
種目	—————	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

[注] 「種別」：種別などに与える競技得点 「種目」：種目などに与える競技得点

- イ 参加得点
参加得点は10点とし、大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に与える。
ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。
- (2) 各競技の総合成績は、当該競技団体が決定する。
ただし、天候その他の事情により一部競技が中止になった場合は、当該競技団体と大会総務委員会が協議する。
- (3) 参加資格違反等に関わる得点等の取り扱いについては、「国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程」によるものとする。

7 表彰

- (1) 冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に天皇杯を、同じく女子総合成績第1位の都道府県に皇后杯をそれぞれ授与する。
- (2) 冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第1位から第8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。
- (3) 各正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に、国民スポーツ大会会長トロフィーを授与する。
- (4) 各正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第1位から第8位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。
- (5) 各競技の各種別及び各種目などの第1位から第8位までに賞状を授与する。団体競技の場合は、その都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものを都道府県用に1枚、更にその都道府県名と個人名を記載したもの、又は都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものをチーム全員に授与する。

8 参加申込方法

(1) 参加申込

都道府県体育・スポーツ協会会長（代表者）及び競技団体会長（代表者）は、連署の上、都道府県大会又はブロック大会において選抜された者及び公益財団法人日本高等学校野球連盟が選出したチームを、大会会長宛に申込みとする。

(2) 参加申込締切

参加申込は、定められた締切日までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。なお各競技別実施要項の「参加申込み方法」を併せて確認すること。

(3) 参加申込締切日

締切日	競 技
2024年 8月15日（木） 【5競技】	水泳、ローイング、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操、カヌー
2024年 8月28日（水） 【12競技】	サッカー、レスリング、セーリング、自転車、ソフトテニス、相撲、ライフル射撃、剣道、クレー射撃、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン
2024年 9月4日（水） 【22競技】	陸上競技、テニス、ホッケー、バレーボール（6人制）、バスケットボール、ウエイトリフティング、ハンドボール、卓球、軟式野球、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、高等学校野球

(4) 参加申込様式

参加申込様式は、日本スポーツ協会が実施競技団体と協議の上、作成する。

(5) 公開競技の参加申込

公開競技については、別途当該中央競技団体が定める所定の手続きにより行う。

(6) 選手の交代

参加申込締切後の選手の交代は、特別な事情がない限り認めない。特別な事情で選手を交代する場合は、所定の様式、方法により次のア～ウ宛に届け出なければならない。

ア 全国を統轄する各中央競技団体事務局

イ SAGA2024実行委員会事務局

ウ SAGA2024各競技会場地市町実行委員会事務局

なお、日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

9 棄権手続

参加申込締切後から競技初戦までの間において、特別な事情で選手が競技会を棄権する場合には、所定の棄権手続をとらなければならない。

なお、棄権手続に係る届出については選手交代届と同じ様式を用いること。

10 大会参加負担金

(1) 大会に参加選手団（視察員を除く）を派遣する都道府県体育・スポーツ協会は、大会参加負担金を納入する。一人当たりの大会参加負担金の額は下記のとおりとする。

区 分	負 担 金
少年の種別に参加する選手	3,000円
上記以外の者（本部役員、監督、成年の種別に参加する選手等）	6,000円

[注] 地震、風水害、感染症およびその他主催者の責によらない事由により大会を中止した場合、大会参加負担金の返金は行わない。

(2) 大会参加負担金は、都道府県体育・スポーツ協会に取りまとめ、次のとおり納入する。

ア 納入期限 2024年9月5日（木）

イ 納入先 みずほ銀行 渋谷支店 普通預金口座 513729
公益財団法人日本スポーツ協会

11 宿泊申込

大会参加者は、SAGA2024実行委員会が指定した所定の様式により、定められた締切日までに申込み。

12 都道府県選手団本部役員編成

(1) 都道府県選手団本部役員は、次のとおりとする。

ア 参加選手500名以上の場合、団長、総監督及び総務ほか、計20名以内とする。

イ 参加選手300名以上500名未満の場合、団長、総監督及び総務ほか、計15名以内とする。

ウ 参加選手300名未満の場合、団長、総監督及び総務ほか、計10名以内とする。

(2) 上記役員のほか、5名以内の顧問を設けることができる。

(3) 上記(1)及び(2)による本部役員総数の範囲内で、スポーツドクターを帯同するものとする。なお、帯同するスポーツドクターは日本スポーツ協会公認スポーツドクター資格を有する者とする。

(4) 上記(1)及び(2)による本部役員総数の範囲内で、原則としてアスレティックトレーナーを帯同するものとする。

なお、帯同するアスレティックトレーナーは日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を有する者とする。

(5) 都道府県選手団本部役員の1日あたりの編成人数については、上記(1)及び(2)による人数を上限とする。

(6) 都道府県選手団本部役員の参加申込は、2024年9月4日（水）までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

13 視察員

- (1) 視察員は、1都道府県3名以内とする。ただし、2025年以降の国民スポーツ大会の開催が決定又は内定している県については、滋賀県100名以内、青森県及び宮崎県60名以内、長野県及び群馬県40名以内とする。
- (2) 都道府県の視察員の参加申込は、2024年9月4日（水）までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

14 大会参加章、記念章及びADカードの交付

大会参加章、記念章及びADカードは、次の者に交付する。

- (1) 大会参加章
都道府県選手団本部役員、監督及び選手並びに大会役員、競技会役員及び競技団体が指定した競技役員
- (2) 記念章
公開競技・デモンストレーションスポーツ参加者
※公開競技参加者への交付は、中央競技団体との協議による。
- (3) ADカード
都道府県選手団、公開競技に参加する選手・監督及び役員、大会役員・競技会役員及び競技団体が指定した競技役員、大会主催者及び競技会主催者が認めた者にはADカード（Accreditation Card）を交付する。

15 参加上の注意

- (1) 大会期間中は、交付されたADカードを携帯しなければならない。
- (2) 各都道府県の代表選手は、競技に際し、「国民スポーツ大会ユニフォーム規程」に基づき、ユニフォームを着用しなければならない。

16 個人情報及び肖像権に関わる取り扱い

日本スポーツ協会、SAGA2024実行委員会、SAGA2024各競技会場地市町実行委員会及び国民スポーツ大会実施競技中央競技団体（以下「国スポ関係機関・団体」という。）は、参加申込等を通じて取得する個人情報及び肖像権の取り扱いに関して以下のとおり対応するものとする。

- (1) 個人情報の取り扱い
 - ア 利用目的
大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された個人情報は、国スポ関係機関・団体において、参加資格の確認や競技組合せなどをはじめとする大会運営業務のために利用し、目的以外に利用しない。
 - イ 公表の範囲と方法
個人情報のうち、所属都道府県、氏名、性別、年齢、学校名、チーム名等、所属と個人を識別するために必要な情報については、以下の方法等により公表することがある。
 - (ア) 総合プログラム及び競技別プログラムへの掲載
 - (イ) 競技会場内におけるアナウンス等による紹介
 - (ウ) 競技会場内外の掲示板等への掲載
 - (エ) 大会関連ホームページへの掲載
 - (オ) 報道機関への提供

ウ 競技結果（記録）等

競技結果（記録）については、上記イで定めた個人情報とともに、以下の方法等により公表することがある。

(ア) SAGA2024実行委員会が設置する記録本部を通じた公開

(イ) 国スポ関係機関・団体及び報道機関等による新聞・雑誌及び関連ホームページ等への掲載

(ウ) 国スポ関係機関・団体が作成する大会報告書等への掲載

(エ) 次回以降の大会プログラムへの掲載【新記録、優勝及び上位入賞結果（記録）等】

(2) 肖像権に関する取り扱い

ア 写真

国スポ関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがある。

イ 写真（写真撮影企業等）

国スポ関係機関・団体に認められた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがある。

なお、各競技・会場における販売の有無等の詳細は、当該中央競技団体を中心に対応する。

ウ 映像

国スポ関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された映像が、中継・録画放映及びインターネットによって配信されることがある。また、DVD等に編集され、販売・配付されることがある。

(3) 対応

ア 承諾の確認

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された時点で、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

なお、各競技会における取り扱いに伴い、別途、当該中央競技団体等によって個別に承諾を確認することがある。

イ 役員等

大会役員、競技役員、運営役員、その他各種委員や補助員、国スポ関係機関・団体と大会に関する契約をしている者及び大会運営関係者については、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

17 都道府県大会及びブロック大会

正式競技については、本大会の予選として次のとおり都道府県大会（ブロック大会）を開催しなければならない。

(1) 都道府県の主催団体は、必要に応じて日本スポーツ協会及び中央競技団体等関係団体と協議の上、本要項に基づき実施要項を作成する。

なお、日本スポーツ協会及び中央競技団体は、その内容に不備がある場合、適宜指導を行うものとする。

(2) 都道府県大会の実施にあたり、当該都道府県主催団体は、適正な手続きに則り決定した代表選手の選抜方法・選考基準について、予め関係者に周知徹底を図るものとする。

(3) 参加者は、実施要項に基づき当該主催団体に申込み。

なお、参加は1人1競技に限る。

- (4) ブロック大会の申込みは、原則として国民スポーツ大会参加申込システムにより行い、様式は日本スポーツ協会及び当該主催団体が協議の上、作成する。
なお、参加申込システムを使用しない場合の様式については、当該主催団体において別途作成する。
- (5) 都道府県大会の参加申込様式は、当該主催団体において作成する。
- (6) 参加料を徴収する場合の金額は、当該主催団体が中央競技団体と協議の上、定める。
- (7) 競技運営に差し支えない限り、佐賀県選手は当該競技ブロック大会を経ることなく本大会に参加することができる。

18 国民スポーツ大会参加者傷害補償制度

日本スポーツ協会及び都道府県体育・スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者に対する社会的責任体制を整えるとともに、大会参加者の相互扶助の精神に基づいた補償制度として大会参加者による国民スポーツ大会参加者傷害補償制度を運営する。

- (1) 本制度の対象となる参加者は、ブロック大会及び本大会に参加する本制度給付規定に定められた選手、監督、選手団本部役員（顧問を含む）、視察員並びにその他選手団役員とする。
- (2) 大会参加の都道府県体育・スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者傷害補償制度の対象となる参加者数に応じた制度負担金（一人あたり1,000円）を、日本スポーツ協会に納入する。
- (3) 納入締切日及び納入先については、別途日本スポーツ協会から都道府県体育・スポーツ協会へ通知する。

19 SAGA2024の取り組み

- (1) 選手の活躍にスポットを当てた表彰
選手の活躍は、観る人、支える人などにとって「感動する。魂が揺さぶられる」など「スポーツのチカラ」を多くの方に届けることができる。それぞれの選手の活躍にスポットを当てた「称える・伝える」表彰制度を創設し、表彰する。
- (2) 観戦機会の拡大
「すべての人に、スポーツのチカラを。」の実現に向け、全国で大会の観戦・応援ができる環境づくりとしてインターネットを活用した正式競技の動画配信に取り組む。また、「一人でも多くの方に会場で観戦・応援を楽しんでほしい。」という思いから、夕方以降の試合が可能な一部の競技においてナイトゲーム開催に取り組む。
- (3) 健康づくりの推進
健康増進法（平成14年法律第103号）の趣旨に鑑み、開・閉会式会場及び競技会場を原則禁煙とする。また、望まない受動喫煙を生じさせることがないように、大会参加者は、会場周辺の道路や駅、一般の店舗等における受動喫煙防止についても十分な配慮すること。

20 その他

- (1) 参加申込及び宿泊申込が、定められた締切日までに行われなかった場合、又は、参加負担金が定められた納入期限までに納入されない場合は、本大会への参加を認めない。
- (2) 大会運営にあたり、選手・観客・大会関係者への安全を最優先に配慮し、気象状況・感染状況・交通状況・テロ行為等の各種災害に伴い、安全確保が見込めないと主催者が判断した場合は、主催者の指示に従うものとする。また、安全確保のために、参加申込システムに登録された以外の個人情報を取得する場合がある。取得した情報については、目的以外に利用しない。
- (3) その他の事項については、国民スポーツ大会開催基準要項及び同細則による。

別記1 「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」

- 1 成年種別年齢域の選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項〔国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号及び第10項第4号（参加資格及び年齢基準等）〕に基づき、下記のいずれかを拠点とした都道府県から参加することができる。
 - (1) 居住地を示す現住所
 - (2) 勤務地
 - (3) ふるさと
- 2 「ふるさと」とは、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県とする。

ただし、JOCエリートアカデミーに係る選手については、別に定める「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」第3項により取り扱うものとする。
- 3 我が国の競技力向上を支援する観点より、日本国籍を有する者及び「永住者」については、日本における滞在期間に関わらず、本制度を活用できるものとする。ただし、「日本国籍を有する者および『永住者』」に該当しない者であっても、当該大会年の4月30日（冬季大会は前年の4月30日）以前から本大会終了時（冬季大会は各競技会終了時）まで継続的に日本に滞在している場合は、本制度を活用できるものとする。なお、やむを得ない事情により、一時的に日本を離れる場合は、総日数の半数を超えて日本で滞在していること。
- 4 「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。なお、一度登録した「ふるさと」は変更できないものとする。
- 5 「ふるさと」から参加する選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。
- 6 ふるさと選手制度の活用については、原則として、1回につき2年以上連続とし、利用できる回数は2回までとする。
- 7 参加都道府県は「ふるさと選手」を所定の様式、方法により、当該大会実施要項で定めた参加申込締切期日までに、日本スポーツ協会宛に提出する。

別記2 「『一家転住等』に伴う特例措置」

転校への特例

- 1 次の内容をすべて満たすことにより、国内移動選手の制限（国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③）に抵触しないものとする。
 - (1) この特例の対象は、「少年種別」への参加者に限る。
 - (2) 本特例を受けることができるのは、一家転住等やむを得ない理由に限ることとする。

なお「一家転住等」とは概ね次のことを言う。

 - ア 親の転勤による一家の転居
 - イ 親の結婚、離婚による一家の転居
 - ウ 上記以外に、やむを得ない理由による一家の転居
 - (3) 転居した時点に応じて、以下の手続きを終了していること。
 - ア 本特例を受けようとする参加者は、下記2(1)の場合は転居元、下記2(2)の場合は転居先が属する都道府県体育・スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告すること。
 - イ 報告を受けた都道府県体育・スポーツ協会及び都道府県競技団体は、下記2(1)の場合は転居先、下記2(2)の場合は転居元が属する都道府県体育・スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告し了承を得ること。

- 2 本特例を受ける当該大会において、参加することができる都道府県は以下のとおりとする。
- (1) 転居した時点において、以下に該当する場合は転居元が属する都道府県から参加することができる。
 - ア 転居先が属する都道府県の代表が既に決定している場合
 - イ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表として既に決定している場合
 - ウ 当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表選考過程にある場合
 - (2) 転居した時点において、以下に該当する場合は転居先が属する都道府県から参加することができる。
 - ア 転居元が属する都道府県において、当該大会における都道府県代表の選考が開始されていない場合

別記3 「JOCエリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」

公益財団法人日本オリンピック委員会が実施する「JOCエリートアカデミー」に係る選手のうち、下記1に該当する者については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項〔国民スポーツ大会開催基準要項第8項第1号及び第10項第4号（参加資格及び年齢基準等）〕及び別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」に関し、次の2～4の特例を適用する。

1 対象者

- (1) 少年種別年齢域の選手でJOCエリートアカデミーに在籍する者
- (2) 成年種別年齢域の選手でJOCエリートアカデミーを修了した者、または同アカデミーに在籍する者

2 少年種別年齢域の選手の所属都道府県

本特例第1項-(1)に定める少年種別年齢域の選手は、その所属都道府県について、国民体スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-2)-②に定める「居住地を示す現住所」、「学校教育法第1条に規程する学校の所在地」、「勤務地」のほか、卒業小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

なお、同アカデミーへの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

3 成年種別年齢域の選手の「ふるさと」

本特例第1項-(2)に定める成年種別年齢域の選手は、別記1「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」第2項に定める卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県のほか、同アカデミーでの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を「ふるさと」とすることができる。

4 国内移動選手の制限に係る例外適用

本特例第1項-(1)に定める少年種別年齢域の選手が前回の大会（都道府県大会を含む）と異なる都道府県から参加する場合、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

[注] 本特例第1項-(2)に定める成年種別年齢域の選手については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③（国内移動選手の制限）の規定に従い取り扱うものとする。

5 その他

中央競技団体が国際競技力向上施策として独自に実施するアカデミー事業については、当該中央競技団体からの申請を踏まえ、当該事業の内容がJOCエリートアカデミーに準拠して実施されていることが、公益財団法人日本オリンピック委員会により確認された場合に限り、当該事業を本特例の対象に加えることができる。

別記4 「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

我が国の競技力向上を支援する観点より、一定の競技力を有する選手に対して、「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置（以下「本特例」という。）」を下記のとおり定める。

1 特例の対象となる選手

本特例の対象となる選手は、下記の条件のいずれかを満たす者とする。

- (1) 第32回オリンピック競技大会（2021年・東京）に参加した者。
 - (2) 2024年4月30日時点で、下記のいずれかに該当し、各中央競技団体が本特例の対象として認めた者
 - ア JOCオリンピック強化指定選手
 - イ 各競技（種目）における国内ランキング上位10位以内の者
 - ウ 中央競技団体が定めた強化指定選手
- ※ 強化指定ランクについては、各競技における全日本選手権大会入賞レベル以上のカテゴリーを対象とする。

2 特例の内容

(1) 予選会の免除

本特例の対象となる選手については、都道府県予選会及びブロック大会を経ずに国民スポーツ大会本大会に参加することができるものとする。ただし、ブロック大会実施競技種目・種別においては、当該都道府県代表選手又はチームがブロック大会に参加し、本大会参加枠を獲得している場合とする。

(2) 資格要件（日数要件の緩和）

本特例の対象となる選手が所属都道府県として「居住地を示す現住所」又は「勤務地」を選択する場合は、日数に関する要件を定めないこととし、以下のとおりとする。

ア 居住地を示す現住所

次の要件をいずれも満たすものとする。

- (ア) 2024年4月30日以前から大会終了時（2024年10月15日）まで引き続き、住民票記載の住所に存する都道府県において生活している実態があり、当該都道府県以外（海外を含む）において生活している実態がないこと。

なお、生活の実態については、下記要件により判断する。

- a 自ら所有する住居、又は自らの名義で住居を賃借していること
- b 当該住居に生計を一にする家族と共に住んでいること
- c 当該住居の水道光熱費など費用を自ら負担していること
- d 当該住居に主要な家財道具が存すること

- (イ) 合宿、試合等により当該都道府県外で活動を行う場合、当該都道府県を移動の起点としていること。

イ 勤務地

次の要件をいずれも満たすものとする。

- (ア) 2024年4月30日以前から大会終了時（2024年10月15日）まで引き続き、雇用主と雇用契約を締結した上で、当該都道府県内に存する雇用主の会社や事業所等に現実に通勤し、勤務していること。
- (イ) 当該都道府県内で、競技普及活動等の事業に参加すること。

3 国内移動選手の制限

本特例の対象となる選手の国内移動選手の制限については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③のとおりとする。

別記5 「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況及び影響等を総合的に勘案し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県との6県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

2 特例の内容

(1) 特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手及び監督は、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア 2011年3月11日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ 災害が発生しなかったと仮定した場合、2024年4月30日以前から大会終了時（2024年10月15日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

(2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手及び監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第77回または2023年開催の特別大会に当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ア) 2011年3月11日時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

(イ) 移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が2024年4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

【注】「居住地を示す現住所」及び「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出又は学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学している実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から2023年開催の特別大会または第78回大会に参加した者が、第79回大会において、以下のような震災にかかる理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

- 〈例〉 ○ 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合
 ○ 避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする場合
 ○ 他の都道府県に避難先を移す場合
- (3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア 卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地

イ 災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校または高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2011年度から2012年度（小学校は2015年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者。

別記6 「能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

1 特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況および影響等を総合的に勘案し、新潟県、富山県、石川県、福井県の4県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

2 特例の内容

(1) 特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手および監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア 2024年1月1日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ 災害が発生しなかったと仮定した場合、2024年4月30日以前から当該大会終了時（2024年10月15日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

(2) 避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア 被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手および監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第77回大会または2023年開催の特別大会に、当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③（国内移動選手の制限）には抵触

しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ア) 2024年1月1日時点において、当該特例対象県内に居住または勤務していた者。もしくは当該特例対象県内の「学校教育法」第1条に規定する学校に在籍していた者であること。

(イ) 移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が2024年4月30日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

[注] 「居住地を示す現住所」および「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出または学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学している実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ 本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から2023年開催の特別大会または第78回大会に参加した者が、第79回大会において、以下のような震災に係る理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第3項-(1)-1)-③(国内移動選手の制限)には抵触しないものとする。

〈例〉 ○ 避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○ 避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」または「勤務地」とする場合

○ 他の都道府県に避難先を移す場合

(3) 避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア 卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地

イ 災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校または高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校または卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2024年度から2025年度(小学校は2028年度)までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校または高等学校を卒業した者。

柔道競技実施要項

1 期 日 2024年10月12日（土）から10月14日（月）まで（3日間）

種 別	10月12日（土）	10月13日（日）	10月14日（月）
成年男子		決勝戦まで	
女 子			決勝戦まで
少年男子	3回戦まで	決勝戦まで	

2 会 場 佐賀市 SAGAサンライズパーク SAGAアリーナ

3 種別及び参加人員

種 別	監 督	選 手	参加都道府県	小 計	合計（人）
成年男子	1	5	18	108	522
女 子	1	5	22	132	
少年男子	1	5	47	282	

※ 成年選手は監督を兼任することができる。

4 競技上の規程及び方法

- (1) 最新の国際柔道連盟試合審判規程で行う。
- (2) 試合時間は4分とし、勝敗の決定基準は「一本」「技あり」「僅差」とする。「僅差」とは双方の選手間に技による評価がない、または同等の場合、「指導」差が2以上あった場合に少ない選手を「僅差」による優勢勝ちとする。得点差が無く、かつ「指導」差が1以内の場合は「引き分け」とする。
- (3) チーム間の勝敗決定方法
 - ア 勝者数の多い方を勝ちとする。
 - イ アで同等の場合は、「一本勝ち」（それと同等の勝ちを含む）による勝者数の多いチームを勝ちとする。
 - ウ イで同等の場合は、「技あり」による勝利数の多いチームを勝ちとする。
 - エ ウで同等の場合は、「引き分け」であった対戦の中から抽選で1組を選び、時間無制限のゴールデンスコア方式の代表戦により、勝敗を決する。（先に「技あり」以上の技評価を得た選手が勝ちとなり、先に「反則負け」を与えられた選手が負けとなる。）

また、「引き分け」の対戦がない場合は、「両者反則負け」等で勝敗が決していない対戦の中から1組を選出する。

なお、代表戦において「両者反則負け」等で勝敗が決まらない場合は、その代表戦を再試合とする。

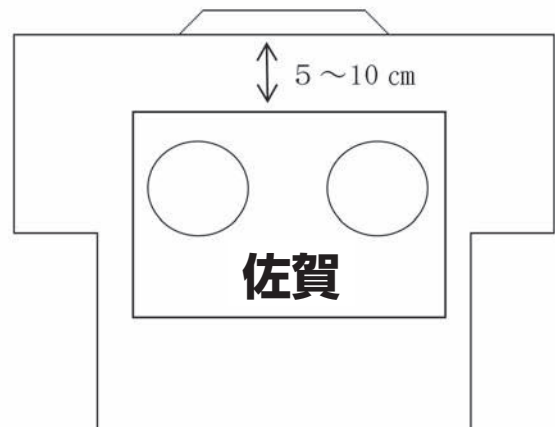
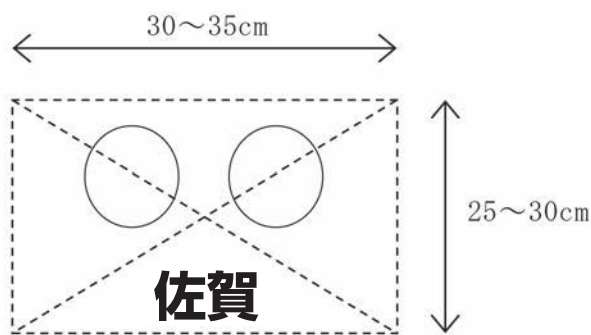
- (4) 各種別ともトーナメント方式とし、3位決定戦を行う。
- (5) 柔道衣は、全柔連柔道衣規格に適合した柔道衣（上衣、下穿はIJF赤ラベル及び「JU」から始まる赤文字のみ可、帯はIJF赤、青ラベル及び「JU」から始まる赤文字、黒文字全て可）とする。
- (6) 柔道衣（背中）には、必ず下記の要領で所属都道府県名と苗字（姓）を明示したゼッケンを縫い付ける。（ゼッケンの重ね縫いは禁止する。）

【例】

図1 ゼッケンの縫い付け方

図2 ゼッケンの位置

◎ゼッケンは強い糸で図示のように縫い付けること。



- ① 図1の-----の部分（縦横ならびに対角線）を縫い付けること。
- ② 図2のとおり、後ろ襟から5~10cm下部に縫い付けること。
- ③ 苗字を上側2/3、都道府県名を下側1/3に記載すること。
- ④ 書体は楷書で、太いゴシック体または明朝体とし、男子は黒色、女子は濃赤色。
- ⑤ サイズは縦25~30cm、横30~35cmとする。

5 予選方法

- (1) 各都道府県は、種別ごとに都道府県大会を実施し、ブロック大会に出場する代表を決定する。ただし、少年男子の代表は、ブロック大会を行わないで本大会に出場できる。
- (2) 各ブロック大会の主管都道府県は、本大会実施要項に準じてブロック大会を実施し、本大会に出場する代表を決定する。
- (3) 各ブロック大会の主管都道府県は、各ブロック大会終了後、速やかにその大会の試合成績結果（参加チーム名も含む）を公益財団法人全日本柔道連盟に届け出なければならない。

(4) ブロック大会の所属都道府県及びその選抜代表チーム数は、下記のとおりとする。

ブロック名	都 道 府 県 名	成年男子	女 子
北海道	北海道	1	1
東 北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	2	2
関 東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨	4	5
北信越	新潟、長野、富山、石川、福井	1	1
東 海	静岡、愛知、三重、岐阜	1	2
近 畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	3	3
中 国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	1	2
四 国	香川、徳島、愛媛、高知	1	1
九 州	福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	3	4
開催県	佐賀	1	1
計		18	22

6 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

総則5に定めるもののほか、次による。

- (1) 参加者は公益財団法人全日本柔道連盟に登録しており、登録をした都道府県からのみ参加できる。
- (2) 成年男子及び女子種別に「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」で参加する者は、登録を行った都道府県にかかわらず、該当する都道府県から参加できる。
- (3) 監督は、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく、公認柔道コーチ1、公認柔道コーチ2、公認柔道コーチ3、公認柔道コーチ4のいずれかの資格を有し、かつ、公益財団法人全日本柔道連盟公認柔道指導者格制度に基づく、AまたはB指導員の資格を有する者。
- (4) 女子及び成年男子の本大会に参加する選手は、原則としてブロック大会に出場した選手とする。
- (5) 選手の配列順位

ア 成年男子

選手は、先鋒（体重60kg以下の者）、次鋒（体重60kgを超え73kg以下の者）、中堅（体重73kgを超え90kg以下の者）、副将（体重90kgを超える者）、大将（体重無差別）の順に配列すること。

イ 女 子

選手は、先鋒（体重52kg以下の少年）、次鋒（体重57kg以下の成年）、中堅（体重52kgを超え63kg以下の少年）、副将（体重63kgを超え78kg以下の少年）、大将（体重無差別の成年）の順に配列すること。

※ 出場都道府県の実情に応じて次鋒、大将のいずれかを少年種別年齢域の者とすることも可能とする。

ウ 少年男子

選手は、先鋒（体重60kg以下の者）、次鋒（体重60kgを超え73kg以下の者）、中堅（体重73kgを超え90kg以下の者）、副将（体重90kgを超え100kg以下の者）、大将（体重無差別）の順に配列すること。

(6) 選手は、下記の計量（計量器には1回限り上がることができる）に合格すること。

ただし、大将（体重無差別）として出場する選手は計量を行わない為、帯同しなくてもよい。

※ 計量場所は少年男子・成年男子・女子とも同一とする。

ア 少年男子

日 時 2024年10月11日（金）
非公式計量 午後2時30分～午後3時30分
公式計量 午後3時30分～午後4時30分

イ 成年男子

日 時 2024年10月12日（土）
非公式計量 午後3時～午後4時
公式計量 午後4時～午後4時30分

ウ 女 子

日 時 2024年10月13日（日）
非公式計量 午後3時～午後4時
公式計量 午後4時～午後4時30分
場 所 SAGAサンライズパーク SAGAアリーナ 1階 サブアリーナ
〒849-0923 佐賀県佐賀市日の出二丁目1番10号
TEL 0952-32-4070 FAX 0952-32-4070

(7) 選手の年齢基準

ア 成年種別に参加する者は、2006年4月1日以前に生まれた者とする。

イ 少年種別に参加する者は、2006年4月2日以降に生まれた者とする。ただし、中学生以下の生徒及び児童は参加することができない。

7 総合成績決定方法

男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に順位を決定する。

ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

(1) 競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競 技 得 点
成 年 男 子 女 子 少 年 男 子	女 子	各種別とも1位40点、2位35点、3位30点、4位25点、5位（4チーム）各12.5点の競技得点を与える。

(2) 参加得点

大会（ブロック大会を含む）に参加した都道府県に10点を与える。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

8 表彰

- (1) 男女総合成績及び女子総合成績第1位から第8位までの都道府県に、表彰状を授与する。
- (2) 男女総合成績第1位の都道府県に、大会会長トロフィーを授与する。
- (3) 各種別の第1位から第5位（4チーム）までに、賞状を授与する。

9 参加申込み方法

- (1) 所定のWebページ（国民スポーツ大会参加申込システム）へアクセスし、必要項目を入力の上、所属都道府県体育・スポーツ協会を通じて2024年9月4日（水）までに申込み手続きを完了すること。
- (2) 締切期限以降は、所定のWebページ（国民スポーツ大会参加申込システム）へアクセスできなくなるので、締切期限を厳守すること。
- (3) 参加申込みの選手が、負傷等のため参加不可能の場合は、他の選手をもって代えることができる。ただし、公益財団法人全日本柔道連盟の選考による国際大会等への派遣以外の他大会出場を目的とした変更は認めない。
- (4) 上記(3)により選手を変更する場合は、2024年10月10日（木）午後5時までに下記ア、イ、ウに所定の手続きを完了しなければならない。負傷、疾病を理由とする変更の場合は、医師の診断書を（原本をア、コピーをイ、ウ）提出すること。ただし、出場順序の変更は認めない。

ア 〒112-0003 東京都文京区春日一丁目16番30号 講道館5階

公益財団法人全日本柔道連盟

TEL 03-3818-4392 FAX 03-3812-3995

イ 〒840-8570 佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号

SAGA2024実行委員会事務局

（佐賀県SAGA2024・SSP推進局

SAGA2024競技運営チーム 国民スポーツ大会担当）

TEL 0952-25-7405 FAX 0952-25-7354

ウ 〒840-0831 佐賀県佐賀市松原一丁目3番5号 まるなかビル4階

SAGA2024佐賀市実行委員会事務局

（佐賀市国スポ・全障スポ推進部 国スポ・全障スポ競技課）

TEL 0952-40-7347 FAX 0952-20-5008

なお、公益財団法人日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、別途、所定の手続きにより参加申込み情報を修正すること。

- (5) 監督の変更は、監督会議前までに書面にて届け出ること。

10 その他

(1) 組合せ抽選会

日 時 2024年9月9日（月） 午後4時
場 所 公益財団法人全日本柔道連盟内会議室
〒112-0003 東京都文京区春日一丁目16番30号 講道館内
TEL 03-3818-4199 FAX 03-3812-3995

(2) 審判会議

日 時 2024年10月11日（金） 午後3時
場 所 SAGAサンライズパーク SAGAアリーナ 1階 諸室
〒849-0923 佐賀県佐賀市日の出二丁目1番10号
TEL 0952-32-4070 FAX 0952-32-4070

(3) 監督会議

日 時 2024年10月11日（金） 午後5時
場 所 SAGAサンライズパーク SAGAアリーナ 1階 諸室
〒849-0923 佐賀県佐賀市日の出二丁目1番10号
TEL 0952-32-4070 FAX 0952-32-4070

※ 監督会議には、各都道府県代表の監督1名のみが必ず出席すること。

※ 服装は、正装または各都道府県のユニフォームとする。

(4) 表彰式

日 時 少年男子、成年男子 2024年10月13日（日） 競技終了後
女子、男女総合 2024年10月14日（月） 競技終了後
場 所 SAGAサンライズパーク SAGAアリーナ
〒849-0923 佐賀県佐賀市日の出二丁目1番10号
TEL 0952-32-4070 FAX 0952-32-4070

(5) 競技開始時間

全日とも午前9時競技開始

(6) 練習（アップ）会場及び開放時間

月 日（曜）	練習（アップ）会場及び開放時間		
	SAGAアリーナ 1階 サブアリーナ 練習会場①（4面）	SAGAアリーナ 1階 サブアリーナ 練習会場②（4面）	佐賀商業高校 柔道場
10月10日（木）	13時～17時まで	13時～17時まで	13時～16時まで
10月11日（金）	9時～15時30分まで	9時～15時30分まで	9時～16時まで
10月12日（土）	7時～競技終了まで	※7時～競技終了まで	9時～16時まで
10月13日（日）	7時～競技終了まで	※7時～競技終了まで	9時～16時まで
10月14日（月）	7時～競技終了まで	※7時～競技終了まで	

※10月12日（土）～14日（月）は、当該日に試合のある種別のみ、サブアリーナ練習会場②を使用可能とする。

表彰式次第

少年男子表彰式

期日 令和6年10月13日（日）
 時間 11：50 開始予定
 場所 SAGAアリーナ

順序	次 第
1	開 式 通 告
2	選 手 団 入 場
3	少 年 男 子 成 績 発 表
4	少 年 男 子 表 彰 状 授 与
5	閉 式 通 告
6	選 手 団 退 場

成年男子表彰式

期日 令和6年10月13日（日）
 時間 16：10 開始予定
 場所 SAGAアリーナ

順序	次 第
1	開 式 通 告
2	選 手 団 入 場
3	成 年 男 子 成 績 発 表
4	成 年 男 子 表 彰 状 授 与
5	閉 式 通 告
6	選 手 団 退 場

女子・女子総合表彰式 男女総合表彰式

期日 令和6年10月14日（月）
 時間 14：00 開始予定
 場所 SAGAアリーナ

順序	次 第
1	開 式 通 告
2	選 手 団 入 場
3	女 子 ・ 女 子 総 合 成 績 発 表
4	女 子 ・ 女 子 総 合 表 彰 状 授 与
5	男 女 総 合 成 績 発 表

順序	次 第
6	男 女 総 合 表 彰 状 授 与
7	大 会 会 長 ト ロ フ ィ ー 授 与
8	歓 送 の こ と ば
9	競 技 会 終 了 宣 言
10	選 手 団 退 場

投 の 形

取 片渕 健太郎 四段

演武者

受 山口 元明 四段

投げの形は、手技、腰技、足技、真捨身技、横捨身技の五つに分類され、数多い技の中からそれぞれ代表的な技を三本ずつ選び組み合わせたもので、相手をいかに崩し、自分を作りいかに投げるか、また受はその技をいかにして受けるかというように基本を理解、体得するために柔道の原理に基づいて制定されたものである。

－手技－

浮落（うきおとし）
背負投（せおいなげ）
肩車（かたぐるま）

－真捨身技－

巴投（ともえなげ）
裏投（うらなげ）
隅返（すみがえし）

－腰技－

浮腰（うきごし）
払腰（はらいごし）
釣込腰（つりこみごし）

－横捨身技－

横掛（よこがけ）
横車（よこぐるま）
浮技（うきわざ）

－足技－

送足払（おくりあしはらい）
支釣込足（ささえつりこみあし）
内股（うちまた）

古 式 の 形

取 山口 龍徳 八段
演武者
受 榑崎 誠 六段

「古式の形」は、嘉納治五郎師範が講道館柔道を創設される以前に学ばれた柔術、起倒流が技術的にも形の理論においても、また精神の修養においても非常に有効適切であると認められ、概ねそのまま講道館「古式の形」として遺されたものである。この形は、住時の武士が甲冑を身につけた鎧組討の投技を主としたもので、表の形14本、裏の形7本から組み立てられている。表は心を平静にして莊重優雅、一挙一動に攻撃、防御を正確にし、裏は敏速果敢に動作し、柔道における攻防の理を發揮した深淵な形である。

－ 表 －

体（たい）
夢中（ゆめのうち）
力避（りょくひ）
水車（みずぐるま）
水流（みずながれ）
曳落（ひきおとし）
虚倒（こだおれ）
打碎（うちくだき）
谷落（たにおとし）
車倒（くるまだおれ）
鋳取（しころどり）
鋳返（しころがえし）
夕立（ゆうだち）
滝落（たきおとし）

－ 裏 －

身碎（みくだき）
車返（くるまがえし）
水入（みずいり）
柳雪（りゅうせつ）
坂落（さかおとし）
雪折（ゆきおれ）
岩波（いわなみ）

NO! スポハラ

スポーツ・ハラスメント（暴力、暴言、ハラスメントなど）に、
みんなが『NO！』と言う社会を目指して

『スポハラ（スポーツ・ハラスメント）』とは？

「スポハラ（スポーツ・ハラスメント）」とは、スポーツの現場において、「暴力」、「暴言」、「ハラスメント」、「差別」など“安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為”のことです。

指導者と指導を受ける者との関係のみならず、スポーツの現場における関係者の誰によっても、また誰に対してであっても、スポハラは起こりえます。



スポーツくじ WINNER 0000 BIG
この活動は、スポーツ振興化助成金を受けて実施しています

『スポハラ』根絶に向けた取組み



JSPPO

Japan Sport Association

NO! スポハラ

スポーツ・ハラスメント

(暴力・暴言・ハラスメントなど)に、

みんなが『NO!』と言う社会を目指して



ぼうりよくこういとうそうだんまどぐち スポーツにおける暴力行為等相談窓口

相談員



りょうかのう
どなたでもご利用可能!

きがる そうだん
お気軽にご相談ください

スポーツにおける暴力行為等根絶宣言・
スポーツ・インテグリティ確保に関する協力覚書



JSPPO事業についてはこちら>>>>JSPPO事業概要パンフレット「スポーツと、望む未来へ。」



『スポハラ』根絶に向けた取組み



グッドコーチとして適切に対応するための動画・ワークブックの公開

グッドコーチを目指して
＼グッドコーチなら？／ ＼バッドコーチなら？／

ケーススタディから考える



JSPPO グッドコーチ

スポーツ現場におけるハラスメント防止動画の公開

暴力 差別 セクシュアルハラスメント
パワーハラスメント 暴言 性的マイノリティを取り巻く問題

JSPPO ハラスメント防止

「NO！スポハラ」活動に関する各種広報資料・動画の公開

<過去開催した研修会等の動画公開>



<ポスター・ロゴ等広報ツール>



「NO！スポハラ」活動特設サイトにて公開中！

アスリートの盗撮、 写真・動画の悪用、 悪質なSNS投稿は 卑劣な行為です。

スポーツは、子供から大人まで誰もが楽しめるものです。そのためにも安心してスポーツに取り組める環境を守っていく必要があります。盗撮はもちろん、アスリートの写真・動画を使用した性的目的のSNS投稿やWEB掲載は、アスリート、更には多くのファン、家族、関係者を傷つける絶対に許されない卑劣な行為です。すべてのアスリートが競技に集中し、スポーツを心から楽しめる環境を守るため、スポーツ界全体でこの問題に取り組みます。

- ▶ 大会における盗撮防止事例を共有し、各大会での防止策の取り組みを後押しします。
- ▶ 研修等を通じ、アスリート自身がネットやSNSで身を守る必要性を啓発していきます。
- ▶ SNS投稿やWEB掲載の実態把握に努め、関係機関に共有していきます。

この問題を解決するには皆様のご理解が欠かせません。

これからも安心してスポーツができる環境を守るために、ご理解ご協力をお願いいたします。

安全な環境を、すべてのスポーツ愛好者のために。 SAVE ATHLETES, SAVE SPORT.

大会会場で盗撮等が疑われる行為を見かけましたら大会主催者にお知らせください。

アスリートを傷つける性的目的のSNS投稿やWEB掲載を見かけましたら下記サイトよりご連絡ください。今後の対応に活用するとともに、悪質な事例については当局への通報も検討します。

<https://www.joc.or.jp/about/savesport/>



- ▶ 盗撮は迷惑防止条例で犯罪として処罰される可能性があります。
- ▶ SNS等で本人の名誉を傷つける書き込みは犯罪(名誉毀損罪)として処罰される可能性があります。
- ▶ 匿名による投稿であっても、法的手続により、投稿者が特定され、損害賠償請求の対象になる可能性があります。

公益財団法人 日本オリンピック委員会 公益財団法人 日本スポーツ協会 公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会 一般社団法人 大学スポーツ協会
公益財団法人 全国高等学校体育連盟 公益財団法人 日本中学校体育連盟 独立行政法人 日本スポーツ振興センター



挑戦者たちは越えようとする。
記録を。ライバルを。自分自身を。
過去の常識も。世界の価値観さえも。
挑戦者たちこそあたらしい未来への原動力だ。
これまでも、そしてこれからも、
わたしたちは挑戦する人たちを応援します。
スポーツの持つ様々な可能性で、
望む未来へたどり着くために。



スポーツと、望む未来へ。

わたしたちは、JAPAN GAMES を応援しています。



セレスポ

時事通信



勝利を超える価値がある

私たちは信じる。

正々堂々と競いあう潔さを。

相手をリスペクトすることで生まれる友情や感動を。

まっすぐ挑戦しつづける、そこに、

自分や、仲間や、社会さえ変える力があることを。

さあ、すべては、私たちの中にある

フェアネスの心からはじまる。

スポーツのフェアネスが、社会のフェアネスを支えるために。



公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構

柔道競技会

競技・会議日程 組合せ



競技日程

【10月11日（金）】

審判会議	15:00～	会場：SAGAアリーナ 1階 諸室
監督会議	17:00～	

計量	少年男子	15:30～16:30	会場：SAGAアリーナ サブアリーナ
----	------	-------------	--------------------

【10月12日（土）】 第1日目

開始式	8:50～9:00	主催者挨拶・大会会長トロフィー返還				
少年男子	第1試合場		第2試合場		第3試合場	
1回戦	5試合	9:00～11:30	5試合	9:00～11:30	5試合	9:00～11:30
2回戦	5試合	11:30～14:00	5試合	11:30～14:00	6試合	11:30～14:30
3回戦	3試合	14:00～15:30	3試合	14:00～15:30	2試合	14:30～15:30

計量	成年男子	16:00～16:30	会場：SAGAアリーナ サブアリーナ
----	------	-------------	--------------------

【10月13日（日）】 第2日目

少年男子	第1試合場		第2試合場		第3試合場	
準々決勝	2試合	9:00～10:00	1試合	9:00～9:30	1試合	9:00～9:30
準決勝	1試合	10:05～10:35	1試合	10:05～10:35		
決勝戦 3位決定戦			1試合	(決勝戦) 10:40～11:10	1試合	(3位決定戦) 10:40～11:10
イベント	全日本柔道連盟によるイベント 11:15～11:45					
種別表彰式	少年男子		11:50～12:05			

【10月13日（日）】第2日目

成年男子	第1試合場		第2試合場		第3試合場	
1回戦			1試合	12:10~12:40	1試合	12:10~12:40
2回戦	3試合	12:10~13:40	3試合	12:40~14:10	2試合	12:40~13:40
準々決勝	2試合	13:40~14:40	1試合	14:10~14:40	1試合	13:40~14:10
準決勝	1試合	14:45~15:15	1試合	14:45~15:15		
決勝戦 3位決定戦			1試合	(決勝戦) 15:20~15:50	1試合	(3位決定戦) 15:20~15:50
公開演技	佐賀県柔道協会による演技 15:50~16:05					
種別表彰式	成年男子 16:10~16:25					

計量	女子	16:00~16:30	会場：SAGAアリーナ サブアリーナ
----	----	-------------	--------------------

【10月14日（月）】第3日目

女子	第1試合場		第2試合場		第3試合場	
1回戦	2試合	9:00~10:00	2試合	9:00~10:00	2試合	9:00~10:00
2回戦	3試合	10:00~11:30	3試合	10:00~11:30	2試合	10:00~11:00
準々決勝	1試合	11:30~12:00	1試合	11:30~12:00	2試合	11:30~12:30
準決勝	1試合	12:35~13:05	1試合	12:35~13:05		
決勝戦 3位決定戦			1試合	(決勝戦) 13:10~13:40	1試合	(3位決定戦) 13:10~13:40
公開演技	佐賀県柔道協会による演技 13:40~13:55					
種別表彰式 表彰式	女子・男女総合 14:00~14:20					

※時間等は、試合の進行状況等により変更となる場合がありますのでご了承ください。

組合せ表

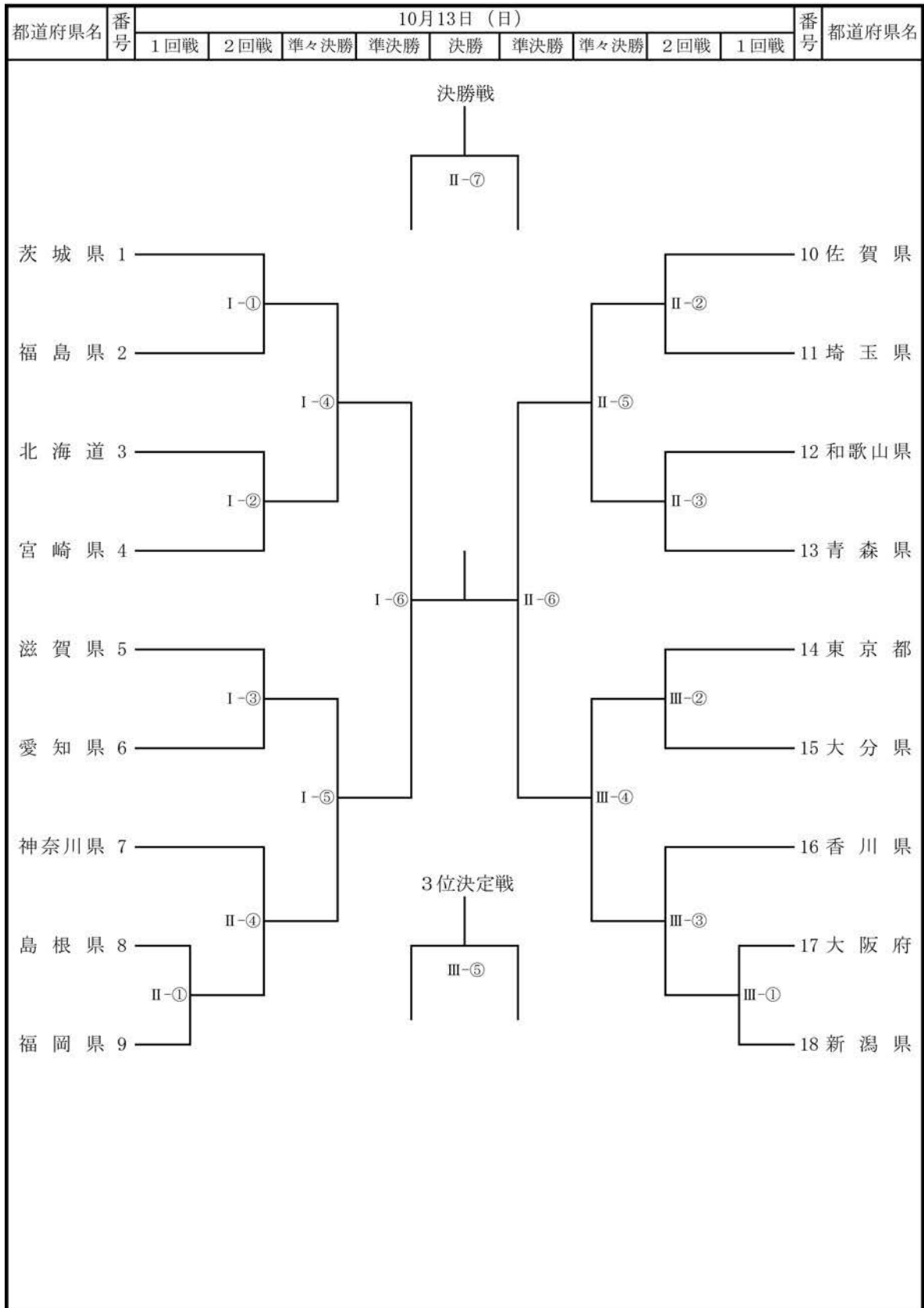
【少年男子】

都道府県名	番号	10月12日(土)			10月13日(日)					10月12日(土)			番号	都道府県名
		1回戦	2回戦	3回戦	準々決勝	準決勝	決勝	準決勝	準々決勝	3回戦	2回戦	1回戦		
東京都	1													24 神奈川県
岡山県	2													25 鹿児島県
滋賀県	3													26 兵庫県
高知県	4													27 静岡県
佐賀県	5													28 秋田県
愛知県	6													29 石川県
群馬県	7													30 千葉県
富山県	8													31 鳥取県
北海道	9													32 岩手県
山形県	10													33 長野県
宮崎県	11													34 熊本県
埼玉県	12													35 徳島県
岐阜県	13													36 島根県
大阪府	14													37 大分県
長崎県	15													38 茨城県
福井県	16													39 愛媛県
宮城県	17													40 京都府
栃木県	18													41 新潟県
和歌山県	19													42 福岡県
青森県	20													43 福島県
香川県	21													44 奈良県
沖縄県	22													45 山梨県
山口県	23													46 三重県
														47 広島県

※ ローマ数字は試合場、○数字は試合順序を示す。

組 合 せ 表

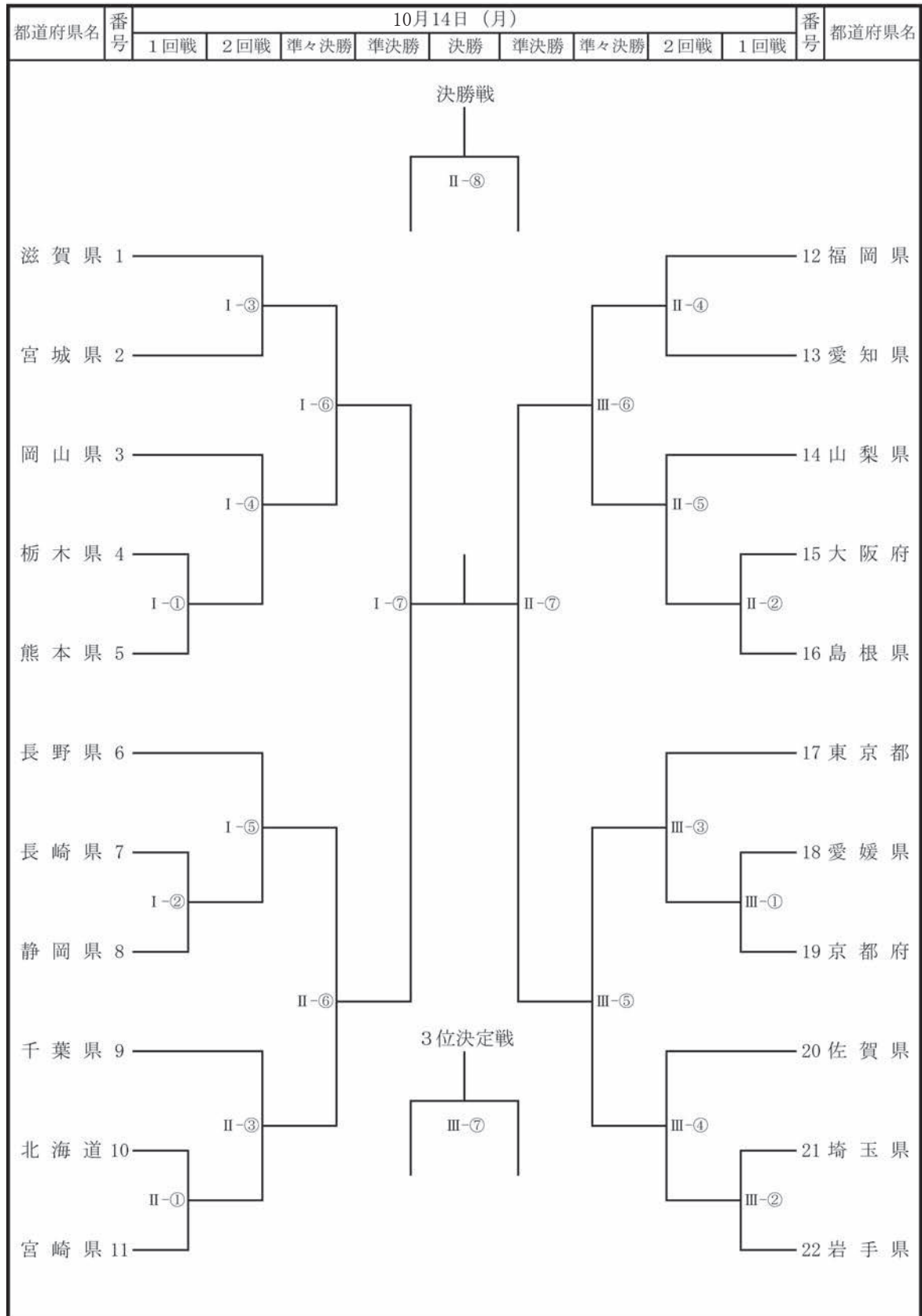
【成 年 男 子】



※ ローマ数字は試合場、○数字は試合順序を示す。

組 合 せ 表

【女 子】



※ ローマ数字は試合場、○数字は試合順序を示す。

IJF技名称一覧

投技[68本]	腰技 / 10本	送足払	裏投	固技[32本]	片羽絞
手技 / 16本	浮腰	内股	横捨身技 / 16本	【抑込技】 10本	片手絞
背負投	大腰	小外掛	横落	袈裟固	両手絞
一本背負投	腰車	足車	谷落	崩袈裟固	袖車絞
背負落	釣込腰	払釣込足	跳巻込	後袈裟固	突込絞
体落	袖釣込腰	大車	外巻込	肩固	三角絞
肩車	払腰	大外車	内巻込	上四方固	胴絞
抱投	釣腰	大外落	浮技	崩上四方固	関節技 / 10本
帯落	跳腰	燕返	横分	横四方固	腕縛
浮落	移腰	大外返	横車	縦四方固	腕挫十字固
隅落	後腰	大内返	横掛	浮固	腕挫腕固
山嵐	足技 / 21本	跳腰返	抱分	裏固	腕挫膝固
帯取返	出足払	払腰返	大外巻込	絞技 / 12本	腕挫腋固
双手刈	膝車	内股返	内股巻込	並十字絞	腕挫腹固
朽木倒	支釣込足	真捨身技 / 5本	払巻込	逆十字絞	腕挫脚固
踵返	大外刈	巴投	小内巻込	片十字絞	腕挫手固
内股すかし	大内刈	隅返	蟹挟	裸絞	腕挫三角固
小内返	小外刈	引込返	河津掛	送襟絞	足縛
	小内刈	俵返			

国際大会で
よく見られる
技解説



【内股】
相手を真前、または右(左)前隅に崩し、右(左)脚を相手の両脚の間に振り入れ、後ろ股で内股を払い上げて投げる技



【大外刈】
相手を真後、または右(左)後隅に崩し、右(左)脚で、相手の体重の乗っている右(左)脚を、刈り上げて後方へ倒す技



【背負投】
相手を真前、または右(左)前隅に崩し、右(左)脚を相手の右(左)腋下に入れて、相手の身体を背後に背負い上げ、右(左)肩越しに投げる技



【隅返】
相手を真前、または右(左)前隅に崩し、その脚下に仰向けに身体を捨てながら、右(左)すねのあたりで相手の左(右)脚の内縁を踏む上げ、前方へ投げる技



【袈裟固】
相手を肩から脇へ、斜めに抑え込む技。そのとき、右(左)足は前、左(右)足は後に(フランスよく舞き、膝が立たないように置く)



【送襟絞】
相手後方から、一方の手で相手の襟襟を握り、他方の手は膝下からその反対側を握って、両手を引き絞るようにして頸部を絞める



【腕挫十字固】
相手の肘関節を逆に伸ばして極める関節技。相手の腕を足で挟み、自分の股を支点として相手の肘関節を逆に曲げる

都道府県別参加数一覧

番号	都道府県	少年男子		成年男子		女子		合計		
		監督	選手	監督	選手	監督	選手	監督	選手	総計
1	北海道	1	5	1	5	1	5	3	15	18
2	青森県	1	5	1	5			2	10	12
3	岩手県	1	5			1	5	2	10	12
4	宮城県	1	5			1	5	2	10	12
5	秋田県	1	5					1	5	6
6	山形県	1	5					1	5	6
7	福島県	1	5	1	5			2	10	12
8	茨城県	1	5	1	5			2	10	12
9	栃木県	1	5			1	5	2	10	12
10	群馬県	1	5					1	5	6
11	埼玉県	1	5	1	5	1	5	3	15	18
12	千葉県	1	5			1	5	2	10	12
13	東京都	1	5	1	5	1	5	3	15	18
14	神奈川県	1	5	1	5			2	10	12
15	山梨県	1	5			1	5	2	10	12
16	新潟県	1	5	1	5			2	10	12
17	長野県	1	5			1	5	2	10	12
18	富山県	1	5					1	5	6
19	石川県	1	5					1	5	6
20	福井県	1	5					1	5	6
21	静岡県	1	5			1	5	2	10	12
22	愛知県	1	5	1	5	1	5	3	15	18
23	三重県	1	5					1	5	6
24	岐阜県	1	5					1	5	6
25	滋賀県	1	5	1	5	1	5	3	15	18
26	京都府	1	5			1	5	2	10	12
27	大阪府	1	5	1	5	1	5	3	15	18
28	兵庫県	1	5					1	5	6
29	奈良県	1	5					1	5	6
30	和歌山県	1	5	1	5			2	10	12
31	鳥取県	1	5					1	5	6
32	島根県	1	5	1	5	1	5	3	15	18
33	岡山県	1	5			1	5	2	10	12
34	広島県	1	5					1	5	6
35	山口県	1	5					1	5	6
36	香川県	1	5	1	5			2	10	12
37	徳島県	1	5					1	5	6
38	愛媛県	1	5			1	5	2	10	12
39	高知県	1	5					1	5	6
40	福岡県	1	5	1	5	1	5	3	15	18
41	佐賀県	1	5	1	5	1	5	3	15	18
42	長崎県	1	5			1	5	2	10	12
43	熊本県	1	5			1	5	2	10	12
44	大分県	1	5	1	5			2	10	12
45	宮崎県	1	5	1	5	1	5	3	15	18
46	鹿児島県	1	5					1	5	6
47	沖縄県	1	5					1	5	6
総計		47	235	18	90	22	110	87	435	522

選手・監督名簿（少年男子）

【少年男子】

地区	都道府県名	配列順位	段位	氏名	所属
北海道	北海道	監督	七段	酒井伸哉	北海道千歳高等学校（教）
		先鋒	二段	濱野健人	北海高等学校
		次鋒	初段	夏坂匠平	北海高等学校
		中堅	二段	加藤弘樹	東海大学付属札幌高等学校
		副将	二段	西岡烈志	東海大学付属札幌高等学校
		大将	二段	神山功大	東海大学付属札幌高等学校
東北	青森県	監督	五段	對馬一樹	青森県立青森北高等学校（教）
		先鋒	初段	長谷部巧弥	青森県立八戸西高等学校
		次鋒	初段	沼尾矯太	青森県立青森北高等学校
		中堅	初段	伊勢輝	青森山田高等学校
		副将	初段	山部晴生	青森県立青森北高等学校
		大将	初段	野辺地宇宙	青森県立青森北高等学校
	岩手県	監督	五段	菅原歩巴	岩手県立盛岡南高等学校（教）
		先鋒	初段	小竹祥太	盛岡大学附属高等学校
		次鋒	二段	大堰悠矢	岩手県立盛岡南高等学校
		中堅	二段	佐々木優大	盛岡大学附属高等学校
		副将	二段	三浦志斗	盛岡大学附属高等学校
		大将	二段	鳴原翼	盛岡中央高等学校
	宮城県	監督	六段	三浦剛	古川工業高等学校（教）
		先鋒	二段	橋本晃大	東北高等学校
		次鋒	二段	鈴木蓮臣	東北高等学校
		中堅	二段	戸井田悠暉	東北高等学校
		副将	二段	相馬陽斗	東北高等学校
		大将	初段	佐々木侠峨	仙台育英学園高等学校
	秋田県	監督	六段	我妻沢美	秋田県立秋田工業高等学校（教）
		先鋒	初段	佐々木道和	秋田県立秋田高等学校
		次鋒	初段	阿部颯大	秋田県立本荘高等学校
		中堅	初段	藤井統司	秋田県立秋田工業高等学校
		副将	初段	武藤大河	秋田県立秋田工業高等学校
		大将	初段	加藤謙太	秋田県立秋田工業高等学校
山形県	監督	五段	安食秀利	新庄東高等学校（教）	
	先鋒	初段	玉屋好多郎	米沢中央高等学校	
	次鋒	初段	高橋嬉有	新庄東高等学校	
	中堅	初段	庄司翔	羽黒高等学校	
	副将	初段	後藤博	羽黒高等学校	
	大将	二段	松田擁	山形県立山形工業高等学校	
福島県	監督	五段	船川健一	東日本国際大学附属昌平高等学校（教）	
	先鋒	初段	丹内翔太	福島県立田村高等学校	
	次鋒	初段	菅野桜暉	福島県立田村高等学校	
	中堅	初段	片山謙心	福島県立田村高等学校	
	副将	初段	我妻賢吾	福島県立田村高等学校	
	大将	初段	齋藤翔惺	福島県立田村高等学校	

【少年男子】

地 区	都道府県名	配列順位	段位	氏 名	所 属
関 東	茨城県	監督	五段	木 川 大 蔵	茨城県立牛久高等学校 (教)
		先鋒	初段	藤 田 恒 輝	水戸啓明高等学校
		次鋒	初段	大 塚 康 平	水戸啓明高等学校
		中堅	初段	根 本 竜 希	つくば秀英高等学校
		副将	初段	中 村 剛 希	水戸啓明高等学校
		大将	初段	星 拓 西	つくば秀英高等学校
	栃木県	監督	六段	関 口 敬	栃木県立黒磯高等学校 (教)
		先鋒	初段	白 沢 佳 大	作新学院高等学校
		次鋒	初段	吉 村 颯 太	白鷗大学足利高等学校
		中堅	初段	柴 田 陽	白鷗大学足利高等学校
		副将	初段	田 中 柔 伎	國學院大學栃木高等学校
		大将	二段	黒 田 佑 斗	白鷗大学足利高等学校
	群馬県	監督	六段	梶 澤 亮 介	群馬県立前橋商業高等学校 (教)
		先鋒	初段	岩 下 幸 誠	桐生第一高等学校
		次鋒	初段	樋 口 劉 輝	群馬県立前橋商業高等学校
		中堅	初段	佐 野 幸 助	群馬県立前橋商業高等学校
		副将	初段	由 永 健 二	群馬県立前橋商業高等学校
		大将	初段	湯 上 大 和	群馬県立前橋商業高等学校
	埼玉県	監督	六段	川 原 篤	埼玉栄高等学校 (教)
		先鋒	初段	石 堂 将 輝	武蔵越生高等学校
		次鋒	初段	村 山 悠 希	埼玉栄高等学校
		中堅	初段	北 村 斗 麗	埼玉栄高等学校
		副将	初段	平 野 匠 啓	埼玉栄高等学校
		大将	初段	堀 悠 隼	埼玉栄高等学校
	千葉県	監督	六段	近 野 貞 治	木更津総合高等学校 (教)
		先鋒	初段	伊 藤 悠 葵	木更津総合高等学校
		次鋒	初段	新 井 善 心	木更津総合高等学校
		中堅	初段	津 本 隼 牙	木更津総合高等学校
		副将	初段	小 川 栄 樹	木更津総合高等学校
		大将	初段	三 木 清 夢	木更津総合高等学校
東京都	監督	六段	大 森 淳 司	修徳高等学校 (教)	
	先鋒	初段	長谷川 讓 希	足立学園高等学校	
	次鋒	初段	荒 川 琉 正	足立学園高等学校	
	中堅	初段	福 島 稜	日本体育大学荏原高等学校	
	副将	初段	鏑 木 克 優	足立学園高等学校	
	大将	初段	望 月 陸	修徳高等学校	
神奈川県	監督	五段	水 落 健 太	東海大学付属相模高等学校 (教)	
	先鋒	初段	大 柿 遼 馬	東海大学付属相模高等学校	
	次鋒	二段	野 中 海 心	桐蔭学園高等学校	
	中堅	初段	ナコスティン 王未土	東海大学付属相模高等学校	
	副将	初段	竹 内 檜	東海大学付属相模高等学校	
	大将	初段	井 上 大 智	東海大学付属相模高等学校	

【少年男子】

地区	都道府県名	配列順位	段位	氏名	所属
関東	山梨県	監督	四段	内山 亮	東海大学付属甲府高等学校 (教)
		先鋒	初段	伊野 匠 郎	東海大学付属甲府高等学校
		次鋒	初段	寺沢 龍之介	東海大学付属甲府高等学校
		中堅	初段	山口 賢 哉	東海大学付属甲府高等学校
		副将	初段	佐々木 翔 光	東海大学付属甲府高等学校
		大将	初段	三 瓶 悠 貴	東海大学付属甲府高等学校
北信越	新潟県	監督	六段	橘 川 義 弘	県立上越総合技術高校 (教)
		先鋒	初段	島 崎 宗 真	開志国際高等学校
		次鋒	二段	大 井 祐 空	県立新潟工業高等学校
		中堅	初段	遠 藤 正 太	開志国際高等学校
		副将	初段	新 妻 颯 斗	開志国際高等学校
		大将	初段	稲 井 大 翔	開志国際高等学校
	長野県	監督	六段	手 塚 裕 司	松商学園高等学校 (教)
		先鋒	初段	中 村 太 一	佐久長聖高等学校
		次鋒	二段	末 永 壯 毅	佐久長聖高等学校
		中堅	初段	牛 木 利 幸	松本第一高等学校
		副将	二段	大 林 健 人	佐久長聖高等学校
		大将	初段	小 林 寛 希	東海大学付属諏訪高等学校
	富山県	監督	七段	高 波 善 行	新湊高等学校 (教)
		先鋒	初段	高 田 遥 大	小杉高等学校
		次鋒	二段	古 澤 大 地	小杉高等学校
		中堅	初段	大 井 玄 太	小杉高等学校
		副将	初段	萩 原 璃 久	小杉高等学校
		大将	二段	江 島 優 吾	小杉高等学校
	石川県	監督	五段	松 山 御勇大	石川県立羽咋工業高等学校 (教)
		先鋒	初段	北 野 慎之祐	石川県立羽咋工業高等学校
		次鋒	初段	喜 多 雄 大	石川県立津幡高等学校
		中堅	初段	深 谷 悠 聖	石川県立津幡高等学校
		副将	初段	岡 田 鳳之介	石川県立津幡高等学校
		大将	二段	浅 田 峻 輔	石川県立津幡高等学校
福井県	監督	五段	大 柿 直	福井工業大学附属福井高等学校 (教)	
	先鋒	初段	宮 田 陽 光	福井工業大学附属福井高等学校	
	次鋒	初段	野 川 楓 生	福井工業大学附属福井高等学校	
	中堅	初段	林 夏 生	北陸高等学校	
	副将	初段	玉 木 大 心	福井工業大学附属福井高等学校	
	大将	初段	バトマン アマル アムガレン	福井工業大学附属福井高等学校	
東海	静岡県	監督	六段	渡 部 直 樹	静岡学園高等学校 (教)
		先鋒	二段	石 川 健	静岡学園高等学校
		次鋒	初段	長 屋 進	加藤学園高等学校
		中堅	二段	川 合 遼	静岡学園高等学校
		副将	二段	佐 藤 然 治	加藤学園高等学校
		大将	二段	大 橋 弘 誠	静岡学園高等学校

【少年男子】

地区	都道府県名	配列順位	段位	氏名	所属
東海	愛知県	監督	六段	田 寫 之 貴	桜丘高等学校 (教)
		先鋒	二段	山 本 風 来	大成高等学校
		次鋒	二段	徳 田 憲 政	大成高等学校
		中堅	二段	岡 本 欣 也	大成高等学校
		副将	二段	山 本 虎 太 郎	大成高等学校
		大将	初段	時 田 開 仁	大成高等学校
	三重県	監督	五段	稲 澤 真 人	三重県立名張高等学校 (教)
		先鋒	初段	山 科 裕 紀	三重県立名張高等学校
		次鋒	初段	伊 藤 朔 也	三重県立亀山高等学校
		中堅	初段	堂 崎 義 喜	三重県立名張高等学校
		副将	初段	太 田 寛 汰	三重県立四日市中央工業高等学校
		大将	初段	中 井 夢 人	三重県立名張高等学校
	岐阜県	監督	四段	後 藤 哲 史	美濃加茂高等学校 (教)
		先鋒	二段	南 祐 稀	大垣日本大学高等学校
		次鋒	初段	高 見 夏 気	中京高等学校
		中堅	初段	春 日 玲 臣	大垣日本大学高等学校
		副将	初段	後 藤 洸 樹	大垣日本大学高等学校
		大将	初段	井 上 雅 也	大垣日本大学高等学校
近畿	滋賀県	監督	五段	向江村 和 也	近江高等学校 (教)
		先鋒	初段	小 中 一 樹	比叡山高等学校
		次鋒	初段	酒 井 桧 成	比叡山高等学校
		中堅	初段	南 橙	近江高等学校
		副将	初段	吉 岡 稟 太 朗	比叡山高等学校
		大将	初段	長 澤 颯 良	近江高等学校
	京都府	監督	五段	柿 原 功 二	京都共栄学園高等学校 (教)
		先鋒	初段	勝 原 琉 生	京都先端科学大学附属高等学校
		次鋒	初段	近 藤 溪 龍	京都先端科学大学附属高等学校
		中堅	初段	小 松 優 真	龍谷大学付属平安高等学校
		副将	初段	上 野 健 太	京都先端科学大学附属高等学校
		大将	初段	大 堀 雄 大	京都文教高等学校
	大阪府	監督	五段	奥 村 達 郎	東海大学付属大阪仰星高等学校 (教)
		先鋒	初段	大 東 飛 馬	関西大学北陽高等学校
		次鋒	初段	稲 田 堅 真	近畿大学附属高等学校
		中堅	二段	森 本 総 司	東海大学付属大阪仰星高等学校
		副将	初段	西 留 琉 一 郎	大阪商業大学高等学校
		大将	初段	田 伸 海	金光藤蔭高等学校
	兵庫県	監督	五段	榮 大 輔	育英高等学校 (教)
		先鋒	初段	中 嶋 郁	東洋大学附属姫路高等学校
		次鋒	初段	堀 尾 瑛 太	育英高等学校
		中堅	初段	千々和 晃 輝	神港学園高等学校
		副将	初段	佐 伯 博 司	神港学園高等学校
		大将	初段	岡 本 樹 梨 按	東洋大学附属姫路高等学校

【少年男子】

地区	都道府県名	配列順位	段位	氏名	所属
近畿	奈良県	監督	四段	齋藤 涼	天理高等学校(教)
		先鋒	初段	小林 歩遥	天理高等学校
		次鋒	初段	伊川 滉大	天理高等学校
		中堅	初段	朝田 心	天理高等学校
		副将	初段	齋藤 豪騎	天理高等学校
		大将	初段	瀬川 賢豪	天理高等学校
	和歌山県	監督	五段	藤永 馨	和歌山県立箕島高等学校(教)
		先鋒	初段	橋間 心暖	初芝橋本高等学校
		次鋒	二段	砂子 陽輝	和歌山県立箕島高等学校
		中堅	初段	橋中 駿	初芝橋本高等学校
		副将	初段	吉田 直輝	和歌山県立和歌山北高等学校
		大将	二段	石本 智也	和歌山県立箕島高等学校
中国	鳥取県	監督	五段	奥谷 祐介	学校法人松柏学院倉吉北高等学校(教)
		先鋒	初段	石井 晴菜	学校法人松柏学院倉吉北高等学校
		次鋒	初段	小篠 凌真	鳥取県立米子東高等学校
		中堅	二段	樽谷 武	学校法人松柏学院倉吉北高等学校
		副将	初段	大橋 能智	学校法人松柏学院倉吉北高等学校
		大将	初段	幕田 涼介	学校法人松柏学院倉吉北高等学校
	島根県	監督	七段	下田 尚	開星高等学校(教)
		先鋒	初段	吉岡 祥	開星高等学校
		次鋒	初段	畝本 泰聖	開星高等学校
		中堅	初段	山岡 大悟	開星高等学校
		副将	初段	寺田 圭吾	開星高等学校
		大将	初段	藤本 暖留	開星高等学校
	岡山県	監督	五段	川野 一道	作陽学園高等学校(教)
		先鋒	初段	宮川 琉来	作陽学園高等学校
		次鋒	初段	土橋 迅	作陽学園高等学校
		中堅	初段	神田 琉亮	作陽学園高等学校
		副将	初段	野坂 英矢	作陽学園高等学校
		大将	初段	中田 泰輔	作陽学園高等学校
	広島県	監督	七段	加美 富章	崇徳高等学校(教)
		先鋒	二段	大野 颯斗	広島工業大学高等学校
		次鋒	初段	三河内 陸至	崇徳高等学校
		中堅	初段	村上 雅紀	崇徳高等学校
		副将	初段	中濱 洋希	崇徳高等学校
		大将	初段	寺本 竜彦	崇徳高等学校
山口県	監督	四段	三坂 涉	山口県立萩高等学校(教)	
	先鋒	初段	大野 悠史	高川学園高等学校	
	次鋒	二段	河野 太一	山口県立萩高等学校	
	中堅	初段	西岡 大騎	高川学園高等学校	
	副将	二段	有泉 天晴	高川学園高等学校	
	大将	二段	家本 興志郎	高川学園高等学校	

【少年男子】

地 区	都道府県名	配列順位	段位	氏 名	所 属
四 国	香川県	監督	五段	高 木 俊 介	県立志度高等学校 (教)
		先鋒	初段	大 山 魁 莉	坂出第一高等学校
		次鋒	初段	生 南 師 導	英明高等学校
		中堅	初段	佐々木 啓 志	高松商業高等学校
		副将	初段	西 村 涼	高松商業高等学校
		大将	初段	江 藤 知 樹	坂出第一高等学校
	徳島県	監督	五段	志 磨 健 太	鳴門渦潮高等学校 (教)
		先鋒	初段	小 松 飛 翔	鳴門渦潮高等学校
		次鋒	二段	田 村 英 明	阿波高等学校
		中堅	二段	中 川 柊 人	阿波高等学校
		副将	二段	保 川 璃 音	阿波高等学校
		大将	初段	藤 本 陸久斗	鳴門渦潮高等学校
	愛媛県	監督	五段	法 兼 真	新田高等学校 (教)
		先鋒	初段	尾 崎 廉	新田高等学校
		次鋒	初段	湯 山 肇 八	新田高等学校
		中堅	二段	伊 藤 大 造	愛媛県立宇和島東高等学校
		副将	二段	浜 村 武 蔵	愛媛県立宇和島東高等学校
		大将	初段	矢 間 司	愛媛県立松山北高等学校
	高知県	監督	五段	藤 澤 征 憲	高知県立岡豊高等学校(教)
		先鋒	初段	中 内 暖 人	高知高等学校
		次鋒	初段	安 岡 快 晟	高知県立岡豊高等学校
中堅		初段	スクバット エンフオチラル	明德義塾高等学校	
副将		初段	山 中 海 心	高知県立岡豊高等学校	
大将		初段	野 口 侑 真	明德義塾高等学校	
九 州	福岡県	監督	六段	乙 部 将 彦	福岡県立朝倉光陽高等学校 (教)
		先鋒	初段	平 松 侍	大牟田高等学校
		次鋒	二段	吉 岡 良 磨	大牟田高等学校
		中堅	初段	秋 吉 航 輔	大牟田高等学校
		副将	初段	竹 下 智 哉	福岡大学附属大濠高等学校
		大将	初段	森 元 壮 琉	福岡大学附属大濠高等学校
	佐賀県	監督	四段	井 上 安 弘	佐賀県立佐賀商業高等学校 (教)
		先鋒	初段	茶 圓 實 人	佐賀商業高等学校
		次鋒	初段	宮 永 啓 吾	佐賀商業高等学校
		中堅	初段	武 田 陽 大	佐賀商業高等学校
		副将	初段	池 田 快	佐賀北高等学校
		大将	初段	野 中 颯 汰	佐賀商業高等学校
	長崎県	監督	七段	平 井 浩一郎	青雲高等学校 (教)
		先鋒	初段	吉 田 壮 汰	長崎日本大学高等学校
		次鋒	二段	堀 暁 登	長崎県立長崎東高等学校
		中堅	初段	川 口 克 希	長崎日本大学高等学校
		副将	初段	松 本 龍 樹	長崎日本大学高等学校
		大将	初段	木 村 成 吾	長崎日本大学高等学校

【少年男子】

地区	都道府県名	配列順位	段位	氏名	所属
九州	熊本県	監督	六段	中川 太志	熊本県立鹿本高等学校(教)
		先鋒	初段	天川 泰典	九州学院高等学校
		次鋒	初段	江原 優粋	開新高等学校
		中堅	二段	村上 希龍	九州学院高等学校
		副将	初段	内山 慶人	九州学院高等学校
		大将	初段	高倉 菖悟	九州学院高等学校
	大分県	監督	五段	安部 尚武	大分東明高等学校(教)
		先鋒	初段	吉村 悠之介	吉用学園柳ヶ浦高等学校
		次鋒	二段	澤 永一豊	吉用学園柳ヶ浦高等学校
		中堅	初段	芦 苺輝真	国東高等学校
		副将	無	ウガンバヤル ムンゲンウチラル	吉用学園柳ヶ浦高等学校
		大将	初段	高村 守	国東高等学校
	宮崎県	監督	五段	佐藤 嘉剛	延岡学園高等学校(教)
		先鋒	初段	落合 栄斗	日章学園高等学校
		次鋒	初段	佐藤 匠馬	延岡学園高等学校
		中堅	初段	戸高 連之介	延岡学園高等学校
		副将	初段	小城 亜門	宮崎日本大学高等学校
		大将	初段	新藤 翔	延岡学園高等学校
	鹿児島県	監督	六段	横 峯 亨	鹿児島実業高等学校(教)
		先鋒	二段	瀬戸上 泰将	鹿児島情報高等学校
		次鋒	二段	五反田 翔平	鹿児島情報高等学校
		中堅	初段	村山 由亜	鹿児島県立鹿児島工業高等学校
		副将	初段	指宿 蕉伍	鹿児島情報高等学校
		大将	初段	徳永 丈	鹿児島県立種子島中央高等学校
沖縄県	監督	六段	新垣 琢也	沖縄尚学高等学校(教)	
	先鋒	初段	渡邊 進太	沖縄尚学高等学校	
	次鋒	初段	知念 琉稀	那覇西高等学校	
	中堅	初段	玉城 大和	沖縄尚学高等学校	
	副将	初段	宮城 祐雅	沖縄尚学高等学校	
	大将	初段	新藤 聖也	沖縄尚学高等学校	

選手・監督名簿（成年男子）

【成年男子】

地 区	都道府県名	配列順位	段位	氏 名	所 属
北海道	北海道	監督	五段	伊 藤 誠 一	札幌山の手高等学校（教）
		先鋒	三段	鷺 見 仁 義	北海道警察本部
		次鋒	四段	鎌 田 龍 翔	札幌刑務所
		中堅	二段	石 田 幸 伸	天理大学
		副将	二段	川 島 溪 太	筑波大学
		大将	三段	佐 藤 大 輔	秀和ビルメンテナンス(株)
東 北	青森県	監督	六段	佐々木 智 哉	青森県警察
		先鋒	二段	中 里 羽 汰	札幌大学
		次鋒	三段	三 上 京 史	弘前大学
		中堅	四段	神 成 太 壽	青森県刑務所
		副将	四段	船 橋 龍之介	青森県刑務所
		大将	三段	田 中 大 勝	三沢柔道協会
	福島県	監督	六段	鈴 木 克 成	福島県警察
		先鋒	三段	吉 田 健 人	小野町柔道会
		次鋒	五段	丸 山 勇 輝	福島県警察
		中堅	二段	杉 山 海	センコー株式会社
		副将	三段	平 根 喜代次	福島刑務所
		大将	三段	小 松 基	福島県警察
関 東	茨城県	監督	六段	湯 田 圭 一	茨城県警察
		先鋒	二段	白 金 宏 都	筑波大学
		次鋒	三段	西願寺 哲 平	関彰商事株式会社
		中堅	三段	田 中 英二郎	センコー株式会社
		副将	三段	石 川 竜 多	センコー株式会社
		大将	三段	戸 高 淳之介	筑波大学
	埼玉県	監督	七段	手 塚 勝 彦	埼玉県警察
		先鋒	二段	磯 野 隆太郎	筑波大学
		次鋒	四段	古 谷 亮 太	自衛隊体育学校
		中堅	四段	前 田 宗 哉	自衛隊体育学校
		副将	三段	岩 田 歩 夢	埼玉県警察
		大将	四段	高 橋 翼	旭化成株式会社
	東京都	監督	六段	小 橋 秀 規	ALSOK
		先鋒	三段	井 上 拓 茉	帝京科学大学（職）
		次鋒	四段	武 岡 毅	パーク24株式会社
		中堅	四段	田 嶋 剛 希	パーク24株式会社
		副将	五段	香 川 大 吾	ALSOK
		大将	五段	影 浦 心	日本中央競馬会
	神奈川県	監督	七段	鏑 木 文 隆	慶應義塾高等学校（教）
		先鋒	四段	森 下 北 斗	神奈川県警察
		次鋒	四段	古 賀 颯 人	慶應義塾高等学校（教）
中堅		四段	加 藤 慎之助	皇宮警察	
副将		四段	飯 田 健太郎	旭化成	
大将		四段	山 下 魁 輝	神奈川県警察	

【成年男子】

地区	都道府県名	配列順位	段位	氏名	所属
北信越	新潟県	監督	五段	今井敏博	新潟総合警備保障(株)
		先鋒	三段	井上創太	新潟食料農業大学
		次鋒	三段	池田晴紀	新潟県警察
		中堅	三段	丸山晃志	新潟県警察
		副将	五段	五十嵐遼介	新潟県警察
		大将	四段	星野太駆	新潟県警察
東海	愛知県	監督	七段	芳森信吾	愛知県警察
		先鋒	四段	羽田野航	愛知県警察
		次鋒	三段	大久保竜希	東海大学
		中堅	四段	古居頌悟	愛知県警察
		副将	五段	近藤弘孝	愛知県警察
		大将	三段	上田轄麻	日本製鉄(株)
近畿	滋賀県	監督	六段	岩永孝英	滋賀県警察
		先鋒	初段	福田大和	天理大学
		次鋒	二段	秋田伯	天理大学
		中堅	三段	北川侑瑚	東海大学
		副将	三段	関根聖隆	公益財団法人滋賀県スポーツ協会
		大将	三段	酒井晃輝	東レエンジニアリング西日本株式会社
	大阪府	監督	六段	横山喬之	摂南大学(教)
		先鋒	三段	渡邊勇	東海げんき整骨院柔道クラブ
		次鋒	三段	初山航大	OGAWA警備株式会社
		中堅	四段	脇谷恭行	大阪府警察
		副将	五段	松井海斗	大阪府警察
		大将	三段	服部大喜	大阪府警察
	和歌山県	監督	五段	高橋雄哉	ソニー生命保険株式会社
		先鋒	三段	東翔陽	和歌山県警察
		次鋒	四段	青木優治	和歌山県警察
		中堅	三段	尾上進介	京都刑務所
		副将	三段	鈴木太陽	天理大学
		大将	三段	久野壱虎	皇宮警察
中国	鳥根県	監督	六段	志波良徳	鳥根あさひ社会復帰促進センター
		先鋒	二段	畝本伊吹	日本体育大学
		次鋒	二段	南波大成	岡山商科大学
		中堅	三段	田窪成将	つくばユナイテッド
		副将	三段	上田虎徹	開星高等学校(教)
		大将	二段	佐々木優大	明誠高等学校(教)
四国	香川県	監督	六段	六車武倫	香川県警察
		先鋒	二段	田中心	順天堂大学
		次鋒	二段	松本開登	順天堂大学
		中堅	三段	藤原裕季	香川県警察
		副将	四段	岩崎恒紀	香川県警察
		大将	四段	高木育純	香川県警察

【成年男子】

地区	都道府県名	配列順位	段位	氏名	所属
九州	福岡県	監督	七段	中嶋靖宏	福岡県警察
		先鋒	三段	田中克輝	天理大学
		次鋒	三段	下川純司	福岡刑務所
		中堅	四段	笠原大雅	福岡県警察
		副将	三段	田中慎太郎	福岡県警察
		大将	四段	植岡虎太郎	日本製鉄(株)
	佐賀県	監督	六段	寺戸健	佐賀北高等学校(教)
		先鋒	四段	近藤隼斗	パーク24株式会社
		次鋒	二段	田中龍雅	筑波大学
		中堅	三段	小畑大樹	ひらまつ病院
		副将	五段	ウルフアロン	パーク24株式会社
		大将	五段	松雪直斗	福岡県警察
	大分県	監督	五段	赤尾将吾	日本文理大学(職)
		先鋒	二段	南太陽	日本文理大学
		次鋒	五段	中村一那	大分県警察
		中堅	三段	吉野弘人	株式会社戸高鋳業社
		副将	三段	中島大貴	大分県警察
		大将	三段	梶原大裕	センコー株式会社
	宮崎県	監督	四段	吉田優也	旭化成株式会社
		先鋒	三段	森田将矢	センコー株式会社
		次鋒	三段	小原龍太郎	宮崎県警察
中堅		五段	山平隆太	宮崎県警察	
副将		三段	鈴木直登	旭化成株式会社	
大将		四段	千野根有我	旭化成株式会社	

選手・監督名簿（女子）

【女子】

地区	都道府県名	配列順位	段位	氏名	所属
北海道	北海道	監督	六段	村瀬 秀行	旭川志峯高等学校（教）
		先鋒（少年）	初段	木村 結	北海高等学校
		次鋒（少年）	初段	大石 萌香	北海高等学校
		中堅（少年）	初段	本庄 萌々花	東海大学付属札幌高等学校
		副将（少年）	初段	高木 結希	北海高等学校
		大将（成年）	三段	杉本 梨々花	北海道警察本部
東北	岩手県	監督	六段	本波 邦盛	岩手県警察
		先鋒（少年）	二段	青山 桃花	盛岡中央高等学校
		次鋒（成年）	三段	鈴木 彩矢	帝京大学
		中堅（少年）	二段	坂下 歌音	岩手県立久慈東高等学校
		副将（少年）	初段	千田 ティアラ	岩手県立盛岡南高等学校
		大将（成年）	三段	千葉 ひとみ	岩手県警察
	宮城県	監督	五段	佐藤 明代	東北高等学校（教）
		先鋒（少年）	初段	佐藤 心美	東北高等学校
		次鋒（成年）	二段	坂口 千桜	仙台大学
		中堅（少年）	初段	工藤 千愛	東北高等学校
		副将（少年）	初段	菊池 悠菜	古川工業高等学校
		大将（成年）	四段	本山 星	宮城県警察
関東	栃木県	監督	四段	鳥谷部 真弓	（株）帝京サービス
		先鋒（少年）	初段	嶋田 怜乃愛	足利短期大学附属高等学校
		次鋒（成年）	三段	山口 芽瑠	北関東総合警備保障（株）
		中堅（少年）	初段	磯木 望心	足利短期大学附属高等学校
		副将（少年）	二段	酒井 結海	國學院大學栃木高等学校
		大将（成年）	三段	蓮尾 沙樹	北関東総合警備保障（株）
	埼玉県	監督	六段	川原 久乃	埼玉県立武道館
		先鋒（少年）	初段	吉澤 麗	栄北高等学校
		次鋒（成年）	三段	向江 紗良	センコー株式会社
		中堅（少年）	初段	井田 実来	埼玉栄高等学校
		副将（少年）	初段	原 波音	埼玉栄高等学校
		大将（成年）	三段	佐藤 果	センコー株式会社
	千葉県	監督	六段	浅野 繁	清和大学（職）
		先鋒（少年）	初段	小山 晶	木更津総合高等学校
		次鋒（成年）	四段	大和久 友佳	（株）千葉薬品
		中堅（少年）	初段	橋本 翔歩	木更津総合高等学校
		副将（少年）	初段	大前 暖佳	木更津総合高等学校
		大将（成年）	四段	泉 真生	（株）小松製作所
	東京都	監督	六段	酒井 健弥	淑徳中学高等学校（教）
		先鋒（少年）	二段	倉田 夏苗	淑徳高等学校
		次鋒（成年）	五段	柴田 理帆	JR東日本
		中堅（少年）	初段	小松 愛南	修徳高等学校
		副将（少年）	初段	岩田 菜々子	修徳高等学校
		大将（成年）	二段	長谷川 瑞紀	JR東日本

【女子】

地区	都道府県名	配列順位	段位	氏名	所属
関東	山梨県	監督	六段	矢 嵩 雄 大	富士学苑高等学校 (教)
		先鋒 (少年)	初段	太 田 和 花	富士学苑高等学校
		次鋒 (成年)	三段	七 野 柚 芽	山梨県警察
		中堅 (少年)	初段	木 下 汐 蘭	富士学苑高等学校
		副将 (少年)	初段	勝 又 美 涼	富士学苑高等学校
		大将 (成年)	二段	山 本 海 蘭	山梨学院大学
北信越	長野県	監督	五段	手 塚 明日香	平沢整骨院
		先鋒 (少年)	初段	永 田 夢 空	松商学園高等学校
		次鋒 (成年)	二段	鈴 木 直	立命館大学
		中堅 (少年)	初段	我 妻 結 凧	松商学園高等学校
		副将 (少年)	初段	椿 原 梨 央	松商学園高等学校
		大将 (成年)	三段	小 野 華菜恵	センコー株式会社
東海	静岡県	監督	六段	小 椋 俊 彦	静岡県警察
		先鋒 (少年)	初段	村 松 杏 咲	藤枝順心高等学校
		次鋒 (成年)	三段	小 林 美 咲	静岡県警察
		中堅 (少年)	二段	永 田 りん子	東海大学付属静岡翔洋高等学校
		副将 (少年)	二段	中 道 咲 桜	東海大学付属静岡翔洋高等学校
		大将 (成年)	三段	米 川 明 穂	コマツ
	愛知県	監督	七段	石 田 輝 也	大成高等学校 (教)
		先鋒 (少年)	初段	松 井 叶 望	大成高等学校
		次鋒 (成年)	三段	黒 木 七都美	(株)アドヴィックス
		中堅 (少年)	初段	榊 原 佑 月	大成高等学校
		副将 (少年)	二段	西 野 愛 華	大成高等学校
		大将 (成年)	三段	和 田 梨乃子	パーク24(株)
近畿	滋賀県	監督	五段	米 富 和 郎	比叡山高等学校 (教)
		先鋒 (少年)	二段	大 井 彩 蓮	比叡山高等学校
		次鋒 (成年)	三段	足 達 実 佳	大阪府警察
		中堅 (少年)	初段	木 村 穂 花	比叡山高等学校
		副将 (少年)	初段	林 桃	比叡山高等学校
		大将 (成年)	二段	本 田 万 結	東海大学
	京都府	監督	五段	堀 田 幸 宏	龍谷大学 (職)
		先鋒 (少年)	初段	増 山 一 智	京都先端科学大学附属高等学校
		次鋒 (成年)	三段	武 田 優 香	三井住友海上火災保険株式会社
		中堅 (少年)	初段	大久保 麗	立命館宇治高等学校
		副将 (少年)	初段	千 田 梨 瑚	京都文教高等学校
		大将 (成年)	三段	勝 部 桃	センコー株式会社
	大阪府	監督	六段	北 晃	大阪府立汎愛高等学校 (教)
		先鋒 (少年)	初段	谷 口 陸 稀	常翔学園高等学校
		次鋒 (成年)	三段	佐 藤 晴 菜	日本エースサポート株式会社
		中堅 (少年)	初段	大 枝 朱	大阪商業大学高等学校
		副将 (少年)	初段	上 垣 妙	大阪商業大学高等学校
		大将 (成年)	三段	竹 村 安 生	近畿大学

【女子】

地区	都道府県名	配列順位	段位	氏名	所属
中国	島根県	監督	五段	高橋 拓	島根県立平田高等学校(教)
		先鋒(少年)	二段	田口 舞桜	出雲西高等学校
		次鋒(成年)	三段	三浦 瑛奈	明誠高等学校(職)
		中堅(少年)	二段	福田 さくら	島根県立平田高等学校
		副将(少年)	二段	石原 歩美	出雲西高等学校
		大将(成年)	二段	小山内 桃華	創柔会柔道クラブ
	岡山県	監督	五段	佐野 哲朗	創志学園高等学校(教)
		先鋒(少年)	初段	白金 里桜	創志学園高等学校
		次鋒(成年)	二段	山下 明純	環太平洋大学
		中堅(少年)	初段	吉武 千穂	創志学園高等学校
副将(少年)		初段	濱本 さくら	創志学園高等学校	
大将(成年)	三段	椋木 美希	環太平洋大学		
四国	愛媛県	監督	五段	高橋 俊行	新田高等学校(教)
		先鋒(少年)	初段	堀内 夕桜菜	新田高等学校
		次鋒(成年)	四段	立川 莉奈	公益財団法人四国中央市スポーツ協会
		中堅(少年)	初段	八木 愛梨	新田高等学校
		副将(少年)	二段	上甲 華	愛媛県立宇和島東高等学校
		大将(成年)	三段	立川 桃	ALSOK
九州	福岡県	監督	五段	泉 麻生	福岡工業大学(職)
		先鋒(少年)	初段	大塚 翔稀	敬愛高等学校
		次鋒(成年)	三段	西尾 果連	JR九州
		中堅(少年)	初段	本田 里來	敬愛高等学校
		副将(少年)	初段	大多和 心	敬愛高等学校
		大将(成年)	四段	梅津 志悠	JR九州
	佐賀県	監督	三段	井上 めぐみ	佐賀商業高等学校(職)
		先鋒(少年)	初段	長谷 心美	佐賀商業高等学校
		次鋒(成年)	三段	渡辺 世奈	ひらまつ病院
		中堅(少年)	初段	清水 優陸	佐賀商業高等学校
		副将(少年)	初段	田中 あい	佐賀商業高等学校
		大将(成年)	三段	橋口 茉央	東海大学
	長崎県	監督	七段	小森 輝喜	長崎県立長崎明誠高等学校(職)
		先鋒(少年)	初段	山出 愛子	長崎県立長崎明誠高等学校
		次鋒(成年)	三段	瀬戸口 栞南	光仁会病院
		中堅(少年)	初段	荒木 心乃夏	長崎県立長崎明誠高等学校
		副将(少年)	初段	田端 日菜理	長崎県立長崎明誠高等学校
		大将(成年)	四段	坂口 今日香	長崎県警察
熊本県	監督	六段	穴井 和之	熊本県立阿蘇中央高等学校(教)	
	先鋒(少年)	二段	吉永 碧衣	九州学院高等学校	
	次鋒(成年)	二段	藤原 千史	東京学芸大学	
	中堅(少年)	二段	八石 羽菜	九州学院高等学校	
	副将(少年)	初段	中川 心	熊本県立熊本西高等学校	
	大将(成年)	二段	平見 美咲	福岡大学	

【女子】

地区	都道府県名	配列順位	段位	氏名	所属
九州	宮崎県	監督	五段	白 阪 憲 介	宮崎日本大学高等学校 (教)
		先鋒 (少年)	初段	植 田 こころ	宮崎日本大学高等学校
		次鋒 (成年)	三段	古 城 菜南美	東京学芸大学
		中堅 (少年)	初段	平 野 遥	小林西高等学校
		副将 (少年)	初段	川 口 彩 絵	鵬翔高等学校
		大将 (成年)	初段	岩 永 里 穂	近畿大学

柔道競技成績採点方法

男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に順位を決定する。

ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

1 競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競技得点
成年男子 女子 少年男子	女子	各種別とも1位40点、2位35点、3位30点、4位25点、5位（4チーム）各12.5点の競技得点を与える。

2 参加得点

大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に10点を与える。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

男女総合（天皇杯得点）成績一覧表

種別順位得点 都道府県名		成年男子		女子		少年男子		参加得点	合計	順位
		順位	競技得点	順位	競技得点	順位	競技得点			
1	北海道									
2	青森県									
3	岩手県									
4	宮城県									
5	秋田県									
6	山形県									
7	福島県									
8	茨城県									
9	栃木県									
10	群馬県									
11	埼玉県									
12	千葉県									
13	東京都									
14	神奈川県									
15	山梨県									
16	新潟県									
17	長野県									
18	富山県									
19	石川県									
20	福井県									
21	静岡県									
22	愛知県									
23	三重県									
24	岐阜県									
25	滋賀県									
26	京都府									
27	大阪府									
28	兵庫県									
29	奈良県									
30	和歌山県									
31	鳥取県									
32	島根県									
33	岡山県									
34	広島県									
35	山口県									
36	香川県									
37	徳島県									
38	愛媛県									
39	高知県									
40	福岡県									
41	佐賀県									
42	長崎県									
43	熊本県									
44	大分県									
45	宮崎県									
46	鹿児島県									
47	沖縄県									

女子総合（皇后杯得点）成績一覧表

都道府県名	種別順位得点		参加得点	合計	順位
	順位	女子 競技得点			
1	北海道				
2	青森県				
3	岩手県				
4	宮城県				
5	秋田県				
6	山形県				
7	福島県				
8	茨城県				
9	栃木県				
10	群馬県				
11	埼玉県				
12	千葉県				
13	東京都				
14	神奈川県				
15	山梨県				
16	新潟県				
17	長野県				
18	富山県				
19	石川県				
20	福井県				
21	静岡県				
22	愛知県				
23	三重県				
24	岐阜県				
25	滋賀県				
26	京都府				
27	大阪府				
28	兵庫県				
29	奈良県				
30	和歌山県				
31	鳥取県				
32	島根県				
33	岡山県				
34	広島県				
35	山口県				
36	香川県				
37	徳島県				
38	愛媛県				
39	高知県				
40	福岡県				
41	佐賀県				
42	長崎県				
43	熊本県				
44	大分県				
45	宮崎県				
46	鹿児島県				
47	沖縄県				

過去成績一覽表 (1)

回	場 所	1 位	2 位	3 位
48 第3回 オープン 競技	昭和23年 10月31日(日) 福岡県直方市 多賀神社境内仮設道場	関東・九州対抗 関東 大澤 慶己 草野 静夫 水谷 英男 館山 利一 田中 安太郎 大阪 禎三 川村 敏郎 醍醐 敏郎 江藤 辰五郎 山口 利雄 新居 清 吹野 英臣 市原 豊吉	九州 石橋 弥一郎 安武 均 高濱 正之 田中 (國) 隅丸 五郎 甲斐 利行 中村 良三 田 潤 博 馬場 忠道 生野 義夫 西山 親 橋本 大野	善一 利男 角 政敏 東 五藏 奥田 富行 橋本 新藏 吉田 常男 中村 光雄 香月 清光 戸高 義彦 吉松 安 松本 政彦 木村 政彦
	11月1日(月) 福岡県太宰府町 太宰府天満宮境内仮設道場	地区対抗 東京 川村 禎三 山口 利雄 羽鳥 輝久 平野 時男 醍醐 敏郎 藤森 徳衛 石川 隆彦	九州 香月 光雄 宮川 善一 戸高 清光 吉田 新藏 吉松 義彦 中村 常男 松本 安市	関東 吹野 英臣 館山 利一 大阪 安太郎 新居 清 近畿 栗津 正藏 山本 博 伊勢 茂一 中井 三右衛門
	11月2日(火)	個人 東京 平野 時男	東京 羽鳥 輝久	東京 醍醐 敏郎 九州 香月 光雄
49 第4回 オープン 競技	昭和24年 11月3日(木) 東京都文京区 講道館	団体 東京 伊藤 信夫 水谷 英男 醍醐 敏郎	石川 幸山 彰一 森 幸次郎 伴庭 一秀	熊本 徳永 賢二 伊東 弘三 河田 弥久茂左衛門 青森 吉田 啓益 柳谷 勝雄 上野 孫吉
50 第5回	昭和25年 10月30日(月)~ 31日(火) 愛知県名古屋 鶴舞公園名古屋ホール	府県対抗 鹿児島 湯川 忍 出之口 正伸 吉松 義彦	長崎 尾田 義一 松永 正則 宮川 善一	大阪 奥田 治雄 福留 吉久 安部 一郎
		地区対抗 九州 重松 正夫 中島 博康 橋本 富行 甲斐 利行 吉松 義彦	東北 千葉 平次 松橋 成男 高橋 正四 鳥谷 一美 岩淵 信	四国 黒田 成昭 仙波 邦夫 秋澤 庄市 湊 基之 西原 基之
51 第6回	昭和26年 10月28日(日)~ 29日(月) 広島県福山市 延広八幡宮特設道場	府県対抗 福岡 久保山 隆 中島 博康 重松 正夫 松本 安市	兵庫 新田 富士男 加藤 文雄 柄本 芳孝 中村 常男	大分 三井 (治) 松尾 正人 佐藤 為昭 藤原 謙次
		個人一般 佐賀 谷口 和昭	愛媛 岡山 長年	島根 土肥 貢
		個人高校 福岡 久保山 隆	京都 菱山 清一郎	福井 五十嵐 昭雄

過去成績一覽表 (2)

回	場 所	1 位	2 位	3 位	位	
52 第 7 回	昭和 27 年 10 月 20 日(月) ~ 21 日(火) 福島県会津若松市 謹教小学校	一般男子	東京 曾飯坂谷伊 根田入口藤 康忠市和信 治男三昭夫	神奈川 寺大角柄朝 田杉田本飛 榮忠昭芳速 一男司孝夫	広島 高村下隱榊 橋田内居 幸常実忠範 雄義夫夫人	愛知 水 and 古飯伊 谷田川沼藤 一勝省忠秀 郎弘三夫雄
		高校男子	福岡 古江安 賀藤達 正公秀 躬明則	熊本 林田今 島村 英春 登介雄	鹿児島 脇松川 田下内 晴三信 己郎哉	和歌山 南北滝 条川 徹清嘉 治二明
53 第 8 回	昭和 28 年 10 月 23 日(金) ~ 24 日(土) 愛媛県新居浜市 新居浜市体育館	一般男子	神奈川 星井白土柄 野上橋川本 哲春森昭芳 弥男男一孝	大阪 堀高加矢西 田浦藤野岡 秀利辰 浩雄雄男弘	福岡 小橋井岩橋 田部上村元 英直守好 雄吉成憲親	富山 荒湊政義高 木谷 浦島 香智二登道 成一実広夫
		高校男子	福岡 杉川荒野古 尾波木田賀 春 精二 彦浩一郎躬	新潟 阿相青酒渡 部場木井辺 二重喜喜 郎茂善四郎	長崎 田芦足坂一ノ瀬 中塚立本瀬 和有英 勇 義道雄功郎	大分 山徳宮栗中 柿丸崎林原 茂正一 武弁喜幸良
54 第 9 回	昭和 29 年 8 月 23 日(月) ~ 25 日(水) 北海道苫小牧市 若草小学校	一般男子	京都 野杉吉小高 本山沢田浜 照正義雄正 秀義照三之	福岡 浜小石永橋 地洞田淵元 直 範 寿勝勝三親	宮城 伊尻照多千 勢子井田葉 岑時孝平 浩生彦三次	大阪 菱佐萩長岡 山藏原尾本 清敬恒大信 郎介芳藏晴
		高校男子	香川 杉三山 尾宅下 瀬倫 二三勝	宮城 伊尾神 藤形永 毅充昭 一弘夫	福岡 高林島 木田津 嘉光鉄 洋彦也	埼玉 浅大長谷 香沢川 一博 敬正之
55 第 10 回	昭和 30 年 10 月 31 日(月) ~ 11 月 2 日(水) 神奈川県鎌倉市 鎌倉市営体育館	一般男子	大阪 菱浜河長西 山田野尾岡 清一雅大 一郎隆英藏弘	京都 水栗大小山 内村槻田舗 精曜 雄公 一似嘉三義	兵庫 南西引人曾 条野地尋根 隆三義 康 一義雄力治	
		高校男子	福岡 永新井 嶋原上 武信 運夫明	広島 岡青三 木好 裕宏孝 史己士	東京 佐田白 藤中井 藤中井 隆三義 康	
56 第 11 回	昭和 31 年 10 月 29 日(月) ~ 31 日(水) 室内小学校 特設試合場	一般男子	愛知 斎田宮神斎 木島地田藤 哲弘 忠幹 夫浩茂男郎	大阪 笠長倉長西 木田本尾岡 大左司大 海近郎藏弘	京都 原由山多山 良下良舗 正 公 弘亨武勇義	
		高校男子	福岡 南吉重古高 村松賀田 健剛正 誠 男郎成武助	広島 大八山新春 国塚本谷木 伸九誠勇宏 夫二之治己	鹿児島 福有中川貴 山川威上島 浩宗稜教 洋弘男男徹	

過去成績一覧表 (3)

回	場 所	1 位	2 位	3 位	
57 第 12 回	昭和 32年 10月 29日 (火) ～ 31日 (木)	静岡県 静岡市立体育館	東京 黒岡三松曾 住野橋下根 大比清三康 和志五郎治	京都 上芦山吉小 松田下沢田 修国 義雄 己雄武照三	大阪 山矢脇河西 田原園野岡 正栄昌雅 和寿雄英弘
		高校男子	福岡 吉高瓜古後 村尾生賀藤 一長 誠 巖弘志武一	香川 藤藤川高三 井岡西橋好 明 通峰 登義実夫仁	大阪 前比岩松柴 島嘉永阪田 延良律 康 行和男猛雄
58 第 13 回	昭和 33年 10月 20日 (月) ～ 22日 (水)	富山県上市町 富山県上市町	大阪 柴松松岩河 田島阪田野 康春 兵雅 雄男猛衛英	熊本 山北川東吉 県垣北 永 通 冬敏富 雄勉生之義	京都 伊芦栗草小 藤田村川田 末国曜栄雄 雄雄似一三
		高校男子	愛知 岩二西杉加 竹村部山藤 章安形恒和 二英外治夫	神奈川 加森植植阿 藤田村村部 剛浩健剛智 司典郎郎応	群馬 金角武田井 田屋藤村出 正光立興昌 敏宏実靖明
59 第 14 回	昭和 34年 10月 26日 (月) ～ 29日 (木)	両国日本大学講堂 東京都墨田区	滋賀 坪飯中岩長 谷住野田川 石志顕兵博 根郎治衛之	大阪 井柴杉粉河 上田岡川野 利康良忠雅 治雄昭勝英	岡山 黒長間浅米 住畑野野田 惠富 圭 守志雄真佑
		高校男子	福岡 市伊坂吉石 岡藤口村原 英武征 賢 人範二巖信	千葉 淀山佐安花 谷口間藤沢 隆真通克 弘一弘利一	東京 板鈴平鈴田 倉木石木中 孝孝正伸位 允一則彦一
		教員男子	東京 松小石丸黒 川野田山須 哲 昭彰銀 男実二治吾	埼玉 山松浅浅斎 西下見賀藤 昭吉高市成 夫藏明三夫	京都 後呉吉審小 藤比本 泉 正正富義 忠義次雄幸
60 第 15 回	昭和 35年 10月 24日 (月) ～ 26日 (水)	山鹿中学校体育館 熊本県山鹿市	大阪 小松井柴河 松阪上田野 吉 利康雅 郎猛治雄英	京都 倉西古栗小 野部葉村田 利形 曜雄 夫外孝似三	滋賀 刀飯中岩長 禰住野田川 政志顕兵博 弘郎治衛之
		高校男子	東京 村高山平鈴 田橋崎石木 忠久泰正孝 義男一則一	千葉 佐久間竹田 大積淀小 隆敏 隆敏 晴高勝弘行	大阪 福丸中小河 光木川倉崎 一英達新武 七二治藏夫
		教員男子	京都 審東 元 富福 雄正	大分 竹栗 内林 善正 徳幸	東京 丸黒 山須 彰銀 治吾

過去成績一覽表 (4)

回	場 所	1 位	2 位	3 位
61 第 16 回	昭和36年 10月9日(月) ~ 11日(水) 秋田県 男鹿市立体育館	一般男子 滋賀 刀飯釜中長谷 彌住洞野川 政志良顕博 弘郎雄治之	東京 渡白宮山奥 辺崎崎口村 正淳友 一悦直孝剛	兵庫 増森岩木引 留本崎下地 孝大 榮義 雄寿元三雄
		高校男子 茨城 大金岡中関 竹沢野川根 雅昌 裕 夫一功夫忍	福岡 松上姫重杉 田野路岡山 博武光孝正 文則男文勝	広島 島羽藤佐々々 田田井木木 好一 誠 昌 一郎稔士満樹
		教員男子 大分 小竹栗 田内林 託善正 司徳幸	広島 河山伊 野本藤 忠誠 嘉之剛	富山 畔石向 田黒 光健 淳祐三
62 第 17 回	昭和37年 10月22日(月) ~ 24日(水) 岡山県 児島市味野中学校体育館	一般男子 東京 長高森山重 尾松本口松 猛 秀友正 司勉男孝成	神奈川 稲藤須遠藤 垣野坂藤原 雅善春善光 重剛樹隆雄	京都 吉胡倉芦吉 田井野田沢 勝寛利国義 藏一郎夫雄照
		高校男子 福岡 林姫藤平鳥 田野内田越 克光邦義 巳男磨昭定	熊本 徳統中古中 永 村家村 晃正征堅義 一博郎士信	神奈川 盛武田安広 本内中斎田 輝政秀悦幸 夫幸幸雄司
		教員男子 岡山 仁内杉才橋 木野山田口 征幸重豊勝 輝重利和洋	福岡 小大稲中高 林角田島木 勝一敏康嘉 広夫彦司洋	広島 有東山伊河 馬 本藤野 権泰誠 忠 郎治之剛嘉
63 第 18 回	昭和38年 10月28日(月) ~ 30日(水) 山口県 徳山市立体育館	一般男子 東京 塩岡佐重古 谷野藤松賀 吉 正 郎功治成武	兵庫 徳奥岩加朝 島野崎藤田 文 雅紀 勝衛元晴明	大阪 渡鶴井比松 辺丸上嘉阪 英稔利良 夫昌治幸猛
		高校男子 福岡 園山藤高隈 田崎野橋本 裕次 博正 勇郎敏彦昭	秋田 倉半黒村佐 泉田坂山藤 信博紀隆祥 夫之一光司	東京 西渡野沼品 村辺口田川 昌光泰耕純 樹敏三輔一
		教員男子 福岡 奥井稲小大 田手田林角 義友敏勝一 郎愛彦広夫	広島 山三福伊河 本谷重藤野 誠温慶 忠 之祥治剛嘉	山口 大叶高金堀 野井山子田 保和光唯聡 博彦紀親英

過去成績一覧表 (5)

回	場 所	1 位	2 位	3 位	
64 第 19 回	昭和39年 6月7日(日) ～9日(火) 新潟県 加茂市民体育館	一般男子	大阪 梶鶴多井松 原丸田上阪 孝稔征利 信昌治治猛	東京 芳鳥佐高古 垣越藤橋賀 修 二定治彰武	京都 岩松芦倉栗 崎波田野村 良博国利曜 己治雄夫似
		高校男子	福岡 園園藤熊宮 田田川川崎 義慶芳 男勇純彦昌	東京 大伊西中山 沢藤村川中 正隆昌良宏 美弋樹夫之	熊本 鈴木高明田中 木森島畑西 義三繁 隆哲彦明尊
		教員男子	福岡 角市奥吉小 田岡田村林 英義勝 允人郎寿広	北海道 武林佐山町 田藤本田 泰昌宣典幸 明司紘夫雄	新潟 小通山五高 川山口嵐木 正正弁寛嘉 行俊助司洋
65 第 20 回	昭和40年 10月25日(月) ～27日(水) 岐阜県 岐阜市岐阜市民センター	一般男子	東京 佐安中村前 藤斎村井田 栄悦浩正行 吾雄之芳雄	大阪 昆香多井松 田月田上阪 峯光征利 三英治治猛	愛知 大山佐山前 隅元藤本島 俊和彰延 滋隆久一行
		高校男子	奈良 松松諸中橋 本室井司本 敏重三卓 明光義也昇	富山 川津村人乘 口沢井島舟 慶寿秀榮秀 和志樹市樹	千葉 島勝小安渡 津見谷田辺 澄一利由常 夫豊夫幸雄
		教員男子	大阪 北岩河花岩 井田崎本田 宏武俊家 生勝夫孝正	愛知 石都伊長秋 田沢藤川田 欽達 三一男優武	北海道 岩武佐林山 崎田藤本 泰宣昌典 満明紘司夫
66 第 21 回	昭和41年 10月24日(月) ～26日(水) 大分県 大分市大分県営体育館	一般男子	愛知 佐々木中曾島本 田小前山 豊司之之一 晃英延彰	京都 吉山常倉伊 柳田磐野藤 省武利茂 三文守夫基	東京 佐籾太佐加 藤卷田藤藤 栄政宣 吾利 踐
		高校男子	静岡 中三伊竹根 田浦藤下谷 博邦善敏信 夫男雅夫一	千葉 宗真高渡藤 木木辺枝 秀研長常 成一助雄進	大分 山重此吉紀 田石松田野 次一孝国賢 光昭一男次
		教員男子	大分 釘重山相興 宮岡中良田 孝園哲光 弘文一朗男	福岡 市中吉松奥 岡島村下田 英正 孝義 人利寿憲郎	北海道 笹岩佐中山 島崎藤野本 晃 宣政典 一満紘美夫

過去成績一覽表 (6)

回	場 所	1 位				2 位				3 位							
		一般男子	高校男子	教員男子	兵 庫	福 岡	廣 島	愛 知	東 京	富 山	埼 玉	東 京	奈 良	大 阪	千 葉	奈 良	北 海 道
67 第 22 回	昭和 42年 10月23日(月) ～ 25日(水)	秩父市秩父市民会館	大阪	鶴川池松松	丸崎田阪永	稔雅光 満	昌之輝 猛雄	福岡	松園古松古	田田賀山賀	博 榮正	文勇二 勝武	東京	佐々木 中前鳥	秋三 浩行又五郎	夫明之 雄郎	
		埼玉県	奈良	野松大藤酒	村室西猪井	豊重久 省利	和光郎 三広	広島	藤伊志川新三	井嶺口家松	信朝孝 秀	広秋夫 夫進	富山	松北中松塩	外志夫 茂彰雄一	義雄	
		秩父市秩父市民会館	大分	釘重小栗興	宮岡田林田	孝託正 光	弘文司 幸男	愛知	石中小長都	田神林川沢	政 欽	三抃夫 優一	埼玉	原吉豊城大	田沢田所塚	浩憲貞 富俊	一治三 男臣
68 第 23 回	昭和 43年 10月2日(水) ～ 4日(金)	春江町立体育館	兵庫	伊志嶺 朝美二一明	朝徳英 曉紀	秋美二 一明	岡山	飯岡遠佐高	田田藤藤松	喜勝照	七幸男 治勉	東京	水秋関村前	信元根 井田	利 正行	健幸忍 芳雄	
		福井県坂井郡	熊本	高吉上上平	浜永野村野	久浩清 春英	和二吾 樹美	広島	白浅川浅三	井野口野松	清隆孝 雄	三司夫 司進	奈良	猿長山藤藤	川田家木猪	陽 久崇省	一修博 博三
		春江町立体育館	大分	釘妻土小興	宮鳥谷田田	憲忠託 光	弘二昭 司男	福井	安奥奥寺上	田沢山見西	道耕元 公孔	也笹治 宏正	大阪	花岩岩河塚	本田田崎原	俊 家武光	孝勝正 夫磨
69 第 24 回	昭和 44年 10月27日(月) ～ 29日(水)	西海学園高校体育館	東京	川吉関村前	口村根井田	孝耕 正行	夫三忍 芳雄	兵庫	古朝比高北馬	賀奈田瀬籠	光信毅 曉郁	弘一志 一夫	千葉	富伊関積上	沢佐 田村	道 勝 勝	博忠治 勝明
		長崎県佐世保市	広島	南仁竹浅渡	科本野 辺	喜泰康 隆一	陽弘昭 司男	長崎	高古加辻荒	石里藤 津	啓長政 憲英	治治信 二嗣	奈良	光木松猿出	本村本川雲	正信 陽一	輝秀薰 一郎
		西海学園高校体育館	長崎	増元石藤山	永田井川口	喜健健 民	久次一 治純義	埼玉	島佐吉豊大	崎野沢田塚	紘 憲貞俊	二功治 三臣	北海道	中小野岩中山	野沢崎野本	政弘 良典	美史満 宏夫

過去成績一覧表 (7)

回	場 所	1 位	2 位	3 位
70 第 25 回	昭和45年 10月11日(日) ～13日(火) 岩手県 久慈市民体育館	一般男子 東京 川吉 関小篠 口村 根林卷 孝耕 次政 夫三 忍雄利	熊本 北松 水堀坂 園山 上口本 一 直憲羯 利猛 喜一正	神奈川 佐山 金佐笹 藤本 子藤原 賢 剛宣富美 一 務晃踐雄
		高校男子 福岡 塩永 中池田 沢野 川田中 哲盛 博保 也雄 光勉彦	奈良 光梶 角大橋 本島 張谷元 正慎 崇秀 輝司 力正利	熊本 岩田 渡嘉坂 田中 辺納本 憲弘 亮政隆 二 一 一 美博
		教員男子 長崎 石藤 元増平 井川 田永尾 健 健喜久 治純 一次司 久次 勝	和歌山 本天 大有角 村野 成田田 清佳 秀末良 人和 明輝寛	北海道 佐中 堤小野 藤野 沢野 忠政 貞弘良 吉美 介史広
71 第 26 回	昭和46年 10月25日(月) ～27日(水) 和歌山県 和歌山市立松下体育館	一般男子 大阪 園河 池西松 田野 田村永 義義 光忠満 男光 輝由雄	兵庫 南徳 高西田 島田 中畑 喜文 毅信三 陽勝 志治明	和歌山 江大 園高古 種橋 田橋賀 英正 政幸 明男 勇秀洋
		高校男子 和歌山 古横 奥藤田 川山 田村中 勝元 博義 宏彦 則孝則	奈良 坂桶 角山之上 中野 張内上 秀博 省三美 夫之 力郎美	鹿児島 川宮 平福芝 畑里 田沢田 良秀 誠寿国 市則 一郎光
		教員男子 和歌山 大久保 成村木田 健秀 清照秀 市明 人夫昭 秀清 照秀	大分 山山 重妻興 田中 岡鳥田 次園 孝憲光 光一 文二男	大阪 北三 喜山河 条木 多田崎 時安 茂武 治則 久樹夫
72 第 27 回	昭和47年 10月23日(月) ～25日(水) 鹿児島県出水市 県立出水高校体育館	一般男子 東京 伊津 田岩増 志嶺 沢中田田 朝寿 直久正 秋志 樹和彦	鹿児島 山江 籠平下田 崎籠 平上田 逸保 雅政末 郎則 之和則	神奈川 佐小 宗白佐 藤野 瀬藤 賢俊 義英宣 一 郎明春踐
		高校男子 鹿児島 朝山 芝道諏 倉田 田添訪 武斗 四国郁 久郎 光高剛	広島 鳴藤 竹秀山 石井 中川本 淳正 謙 二大 治豊司	福岡 花近 藤堤吉 田藤 春岡 洋嘉 孝 一 明志康剛
		教員男子 大分 山妻 重山興 田鳥 岡中田 次憲 孝園光 光二 文一男	鹿児島 木稻 福諸上 本田 元岡口 洋博 信孝 一美 隆義文	和歌山 本大 花正有 村保 田木田 清健 秀照末 人市 昭夫輝

過去成績一覽表 (8)

回	場 所	1 位				2 位				3 位													
		熊本	荒北近堀坂	木園藤口本	光一 憲羯	大利亨一正	青森	宇小沼高一	野野尾橋戸	勇京啓 隆	治一 一斉男	滋賀	日桜副城中	出井島戸川	幸 盛久良	男清雄雄夫	沖繩	宮真石大伊	城志垣成集	文忠博健盛	正男道造久		
復 婦 記 念 沖 繩 特 別 国 体	昭 和 48 年 5 月 4 日 (金) ~ 5 日 (土)	沖 繩 県 那 覇 市 首 里	一般男子	宮崎	吉七猪佐下	村条熊藤原	和	学巳真衛勝	佐賀	田小卜野小	中池部中川	一春秀通	生美幸泰剛	広島	北島永板大	尾本井本野	健孝	昌勝浩三弘	沖繩	金比我棚玉	城屋屋等城	正 盛敏和	則孝健夫俊
			高校男子	東京	森吉組遠岩	脇村坂藤田	保耕英純久	彦三満男和	千葉	川伊関小西	口嶺 谷村	志 高園訪	孝朝勝利昌	夫秋治夫樹	岡山	仁飯小佐藤	木田原藤猪	征喜賢 省	輝七二治三				
73 第 28 回	昭 和 48 年 10 月 15 日 (月) ~ 17 日 (水)	千 葉 県 館 山 市	一般男子	福岡	入花吉今遠	江田岡村藤	秀洋 光	明一剛志弘	鹿児島	八新日北諏	反田 高園訪	耕知茂季	二己一康剛	宮崎	吉猪下七松	村熊原条岡	和宏	学真勝己知					
			高校男子	千葉	横鳴秋松廻	倉川田永	安良康義欽	雄美博雄一	和歌山	友正花大大	松木田保成	久 保成	利照秀健秀	広夫昭市明	大分	山山妻興河	田中鳥田野	次園憲光一	光一二男大				
			教員男子	東京	名吉宇遠高	喜村木藤木	和和俊純長	男郎博男助	神奈川	飯藏宗諸佐	田本 井藤	敦孝義三宣	弘二明義踐	茨城	後羽後塔中	藤生藤野村	鉄利誠勇	也彦一一均					
74 第 29 回	昭 和 49 年 10 月 21 日 (月) ~ 23 日 (水)	茨 城 県 日 立 市	一般男子	福岡	西松吉保入	田隈岡坂江	孝 慶秀	宏修剛藏明	東京	日樋滝山佐	蔭下沢田藤	暢 隆秀	年豊良雄彦	熊本	東名小鶴富	和山崎山	裕孝 博六	治徳学政郎					
			高校男子	茨城	柏林藤白清	崎田田瀬水	克和 英定	彦孝上春明	和歌山	有大花正大	田保田木成	久 保成	末健秀照秀	輝一昭夫明	大分	山河妻山興	田野鳥中田	次一憲園光	光大二一男				
			教員男子	東京	名森組加松	喜脇坂茂田	和保英博邦	男彦満仁孝	宮崎	矢久橋岩梶	房保元田尾	明四秀勝博	夫男利彦見	茨城	後柳後松中	藤沢藤井村	鉄 誠	也久一勲均					
75 第 30 回	昭 和 50 年 10 月 27 日 (月) ~ 29 日 (水)	三 重 県 名 張 市	成年一般	和歌山	野正友	村木松	豊照利	和夫広	三重	原酒増	野井井	陸武節	博司郎	千葉	秋横廻	田倉	康安欽	博雄一					
			成年教員	神奈川	飯野山	尾崎下	馨幸裕	愛媛	浅寺武	見町川	三良豊	喜 夫次茂	山形	阿森三	部谷沢	新茂芳	二美孝						
			少年男子																				

過去成績一覧表 (9)

回	場 所	1 位	2 位	3 位
76 第 31 回	昭和51年 10月25日(月)～27日(水) 佐賀県佐賀市 佐賀商業高校体育館	成年男子 和歌山 佐古有正野 伯川田木村 義末照豊 仁宏輝夫和	福岡 宮柴園森二 本田田山宮 晴和 正夫勇誠弘	佐賀 中西福森大古 島山田場 倍暢泰 聡平生実介
		少年男子 神奈川 野池青 沢田山 祐泰光 二久一	佐賀 池古岩 上賀本 三信有 義也喜	広島 村下山 上田本 康 則尚寛
77 第 32 回	昭和52年 10月3日(月)～5日(水) 青森県五所川原市 五所川原市民体育館	成年一般 神奈川 原木諏訪白 口村間瀬下 謙英泰 一茂茂春裕	茨城 寺田小春中 町淵俣田村 良吉幸 次二嗣栄均	長崎 今佐吉立諸 上原岡山岡 達恭孝憲 馬輔強幸二
		成年教員 和歌山 岩正野 下木村 富照豊 夫夫和	北海道 吉水中 沢落野 正満政 伸雄美	青森 豊山笹 島内木 弘完正 文治信
		少年男子 大分 阿池山 部田内 雄 二茂仁	鹿児島 平松新屋敷 瀬原敷 守芳 久文勉	青森 田佐角 中藤田 順 諭一幸
78 第 33 回	昭和53年 10月16日(月)～18日(水) 長野県佐久市 佐久市総合体育館	成年男子 神奈川 永遠上白山 嶋藤木瀬下 真治保英泰 吾男男春裕	東京 森吉桃須遠 脇村沢藤藤 保和博純 彦郎之十男	兵庫 藤斎大谷渡 田藤槻丸辺 重俊武一 剛郎昭久男
		少年男子 熊本 川山赤藤宮 口本星本崎 誠洋陽一博 一郎祐治博道	北海道 竹河佐滝滝 村崎藤谷吉 一秀正俊直 雄雄直一樹	和歌山 中日庄玉藤 谷田野山戸 勝孝卓晋優 善志也一治
79 第 34 回	昭和54年 10月15日(月)～17日(水) 宮崎県延岡市 延岡市民体育館	成年男子 熊本 伊名阪坂上 藤和口本野 隆徳秋博吾 孝和孝清	宮崎 今八七岩上 村田条田村 琴耕和勝春 生二巳彦樹	茨城 浅雑野猪松 見賀瀬熊井 三正清 夫光喜真勲
		少年男子 熊本 白宮新中安 石崎村永 尚孝浩正和 史浩一造弘	北海道 小宮相戸滝 野樫沢川吉 幸千代拓直 司勝人洋樹	東京 川見高飯藤 上神野塚鷹 勝秀雅康浩一 己樹治明郎
80 第 35 回	昭和55年 10月13日(月)～15日(水) 栃木県宇都宮市 栃木県立武道館	成年男子 茨城 関柏野松中 山崎瀬井村 民克清 男彦喜勲均	栃木 原大久渡鈴 口森保辺木 謙義秀孝賢 一紀雄司一	神奈川 前中諏御細 田西間嶽谷 秀秀知文 司敏茂昭行
		少年男子 茨城 坪門田小下 井分所林利 英勇 樹彰二等司	熊本 原白宮中小 石崎島原 一尚孝登 浩史浩高豊	東京 小今吉黒朝 林堀田沢飛 恵浩 一之保斉大

過去成績一覽表 (10)

回	年	場 所	1 位				2 位				3 位						
			成人男子	少年男子	成人男子	少年男子	成人男子	少年男子	成人男子	少年男子	成人男子	少年男子	成人男子	少年男子			
81 第 36 回	昭和 56 年	滋賀県立伊香体育館 滋賀県木之本町	神奈川	宮中恵白山	口西谷瀬下	文英正英泰	雄敏雄春裕	滋賀	矢中平伊久保	嶋右瀬藤山	次憲久徳	明泰昌雄男	静岡	吉藤宇山石	田野美本川	公博裕	次一之稔章
			滋賀	山伊坂近杉	口藤下藤山	一昌辰照	彦幸誠正彦	東京	矢松中細洪	作雪村谷谷	成英恒	実博二清男	福岡	仁熊田松上	田本中田野	清修誠亮良	一治二一治
82 第 37 回	昭和 57 年	島根県立武道館 島根県境町市	奈良	細嶋森正石	川川本木井	伸裕健嘉兼	二美文美輔	島根	中下森山花	嶋田脇藤本	秀哲茂	隆尚徳夫人	千葉	清竹小星諏	崎原保訪	威通幸君	朗秋嗣男剛
			広島	高谷松八本	田崎田塚村	忠英信龍	晴規久敏浩	千葉	川掛岩石岩	上村崎井本	博成慶勝孝	之紀治行一	奈良	齊長峠長金	藤倉川丸	光和卓明	重博路敦人
83 第 38 回	昭和 58 年	群馬県総合公園体育館 群馬県渋川市	東京	舟宮道本大	川腰場松原	裕良好敬	操之久正生	群馬	寺鳥桃青今	町居澤山川	良吉博光直	次二之一明	兵庫	樽三相當栗	家宅原田原	清友雄康三	人久治之男
			群馬	須小狩吉吉	田畑野原田	好順浩秀一	相一一忠夫	神奈川	三岩宮加多田	柴崎本藤隈	義秀隆和	浩彦弘淳博	宮崎	丸竹伊竹中	山石吹下口	康泰伸光	明成博一郎
84 第 39 回	昭和 59 年	天理市総合体育館 奈良県天理市	東京	矢宮道藤芥	嶋腰場原藤	裕良敬	明之久生仁	奈良	細嶋森正羽	川川本木賀	伸裕健嘉善	二美文美夫	茨城	小吉三野中	沢鷹戸口村	雄幸範博	二春之之均
			東京	佐嶋古保金	藤治賀科野	義貴稔秀	明司彦行潤	奈良	黒光森竹中	田行林林	圭健英千	一馨志彦春	和歌山	喜久西船岡	多井山渡野	善寿敏	文寿一央誠
85 第 40 回	昭和 60 年	境港市民体育館 鳥取県境港市	東京	矢古中藤滝	嶋賀村原吉	元義敬直	明博博生樹	滋賀	宮久杉撫伊	本保山佐藤	茂義照泰久	昭和彦彦雄	奈良	齊古西野正	藤田畑村木	光知哲幸喜	重史司生美
			東京	池吉古石小	崎田賀田川	友英稔輝直	和樹彦也也	沖縄	池兼酒幸砂	田島井池川	守高英和和	幸雄幸浩文	千葉	関鏞的浅鎌	本木場野野	征哲義	幸也勉繁広

過去成績一覧表 (11)

回	期	場 所		1 位				2 位				3 位						
86 第 41 回	昭和 61 年	山梨県 身延町体育館	成年男子	山梨	近山 諏波 樋	浦本 訪谷 川	研洋 恒	一祐 剛男 純	東京	谷古 猪川 村	崎賀 俣島 上	英稔 慎一 修	規彦 一見 司	埼玉	関大 喜鯨 新	山嶋 多井 井	民康 光 俊	男裕 成甫 明
			少年男子	福岡	坂満 杉白 甲	口井 野谷 斐	修祐 健次 勝康	二樹 郎広 浩	奈良	小佐 柴朽 緒	島木 田打 方	幹 裕 真章	太勉 郎男 宏	宮崎	村柚 徳杉 中	上下 増田 村	喜昌 秀宏 重	則也 仁之 俊
87 第 42 回	昭和 62 年	沖縄県那覇市 県立奥武山体育館	成年男子	東京	矢古 持藤 滝	嶋賀 田原 吉	元達 敬直	明博 人生 樹	山形	小吉 高黒 田	沢鷹 橋田 島	雄幸 利一 友	二春 治彦 幸	埼玉	堀勅 喜金 新	使河 多野 井	基原 光 俊	明弘 成潤 明
			少年男子	東京	荒柴 高吉 酒	川田 村田 井	浩嘉 幸秀 伸	司樹 勝彦 哉	宮崎	中村 徳香 徳	村上 増川 永	能喜 秀賢 道	教則 仁司 郎	石川	丹島 本元 下	後村 出林 出	晃康 正 義	博夫 博太 紀
88 第 43 回	昭和 63 年	京都府 城陽市民体育館	成年男子	京都	野古 徳岩 西	口田 田波 村	仁知 真良 信	士史 三和 一	茨城	出岡 田渡 中	口本 所辺 村	達勇 勇直	也人 二勇 均	神奈川	関森 小若 御	水山 林山 嶽	大孝 速英 知	八臣 人央 昭
			少年男子	福岡	原中 北中 西	田村 田村 田	堅行 晃佳 一	一成 三央 幸	京都	小藤 澤杉 村	恒野 田浦 上	公貴 一禎 与	三之 勝昭 力	奈良	吉柿 立浜 養	本花 花本 父	忠真 直秀 直	司一 大一人
89 第 44 回	平成 元年	北海道 赤平市総合体育館	成年男子	山形	小吉 高黒 小野	沢鷹 橋田 寺	雄幸 利一	二春 治彦 泰	神奈川	関大 三若 御	水崎 好山 嶽	大昭 明英 知	八浩 広央 昭	滋賀	岡坂 杉尾 伊	本梨 山崎 藤	一利 照智 久	之隆 彦也 雄
			少年男子	東京	荒中 菊田 松	川山 田辺 木	浩裕 早 昌	司司 苗勝 広	北海道	蹴汐 藪柏 佐々	揚川 内原 木	将順 哲正 伸	行一 也己 也	神奈川	森根 國阿 岩	岸分 部田	不芳 桂	二夫 豊則 淳司
90 第 45 回	平成 2 年	福岡県 飯塚市体育館	成年男子	神奈川	越森 浜山 関	野山 名田 根	忠孝 智利 英	則臣 男彦 之	福岡	隈久 中甲 多	部野 村斐 隈	佳裕 佳康 和	克久 央浩 博	京都	野古 杉岩 西	口田 浦波 村	仁知 嘉良 信	士史 尚和 一
			少年男子	福岡	園中 山秋 本	田村 本吉 田	隆行 兼英 知	二成 治隆 之	広島	藤岩 武細 梶	賀崎 田井 谷	章 雅 明	夫卓 也宏 寛	神奈川	田面 山松 窪	代沢 崎本 田	輝宏 悦勇	虎之 宏治 茂

過去成績一覽表 (12)

回	場 所	1 位	2 位	3 位	
91 第46回	平成3年 10月13日(日) 15日(火) 石川県鶴来町 白山郷運動公園体育館	成年男子	石川 久保井 寿 大熊 彦 高波 行 下出 紀 堀善 鏡	神奈川 河森三 宏 土屋根 孝 関好 明 三好 宏 土屋 英	茨城 森横北 田 増渡 岡 地 謙 邊 星 田 一 岡 斗 地 之 邊 勇
		成年女子	茨城 植佐 睦 鈴々 光 木 香	埼玉 溝北 子 佐 香	長野 大泉 森 矢 崎 千 香 香 利
		少年男子	熊本 今堀中 幸 福大 博 大 文 大 士	北海道 吉金青 忍 畑直 文 笹 之 直 幸	奈良 金野呉 博 森藤 本 本 博
		少年女子	福岡 田佐 亮 国吉 奈 真 津 子 子	千葉 多々々 美 藤藤 哲 佐佐 和	東京 浄法寺 繪 石佐藤 幸 橋 千 子 子
92 第47回	平成4年 10月5日(月) 7日(水) 山形県 山辺町民総合体育館	成年男子	東京 本杉甲 範 三齋 郎 齋 輔 藤 二 秀 一	京都 野森杉 仁 藤本 隆 阿部 博	香川 乙河中金 靖 葉野山 一 政 潤
		成年女子	京都 永城川 井 野 島 野 真	石川 桐角藤 子 藤 子	千葉 森岩矢 田 矢 瀨 崎 崎
		少年男子	福岡 佐吉深 裕 高高 幸 高 啓	鹿児島 宇牧長 典 山園 藏 園 成 一 郎	宮崎 中森伊 知 繁昌 大 安 貴
		少年女子	埼玉 大赤清 塚 清 岡 原 織	群馬 長須斎 沼 斎 永 藤 藤	山形 山工今 口 今 野 野 野
93 第48回	平成5年 10月27日(火) 28日(木) 香川県寒川町 藤井学園 寒川高校体育館	成年男子	香川 乙葉中 靖 増金 政 野 克 野 潤	京都 野森德 仁 藤本 隆 西 信	山形 木高原 光 佐藤 永 西 真 西 茂 村 良
		成年女子	香川 常山鈴 松 鈴 田 木 木	東京 村中五 村 十 十 嵐 嵐	千葉 西岩矢 江 矢 瀨 崎 崎
		少年男子	徳島 佐山近 州 平流 秀 流 秀	神奈川 堀松藤 一 本宮 博 宮 寛	東京 中青三 範 大輪 治 小 熊 大 康 小 新
少年女子	福岡 田杉阿 村 阿 武 武 教	熊本 陣林二 内 二 宮	兵庫 渋松鈴 谷 鈴 本 木 木		

過去成績一覧表 (13)

回	年	場 所	1 位				2 位				3 位						
			愛知	福	福	福	東	福	奈	千	香	東	富	奈			
第49回	平成6年 10月30日(日)～11月1日(火)	愛知県 愛知県立武道館	成年男子	内藤近阪深	村山藤部井	直克貴茂	也茂幸行和	東京	上土甲秋三	野屋斐山谷	博好大勝浩一	史英輔彦郎	香川	細河中増葉	川野橋地山	春一政克	史樹彦之充
			成年女子	土大吉	川石田	美和愛	和子子希	福島	齋惠五十	藤本嵐	和裕準	泉子子	東京	伊宮妹	藤家尾	幸江ひでみ	代美み
			少年男子	江花塘栗猿	種岡内渡	辰将琢	明亮彦健海	奈良	三各吉寺本	輪務田田庄	高耕裕秀	広司健志一	富山	二安本大江	市達川井島	喜春一一	一樹誠輝成
			少年女子	五味川上南	みどり草	みどり草	千	千葉	尾山小	澤田濱	美真美	砂由美紀	奈良	自植千	檀田野	裕貴	香子子
第50回	平成7年 10月15日(日)～17日(火)	福島県会津若松市 鶴ヶ城公園鶴ヶ城体育館	成年男子	木中田松遠	村山辺本藤	勝裕昌雅	範司勝広一	東京	堤阿持中秋	武田村山	時貴達佳勝	貞宏人央彦	香川	細河中増金	川野橋地野	泰一政克	史樹彦之潤
			成年女子	磯藤外	崎原岡	祐孝裕	子子子	福島	永惠五十	井本嵐	和裕準	恵子子	埼玉	内北天	田爪尾	か弘美	おり子貴
			少年男子	栗坂高梅中	栖本橋田濱	義道泰泰真	行人弘典吾	福岡	加植塘桑上	隈山内原杉	基将和昭	嗣亮彦寿文	北海道	加斎斎森斎	藤藤藤	幸順制大研	一道剛助史
			少年女子	伊横水	藤村谷	由知夕	香代希	兵庫	山山山	口本口	千鶴奈	茜子緒	福岡	五味南金	川子	みどり草記	
第51回	平成8年 10月13日(日)～15日(火)	広島県廿日市市 廿日市市スポーツセンター	成年男子	芳阿持三真喜	岡武田谷志	貴達浩一慶	武宏人郎治	広島	乙加有関竹	黒美川根村	靖富光英典	雄章誠之久	奈良	野三高村井	村輪橋元上	忠高徳辰正	宏弘三寛広
			成年女子	磯佐吉	崎野田	祐奈早	子津子希	東京	衛福妹	藤田尾	裕美奈み	美子み	広島	藪藤福	下本場	めぐみ子	哲由里
			少年男子	森北栗中中	川川栖村濱	智勝和真	幸広健裕吾	熊本	中野吉前藤	村中永田木	友一富人亮	和平大紀介	神奈川	鈴笠野小井	木原瀬塚上	裕一英直康	介重豪哉生
			少年女子	五味川下斐	みどり栄子	みどり栄子	栄子	大阪	高阿薪	島部谷	知晴	佐美翠	埼玉	山二吉	口宮田	美みどり	静紀り

過去成績一覽表 (14)

回		場 所	1 位				2 位				3 位							
97 第 52 回	平成 9年 10月26日(日) ~ 28日(火)	大阪府箕面市 箕面市立第一総合運動場市民体育館	成年男子	神奈川	徳岩松井窪	野川本上田	和武勇康	彦久治生茂	東京	堤矢中増田	野嶋地村	時智康克和	貞彦博之也	埼玉	関牧栗佐吉	根瀬原藤野	博洋啓栄憲	未人之一治
			成年女子	大阪	菅中吉	原市田	教陽早	子子希	福岡	五味川山下	川部下	みどり栄み	どき栄み	宮崎	寺平工	山原藤	由佳	梢子文
			少年男子	福岡	石山竹川上	松野森波杉	和貴誠慎昭	資司也郎文	神奈川	小太阿月松	川田部野本	武康尚太	士博豊志一	東京	今阿畑竹鈴	井達中下木	義忠桂	行剛実良治
			少年女子	埼玉	猿二栗	渡宮原	夏美美	子紀幸	兵庫	中宗根八古	根代賀	早優幸	苗子恵	千葉	高佐小松	梨藤崎	恵弘	里睦子
98 第 53 回	平成 10年 10月25日(日) ~ 27日(火)	神奈川県横須賀市 横須賀市総合体育会館	成年男子	神奈川	徳岩松井窪	野川本上田	和武勇康	彦久治生茂	東京	堤土鉄増三	屋谷地谷	時好竜克浩	貞英三之郎	長崎	中原村木中	山口本村村	義正善	秀志努剛弘
			成年女子	茨城	磯一木	崎見屋	祐理好	子佐絵	埼玉	西天森	尾島	せつ美直	子貴美	熊本	本磯松	田川崎	美千み	和恵みほ
			少年男子	東京	土山野鈴棟	屋崎中木田	巧啓桂康	一介明治幸	福岡	明荒永原森	石平野田田	一佳裕泰祥	成也士経一	神奈川	佐高小谷月	藤松野口野	裕正俊尚	次裕教望志
			少年女子	茨城	中高塚	島崎田	英里真	子悠希	兵庫	小吉新	田満改	智美七	子加星	千葉	野佐小松	尻藤崎	麻弘	実睦子
99 第 54 回	平成 11年 10月24日(日) ~ 26日(火)	熊本県山鹿市 山鹿市立総合体育館	成年男子	東京	江矢三猿大	種野矢渡下	辰智塚大	明彦論海介	福岡	松佐横宗江	尾藤山上	浩雅真忠	一亮一郎幸	千葉	佐中岩倉中	藤村下吉嶋	幸範一智一	範政也宏也
			成年女子	熊本	本磯二	田川宮	美千美	和美穂	富山	磯佐室	崎野谷	祐奈美	子津紀	茨城	中一薪	谷見谷	美保	子沙翠
			少年男子	東京	木渡泉皆高	村辺川井	信一和洋	也貴浩也平	福岡	三山坂宮内	村本浦野	賢泰雄晋貴	吾三太一光	神奈川	佐高鈴小村	藤松木野上	裕正貴俊和	太裕士教幸
			少年女子	茨城	中吉塚	島成田	英里真	子子希	千葉	野根吉	尻崎田	麻裕亜	美子美	東京	春佐岡	本藤	美明日	知好香

過去成績一覧表 (15)

回	年	場 所	1 位				2 位				3 位								
			富山	石安飛高湊	井達塚森谷	一春雅啓知	行樹俊吾幹	千葉	佐中岩加中	藤村下藤村	博範一博和	昭政也仁裕	静岡	伊花大大大	藤澤原村村	洋裕尚昌恭	邦介喜弘一		
00	平成12年	富山県小杉町 小杉町総合体育センター	成年男子	東京	坂中松	東村崎	真友みず	夕栄ほ	子栄ほ	富山	磯佐室	崎野谷	祐奈美	子津子紀	茨城	中古薪	島谷谷	英有	理子翠
			成年女子	東京	藤渡上佐高	代辺坂藤井	幸一正陽洋	雄貴語介平	福岡	三園坂江大	村田本藤鋸	賢悠雄大	吾二太曉新	奈良	村玖三長田	上珠島澤村	嘉龍功伸悠	広市典昭太	
			少年男子	青森	細野鳥谷	川呂部	祥真	子瞳弓	北海道	倉上福	持野田	亜順	佐美恵静	埼玉	赤谷長	池津瀬	杏和め	奈美み	
			少年女子	東京	江園近棟田	種田藤田村	辰隆秀康和	明二作幸也	神奈川	佐橋松平増	藤口本澤地	幸幸勇武克	範治治夫之	奈良	石稻筒村篠	松澤井元原	和真宏辰信	資人樹寛一	
01	平成13年	宮城県気仙沼市・唐桑町 気仙沼市総合体育館・唐桑町民体育館	成年男子	茨城	中一薪	島見谷	英里	子沙翠	富山	磯橋木	崎木屋	祐和好	子代絵	東京	坂中小松	東村崎	真友弘	夕栄子	
			成年女子	佐賀	中内手檜福	原川島崎岡	史裕翔慶	昭介平誠輔	福岡	松坂竹柴青	村本森田山	真拓龍晃正次	極人馬也輝郎	神奈川	小加武栗飯村	林藤藤原上	宜致力浩和	尚知也生幸	
			少年男子	北海道	佐上白	藤野杵	愛順咲	子恵恵	青森	黒野鳥谷	田呂部	優真	子瞳弓	埼玉	赤手斉	池塚藤	杏可	奈菜恵	
			少年女子	神奈川	徳安松平増	野達本澤地	和春勇武克	彦樹治夫之	東京	江大窪向田	種内田川村	辰和和	明稔則肇也	高知	伊松中廣奥	藤原田川田	恭善充一	規豊久志孝	
02	平成14年	高知県宿毛市 宿毛市総合運動公園市民体育館	成年男子	青森	吉野鳥谷	村呂部	依真	子瞳弓	福岡	宮本上	脇田野	留明那	美香央	愛媛	菅風佐	戸野	あゆみ	晴明日香	
			成年女子	東京	金海寺木鈴	子沼島戸木	仁聖濟宏龍	神奈川	白上近後佐	取村藤路藤	智季雅裕武	論弘和朗尊	愛知	池谷則濱後	野本竹上藤	源竜哲耕邦	輝二郎平仁		
			少年男子	東京	西佐関	田藤根	優琴裕	香美子	愛知	村谷谷	口本本	み育	き実忍	千葉	藤古大	井谷嶋	敬笑窓	子香見	
			少年女子	神奈川	徳安松平増	野達本澤地	和春勇武克	彦樹治夫之	東京	江大窪向田	種内田川村	辰和和	明稔則肇也	高知	伊松中廣奥	藤原田川田	恭善充一	規豊久志孝	

過去成績一覽表 (16)

回		場 所		1 位				2 位				3 位						
03 第 58 回	平成 15年 10月 26日(日) ～ 28日(火)	静岡県 浜北市 静岡県 浜北市 総合体育館	成年男子	埼玉	清齋 野生手	水藤 瀬田塚	義順 英秀勝	光道 豪和彦	東京	田石 竹田泉	中村 下村	大忠 和	誠祐 良也浩	静岡	佐々 木川 本村 椋	仲美 昌俊	次久 誠弘 彦	
			成年女子	埼玉	三古 江	浦賀 口	真幸	依惠 啓	静岡	遠上 横	藤野 溝	若雅 早	奈惠 苗	千葉	君小 清	島吉 水	津奈 穂理	子美 理
			少年男子	神奈川	笠大 野竹桶	原東 田谷谷	貴正 貴知知	太彦 寿記生	埼玉	秋田 尾小松	元村 形林本	希敦 浩太雄	星史 郎輔三	福岡	新金 今水高	宅岡 村口橋	義真 壯和	裕吾 志亮 彦
			少年女子	茨城	福井 渡	見上 邊	友優 美	子子 奈	埼玉	三山 加	木崎 藤	千美 有	尋貴 貴	東京	中國 池	井原 田	り頼 ひとみ	
04 第 59 回	平成 16年 10月 24日(日) ～ 26日(火)	埼玉県 上尾市 埼玉県立 武道館	成年男子	埼玉	小高 野生手	川松 瀬田塚	武正 英秀勝	志裕 豪和彦	北海道	野出 水森河	尻花 落合	泰崇 健大秀	生郎 太助幸	福岡	窪坂 川松江	山本 波崎上	博拓 慎建忠	紀馬 郎司孝
			成年女子	茨城	杉根 長	野崎 瀬	沙裕 めぐみ	由理 子み	埼玉	三古 江	浦賀 口	真幸	依惠 啓	神奈川	小今 駒	林井 木	亜優 奈緒美	美子 美
			少年男子	東京	石赤 寺石須	川迫 島井藤	良佑 光紘	如介 濟慧司	福岡	早池 坂野松	野田 本岡	友正 篤嘉禎	樹文 志明基	埼玉	秋田 中小岡	元村 島林村	希敦 裕大照	星史 樹輔久
			少年女子	福岡	三浅 谷	村田 本	優梨	香沙 忍	熊本	平東 立	井山	千代 真	瞳美 衣	愛知	村小 大	口澤 木	ゆ理 愛	いな 美
05 第 60 回	平成 17年 10月 23日(日) ～ 26日(水)	岡山県 津山市 岡山県 津山東 体育館	成年男子	東京	江園 齋棟立	種田 藤田山	辰悠 純康広	明二 平幸喜	宮崎	中寺 增高村	野居 淵橋元	真高 宏辰	太郎 志樹明寛	神奈川	佐高 松平小	藤井 本澤塚	幸健 勇武義	範介 治夫隆
			成年女子	埼玉	西國 小松崎	田原 崎	優頼 弘	香子 子	茨城	福根 杉	見崎 本	友裕 美	子子 香	兵庫	垣堀 手	田江 島	恵久 桂	利美 子子
			少年男子	神奈川	有栗 森西須	吉野 田瀉藤	貴靖 晃健孝	広浩 弘太清	広島	木西 垣石中	村岡 田本村	良和 恭光龍	祐志 兵樹平	埼玉	小岡 青小松	倉村 木林岡	武照 和大裕太	藏美 明輔郎
			少年女子	埼玉	秋太 白	元田 石	江琴 のどか	美乃 か	東京	中飯 小	村田 林	美有 悠	里香 佳	福岡	三池 山	村田 崎	優千 裕	香華 子

過去成績一覧表 (17)

回	年	場 所	1 位				2 位				3 位							
			東 京	茨 城	埼 玉	東 京	神奈川	兵 庫	愛 媛	北 海 道	東 京	兵 庫	福 岡	兵 庫				
第61回	平成18年 10月6日(金)～8日(日)	兵庫県姫路市 兵庫県立武道館	成年男子	江園落高棟	種田合井田	辰悠雄洋康	明二太平幸	神奈川	佐高松村平	藤井本上澤	幸健勇和武	範介治幸夫	奈良	松稲岩穴筒	田澤田井井	真勝隆宏	武人博将樹	
			成年女子	福根石	見崎山	友裕麻	子子弥	兵庫	垣手堀	田島江	恵桂久美子	利子子	東京	君中手	島川島	奈愛知	津子佳	
			少年男子	小岡青新沢	倉村木井本	武照和優大	藏美明来樹	愛媛	坪山河小中	田邊坂椋矢	啓雄有克	介己希将力	福岡	矢鐘平今増	野井嶋村田	大祐孝匡哲	地真史宏也	
			少年女子	澤貝杉	田沼洩	友麻衣りずみ	里子み	北海道	田上川	村野島	明巴巴	日実恵菜	兵庫	橋米市	本山橋	優侑寿々々	貴里華	
第62回	平成19年 10月7日(日)～9日(火)	秋田県秋田市 秋田県立武道館	成年男子	高石矢大宮	橋川寄藤島	寿美雄尚	正久大哉淳	神奈川	升丸松村平	水山本上澤	翔昂勇和武	兵大治幸夫	東京	和成青鈴近	泉田木木野	強泰勝貞	志崇土龍治	
			成年女子	保渡杉	坂邊本	安美美	和奈香	広島	森馬山	本場本	奈々あ志	美ゆみ乃	兵庫	垣米堀	田山江	恵侑久美子	利里子	
			少年男子	神奈川	黒西山高豊	瀬山山木田	雄大海竜	遼希希帆太	石川	松森山八	本下根椋	元純誠裕	太平誠太	東京	山鈴川寺百	本木上島瀬	浩智克	史誠弘興優
			少年女子	北海道	田上山	村野部	明巴佳	日実恵苗	宮崎	坂菊富	本川山	優美	霞希里	静岡	加増村	賀谷田瀬	千奈晴	保美香
第63回	平成20年 9月28日(日)～30日(火)	大分県大分市 大分県立総合体育館	成年男子	江成西高棟	種田山井田	辰泰将洋康	明崇士平幸	埼玉	浅江手新生	野口塚井田	大遼勝信秀	輔至彦吾和	茨城	小鮫白白平	林島本本井	将裕周五	卓朗太郎朗	
			成年女子	大分	宝本穴	田井	真明さやか	由日香か	神奈川	藤平駒	井井木	敬奈緒美	子希美	福岡	福植谷	岡木本	順	悠子忍
			少年男子	東京	松登春岩上	木山尾杉	武成友敬亮	志二紀太太	神奈川	高山西高豊	上山山木田	智雄大海竜	史希希帆太	栃木	駒本北後根	杵原野藤本	嵩廣裕有惇	大宣一輝平
			少年女子	熊本	石山緒	松本方	千小亜香里	奈百合里	鹿児島	堅東馬濱	山場田	優とも子里	埼玉	平前鳥帽子	林田帽子	る奈美	い恵子久	

過去成績一覽表 (18)

回	場 所	1 位	2 位	3 位
09 第 64 回	平成 21 年 10 月 3 日 (土) ~ 5 日 (月) 新潟県新潟市 新潟市豊栄総合体育館	成年男子 東京 豊金西高立 田岡山橋山 眞真将和広 朗司士彦喜	新 潟 升 莊今猪西 水司井又瀧 翔和敏秀健 兵大博和太	福 岡 室池山後青 岡田本路山 政正泰裕正次郎 典文三朗郎
		成年女子 新 潟 瀧國柴 澤原野 苑頼亜 果子希	富 山 西 田知本 中 本 由美遥愛	兵 庫 橋米堀 本 山江 優侑久美子 貴里子
		少年男子 神奈川 高西橋西藤 藤山本村井 直雄壮元 寿希市宏岳	東 京 伊手釘浅田 藤島丸沼中 優将太拓大 響一郎海貴	愛 知 渡六清高稲田 辺郷水橋 貴雄大良 大平樹介基
		少年女子 熊 本 石松後 松川藤 千 美 奈結和	愛 知 吉古山 本屋本 薫梓奈	福 岡 谷濱木 本砂下 香 菜 和澄月
10 第 65 回	平成 22 年 10 月 1 日 (金) ~ 3 日 (日) 千葉県成田市 サウンドハウス・スポーツセンター フィットネスハウス・アリーナ	成年男子 千 葉 平秋小佐加 岡元野藤藤 拓啓卓武博 晃之志尊剛	東 京 松金西立 木岡山瀧山 武真将健広 志司士太喜	神奈川 朝西武庄白 比奈山藤司本 竜雄力武周太 真希也男郎
		成年女子 千 葉 西今白 田井石 優優のどか 香子か	神奈川 渡平立 邊井山 美 真 樹希衣	山 梨 浅飯山 海田部 静有佳 香香苗
		少年男子 神奈川 松菊丸松玉子 崎池山雪谷 裕 剛直剛 毅秀毅斗志	福 岡 小肥山堀大 林後本内山 将大翔裕 玄之士太太	広 島 鈴香宇岩飯 木川宮城田 崇健光敏健 嗣吾樹伸伍
		少年女子 熊 本 前吉梅 田村木 祐静真 実子織美	愛 知 原古藤 屋 原 琴 惠 乃梓美	愛 媛 魚石井 山本上 莉麻愛 央奈美
11 第 66 回	平成 23 年 10 月 2 日 (日) ~ 4 日 (火) 山口県萩市 萩市民体育館	成年男子 千 葉 石西花森須 川岡本本藤 裕和隆翔紘 紀志司太司	東 京 山金西高鈴 本岡山橋木 浩真将和桂 史司士彦治	宮 崎 志齋塘高増 々々 目藤内井洩 将洋 徹涼彦平樹
		成年女子 山 梨 加飯山 谷田部 千有佳 保香苗	山 口 近和町 藤 田 優麻純 子未香	広 島 浅藤岡 海田村 静康智 香惠美
		少年男子 神奈川 高竹郡後倉 藤内司藤橋 直信拳隆太 寿康佑郎功	東 京 藤星長五遠 澤 倉味藤 征 友江 憲光樹貴翼	埼 玉 勝松小菊大 野原林地竹 智 悠真一 大悠輔登輝
		少年女子 愛 知 海古藤 島屋原 亜梨沙梓美 恵	熊 本 吉 梅 村 木 静 真 織 美	広 島 高千中 野葉山 美英あゆみ 咲里子み

過去成績一覧表 (19)

回	場 所	1 位	2 位	3 位	
12 第 67 回	平成24年 10月6日(土)~8日(月) 岐阜県大垣市 総合体育館	成年男子	宮崎 志々藤 徹 齋垣大 涼 高 井 洋 兵 新平	千葉 川西小須加 龍 端岡野藤藤 志 和卓紘博 司 剛	東京 山六春鈴高 史 本郷山木橋 平 浩雄友桂和 紀 史
		成年女子	神奈川 渡平田 邊 美 樹 知本 井 希 知本 希 愛	兵庫 垣山萩 田 惠 本原 美 久 利樹子	山梨 山佐山 崎 珠 野部 賀 世 佳 苗
		少年男子	千葉 青鎌ベイクウ 木田嵩 大 アロン 志 石 神 大 志	奈良 泉仲志 谷 僚 具大西 埜 逸 大西 岩 尾 一 弥徹	神奈川 西高小 村 康 河後藤 梨 原 藤 端 隆 佑 也哉也 太郎
		少年女子	熊本 飯土梅 塚 貴 井木 雅 真 惠子美	東京 金小朝 子 洋 朝比奈 向 桃 比奈 沙 沙 花江羅	長野 武津出 居 沙 津出口 金 ク 口 口 リ スタ
13 第 68 回	平成25年 10月5日(土)~7日(月) 東京都足立区 東京武道館	成年男子	千葉 石西和 川 裕 下穴岩 岡 和 井尾 井 亮 敬 敬 敬	宮崎 宮齋西垣西 田 雄 西垣西 田 泰 西 湯 恭 健 健 太	東京 山大吉高百 浩 本東田橋瀨 匡 和 和 彦 史
		成年女子	千葉 角今渡 田 夏 井邊 優 美 実子奈	静岡 金村土 田 結 上屋 文 文 花か香	東京 五味新白 津 奈 井石 千 の どか
		少年男子	神奈川 関込尾春根 野 晴 山方日津 龍 寿 津 良 信 太	千葉 手片前村ウルフ 島 蓮 桐田田アロン 宗 哉 大 祐 ア ン	東京 羽磯江田小 鳥 弘 江田小 畑 範 崎川 健 丈 雄 雄 勢
		少年女子	東京 中森朝比奈 村 くる 比奈 智 子 沙 羅 羅	埼玉 川安富 辺 彩 田 若 沙 香好春	長野 武津出口 居 沙 出口 金 ク 口 口 リ スタ
14 第 69 回	平成26年 10月19日(日)~21日(火) 長崎県諫早市 諫早市小野体育館	成年男子	東京 木田西高上 戸 慎 西高上 村 和 橋川 大 和 大 大 大	長崎 志々目 徹 永瀬原田 貴 藤池 賢 浩 生 規 司 生	宮崎 堀前垣西土 野 慎 垣西土 田 将 西土 湯 恭 屋 健 健 之 平 太 潤
		成年女子	千葉 角今村 田 夏 井瀬 優 晴 実子香	福岡 西濱畑 杏 菜 畑 砂 香 村 亞 澄 希	長崎 近松町 藤 薰 延 延 里 純 純 香
		少年男子	愛知 永古天川並 山 竜 賀野田木 賀 颯 田木 修 泰 泰 雅	東京 藤大佐飯山 坂 泰 佐飯山 吉 健 田 伊 太 山 織 織	奈良 柵牧正古並 木 達 正古並 野 壯 古並 木 聖 里 伸 伸 樹 樹
		少年女子	大阪 古米斉 川 花 澤藤 夏 帆 藤 芽 生	奈良 田新児 中 芽 新児 添 左 島 島 有 生 季 紀	鹿児島 前牧青 田 千 柳 柳 朱 麗 麗 美 島 加 美

過去成績一覽表 (20)

回	場 所	1 位	2 位	3 位	
15 第 70 回	平成 27 年 10 月 3 日 (土) ~ 5 日 (月) 和歌山県和歌山市 武道・体育センター和歌山ビッグウエーブ	成年男子	埼玉 宮鈴春小渡 本木山林辺 拓友大智 実誠紀輔斗	和歌山 川六中高土 端郷条井井 雄文洋健 龍平弥平史	福岡 柴吉吉江青 田竹永藤山 悠祐慎大正次郎 輔貴也暁郎
		成年女子	岩手 葉渡菅 神邊原 桃悠歩 子季巴	埼玉 十平濱 田井田 美尚 里希里	和歌山 小高山 松橋部 ル佳 柔イ苗
		少年男子	東京 上大藤飯山 野吉原田田 凌崇健伊 典賢太郎織	千葉 森伊篠山和 下藤崎下田 北拓忠魁樹希也 斗海史輝也	福岡 小長田浜西 西倉中野田 誠力英大将 志斗朗生樹
		少年女子	愛知 黒鍋鈴 木倉木 七那伊 都美美織	鹿児島 前幸青 野田柳 奈麗 彩々美	埼玉 富工富 沢藤田 佳七若 奈海春
16 第 71 回	平成 28 年 10 月 8 日 (土) ~ 10 日 (月) 岩手県久慈市 久慈市民体育館	成年男子	東京 木田西上小 戸村山川川 慎和大大雄 二也希樹勢	埼玉 宮鈴春小渡 本木山林辺 拓友大智 実誠紀輔斗	千葉 青下地下加 木山崎田藤 徳亮翔博 大大祐平剛
		成年女子	茨城 内能藤 尾智原 真亜恵 子美美美	愛媛 浅宇井 見高上 八菜愛 瑠奈絵美	千葉 角又井 田ンイ坂 夏希 実蓮望
		少年男子	東京 武塚藤飯磯 岡本原田村 毅綾太郎太 崇健亮	愛知 古渡森岩東 賀邊部倉部 玄神篤優直 暉威知輝希	埼玉 鈴池長今龍 木田濱入島 晃直快晃 多輝飛也剛
		少年女子	愛知 武和糸 田田 亮梨晴 子乃乃	埼玉 富大石 沢谷塚 佳麻早 奈稀稀	福岡 寺新児 田森玉 宇多涼 ひかる
17 第 72 回	平成 29 年 10 月 7 日 (土) ~ 9 日 (月) 愛媛県松山市 愛媛県武道館	成年男子	東京 米橋釘上小 村口丸川川 克祐大大雄 麻葵一樹勢	広島 一末平飯香 面木田田川 貴健大 護將純伍吾	千葉 石下細須加 川山谷藤藤 勇徳京紘博 太亮司剛
		女子	愛媛 児宇中立井 玉高矢川上 風菜遥愛 香絵香桃美	神奈川 三栗渡朝山 浦田邊飛口 百ひ聖七凌 香の子海歌	愛知 和石山和鈴 田川内田木 君も梨伊 華慈も子織
		少年男子	東京 武塚織道斉 岡本茂下藤 毅綾郎大立 友多新	埼玉 川西願和野田 上寺瀬野田 武哲竜雅歩 士平司崇夢	千葉 市岩板畠大 川下東山淵 龍玄虎竜泰志 介太輔弥郎

過去成績一覧表 (21)

回	場 所	1 位	2 位	3 位	
18 第 73 回	平成 30年 10月6日(土) ～ 8日(月) 福井県福井市 福井県立武道館	成年男子	千葉 石六細下和加 川郷谷田藤 勇雄京翔博 太平亮平剛	大阪 長坂大奥山 谷野辻村本 川裕康達考 一裕次郎一 八朗太郎一	東京 杉磯釘佐熊 本丸藤代 大範太和佑 虎仁一哉輔
		女子	福岡 藤坪西多梅 本根尾田津 彩菜々純志 月子連菜悠	神奈川 渡栗山朝山 邊田ひまわり 愛ひまわり 子なる実歌	兵庫 北金畑桑荒 岡田形木 知曉萌穂乃 央秀菜花佳
		少年男子	東京 樋川金藤斉 口田野永藤 誠武晃龍太 二郎史大郎立	千葉 秋平板皆小 山野東川宮 竜龍虎大大 大也輔記倭	兵庫 顕横岡長寺 徳山田川本 大大一功静 晴地真斉矢
19 第 74 回	令和元 年 10月5日(土) ～ 7日(月) 茨城県龍ヶ崎市 たつのこアリーナ	成年男子	東京 青岩増佐小 木淵山藤川 侑香和雄 大生補哉勢	千葉 清六細下和加 水郷谷田藤 夏雄京翔博 輝平亮平剛	愛知 太竹古藤村 田中居川上 佳英頌和拓 希士悟紀
		女子	福岡 坪立山丸児 根川口山玉 和莉葵みかひ 海奈梨のる	静岡 山谷杉山米 口川山本川 美月明 優歩流杏穂	山梨 藤渕小平高 城田齊野橋 萌穂友瑠 心生美萌璃
		少年男子	東京 中島道グリーン小 村本下嶋 太真新カラニ 樹司郎大 海斗 樹郎人瑠雄	千葉 濱市北金栗 田川條澤田 大晃嘉聡真 樹次郎人瑠雄	福岡 中田竹森服 島中市部 瑞裕大健大 貴大祐心喜
20 第 75 回	令和2年 (中止) 鹿児島県鹿児島市	成年男子			
		女子			
		少年男子			

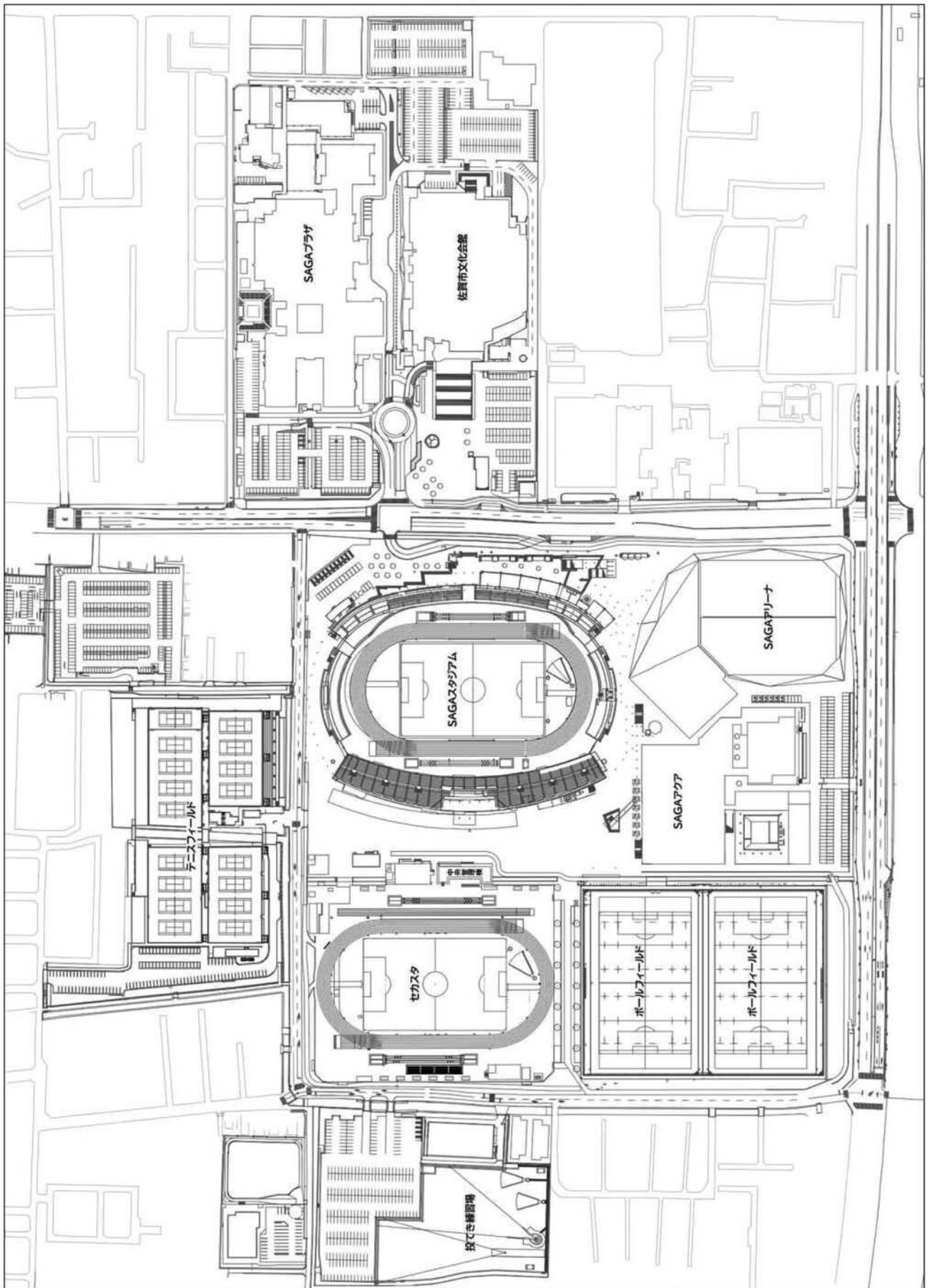
過去成績一覧表 (22)

回	場 所		1 位			2 位			3 位									
21 第 76 回	令和3年 (中止)	三重県津市	成年男子															
			女子															
			少年男子															
22 第 77 回	令和4年 10月8日(土)～10日(月)	栃木県宇都宮市 ユウケイ武道館	成年男子	栃木	山齋五郎 長熊北	本澤島代野	達航啓佑裕	彦介太輔一	宮崎	杉立笹川尾	本川谷田原	大 修 琢	虎新健平仁	大阪	樋小深奥松	口林山野井	裕礼将拓海	大弥剛未斗
			女子	東京	宮五徳近宇	木嵐田松野	果日和麻友紀	乃菜華耶子	長野	横坂白武	田上金居	ひかり未沙	綾桜知	滋賀	足足篠本杉	立達原田村	美実三万美寿	翔佳奈結希
			少年男子	東京	小石川中恵	野塚端村良	日隼倅乾武	向多明渡大	埼玉	磯杉条新坂	野野田井口	隆瑛和道	太郎星樹大稜	福岡	小竹山山熊	園市田城谷	輝裕伊航諒	希亮織雅也
23 特 別 国 民 体 育 大 会	令和5年 10月14日(土)～16日(月)	西原商会アリーナ 鹿児島県鹿児島市	成年男子	鹿児島	堅内吉上林山	山村野山	秀弘勇裕	将資人斗馬	茨城	白花田石戸	金岡中川高	宏晴英竜淳之介	都琉朗多介	佐賀	近田佐松小	藤中藤雪畑	隼龍正直大	斗雅大斗樹
			女子	滋賀	足瀧木前杉	立川村田村	美穂美寿希	翔萌花凜希	福岡	城西石大梅	戸尾井和津	珊瑚果志	翻連陽心悠	東京	平香蚊森宇	峯川口近野	夏瑞雪友紀	鈴希乃颯子
			少年男子	東京	佐荒竹海島	藤川吉堀山	星琉瑞翔	衣正樹伍凱	島根	田野山井森	窪崎岡川崎	剛廉大幹佑	共雅悟太	神奈川	久野坪竹手	能中根内塚	桐海武春	馬心志檜朗

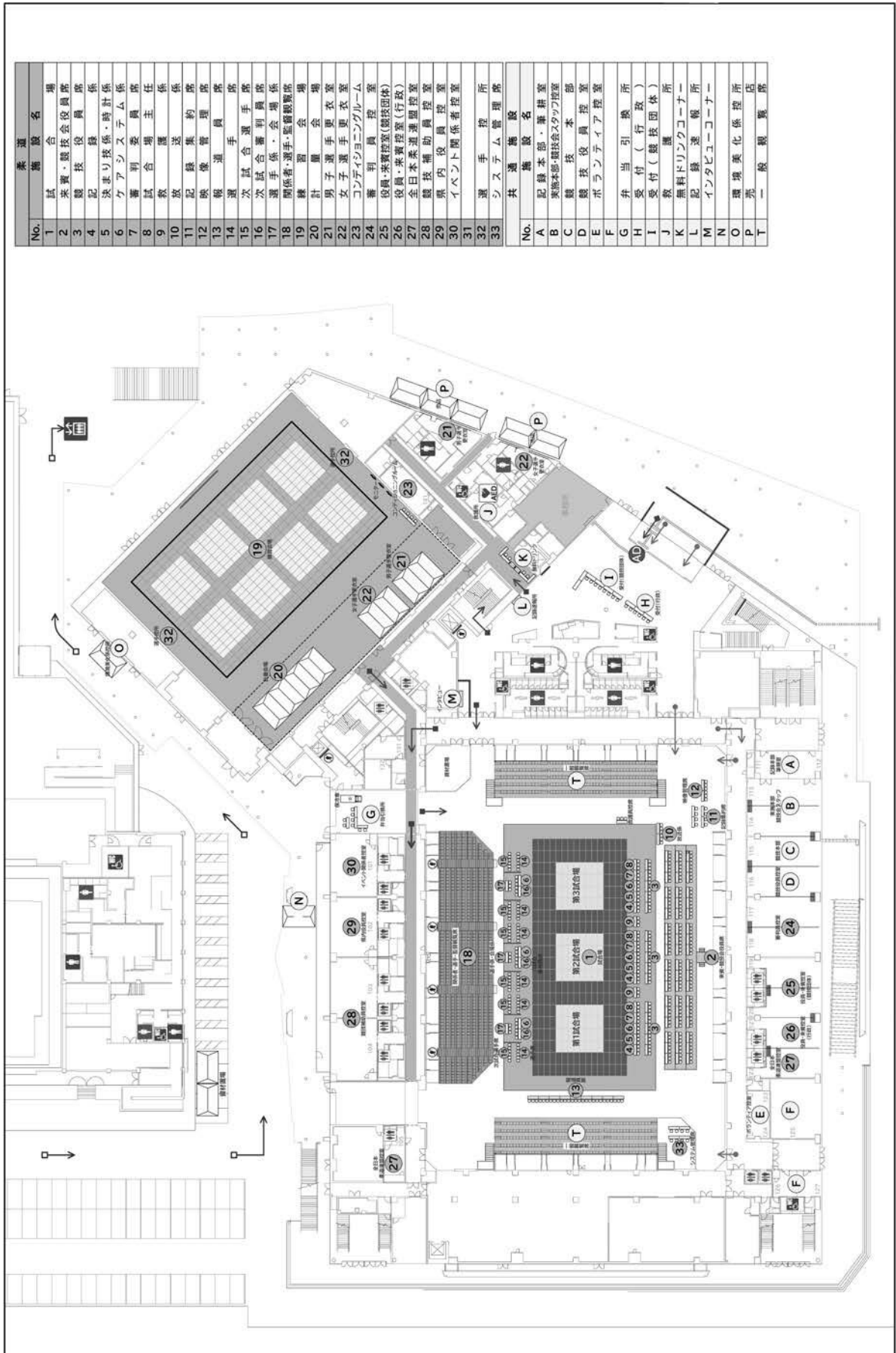
国民スポーツ大会柔道競技成績一覧表 (23)

回		場 所		1 位	2 位	3 位
24 第 78 回	令和 6年 10月 12日 (土) 14日 (月)	佐賀県佐賀市 SAGAサンライズ パークSAGAアリーナ	成年男子			
			女 子			
			少年男子			

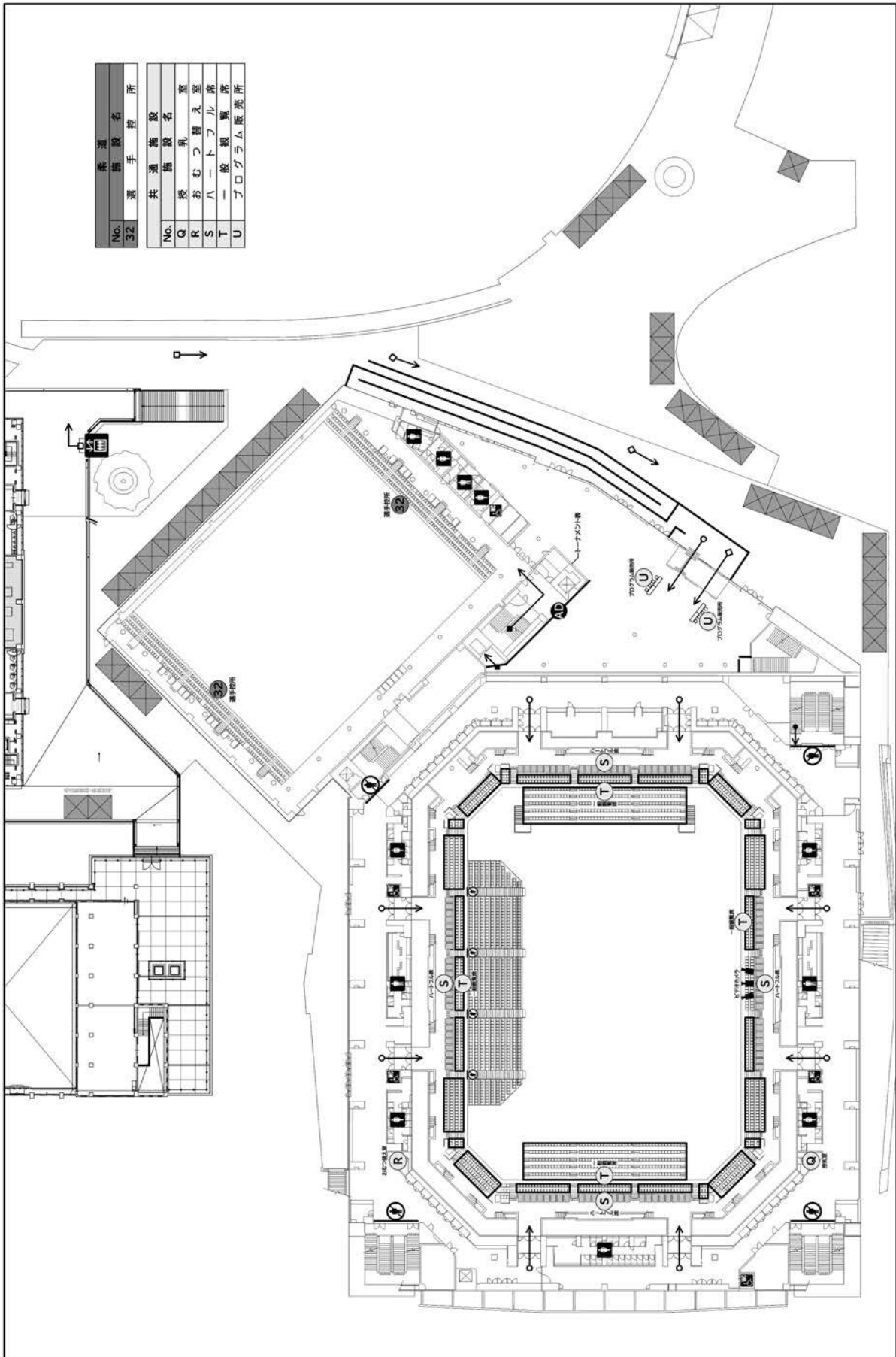
競技会場周辺図



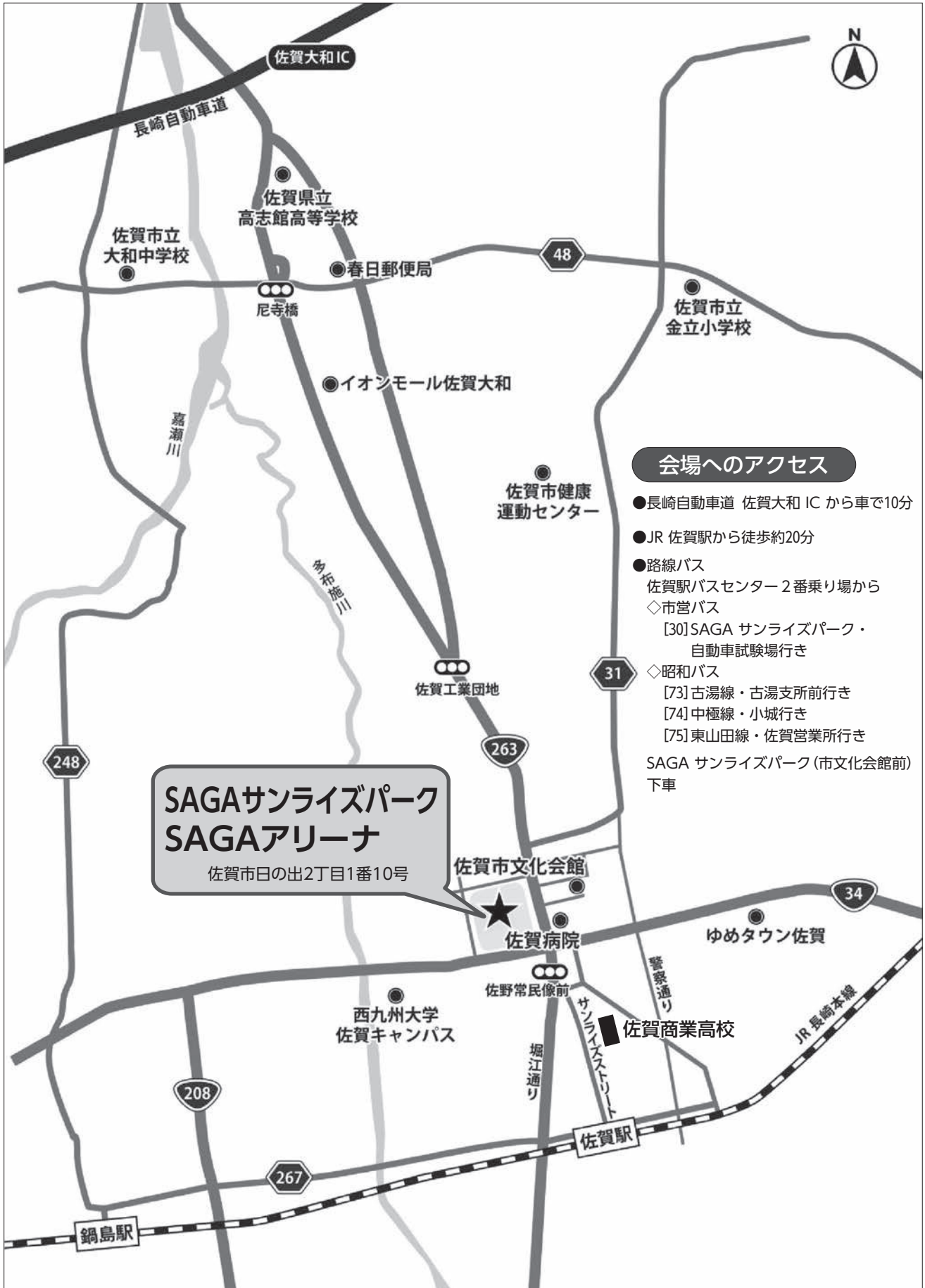
競技会場配置図 (SAGAアリーナ1階)



競技会場配置図 (SAGAアリーナ2階)



交通案内図



関係機関連絡先


〈実行委員会事務局〉

名 称	所 在 地	電話番号
SAGA2024 佐賀市実行委員会事務局	佐賀市松原1丁目3番5号 まるなかビル4階	0952-40-7347

〈競技会場〉

名 称	所 在 地	電話番号
SAGAサンライズパーク SAGAアリーナ	佐賀市日の出2丁目1番10号	0952-32-4070

〈医療機関〉

名 称	QRコード
佐賀県医療情報ネット (ナビイ)	

〈配宿・輸送センター〉

名 称	所 在 地	電話番号
SAGA2024国スポ 配宿センター	〒840-0825 佐賀市中央本町1-10	0952-41-1601
SAGA2024国スポ 輸送センター	ニュー寺元ビル2階	0952-41-1602

はじめてでもわかる！ ルールのキホン

監修：全日本柔道連盟審判委員会

柔道の始まり

柔道は、1882(明治15)年に教育者として名高い嘉納治五郎師範によって創設されました。

柔道の歴史については、講道館のホームページをご覧ください。

<http://kodokanjudoinstitute.org/doctrine/history/>



基本ルール

■試合時間

男女共に4分間。

■試合の決着

試合時間4分間で

- ・「一本」を取った場合
- ・「技あり」を2回取った場合(合わせ技一本となる)
- ・試合終了時に「技あり」のスコアで差が出た場合

- ・相手選手が軽微な違反により「指導」を3回受けた場合(累積による反則負けとなる)
- ・相手選手が負傷等により棄権した場合
- ・相手選手が危険行為等を行い「反則負け」となった場合

試合時間4分間で勝敗が決着しない場合は、ゴールデンスコア方式による延長戦を時間無制限で行い、どちらかの選手が「一本」か「技あり」あるいは、「反則負け」となった場合に勝敗が決着します。

スコア

柔道の技の種類は投技が68本、固技が32本あり、併せて100本になります。

技のスコアには「一本」と「技あり」の2種類があります。



一本

①投技

技を掛けるか、相手の技を返して、4つの基準「スピード、力強さ、背中が着く、相手をコントロールする」を満たして相手を投げた場合



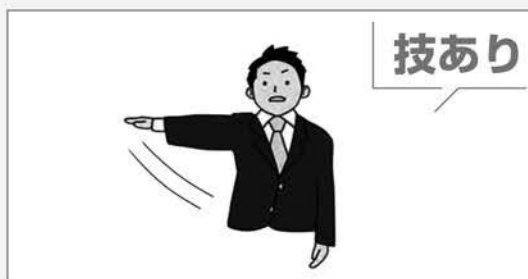
②抑え込み

「抑え込み」が宣告されてから相手が20秒間逃げられなかった場合



③絞技・関節技

絞技または関節技により相手が「参った」をした場合、もしくは戦闘不能となった場合



技あり

①投技

4つの基準「スピード、力強さ、背中が着く、相手をコントロールする」のどれか一つでも満たしていない場合



②抑え込み

「抑え込み」が宣告されてから抑え込みの状態が10秒以上20秒未満継続した場合



ペナルティ

ペナルティには、重大な違反に対する「反則負け」と軽微な違反に対する「指導」があります。

重大な違反とは、相手あるいは自身に危害を及ぼす行為や柔道精神(相手を敬う礼の精神)に反する行為が該当し、軽微な違反とは、消極的な姿勢あるいは消極的な組手が該当します。

よくみる「指導」(軽微な違反) 9 選

2020-2022 年の国際柔道連盟主催大会で最も多くとられた 9 つの指導を紹介します。

消極的な姿勢

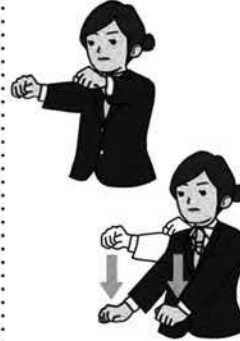
戦う精神に反して消極的な姿勢であること

例)立ち姿勢において組む前にも組んだ後にも、何の攻撃動作もとらないこと。



偽装的な攻撃

攻撃しているような印象を与えるが、明らかに相手を投げる意思のない攻撃を行うこと



組み合わない

相手に攻撃させないことを目的に故意に組み合わないこと



場外指導

立ち姿勢、寝技のいずれにおいても、自ら故意に場外に出ること



防御姿勢

極端な防御姿勢をとること



押し出し

相手を故意に場外に押し出すこと



帯から下への攻撃・防御

立ち姿勢において、脚を掴む行為、下穿きを掴む行為、手や腕を使って相手の脚をブロックもしくは押す行為のこと



膝や脚を使って組手を切る

膝や脚を使って組手を切ること



標準的ではない組手

標準的ではない組手で直ちに攻撃をしないこと

例)クロスグリップ、片襟、帯を掴む、ピストル/ポケットグリップ、等



くわしくは
全日本柔道連盟
ホームページ
をご覧ください



柔道界から

暴力・パワハラ・セクハラ

をなくそう!



(公益財団法人)全日本柔道連盟 コンプライアンス委員会

これまでのコンプライアンス委員会活動状況とリーフレット作成の目的

全日本柔道連盟は、2013年8月に「暴力行為根絶宣言」の発出とともに「コンプライアンスホットライン」「目安箱」を制定し、「柔道における暴力の存在は決して許さない」という強い決意のもと、柔道指導者に限らず柔道を行うすべての者に対し、いかなる暴力行為も行わないことを強く求めてきました。加えて、2015年5月に「暴力・体罰・セクハラ問題を学ぶためのガイドブック」を発行し、2018年10月には「柔道界からパワハラをなくそう」リーフレットを発刊、全柔連HP・大会プログラム等に広く掲示し、「暴力・パワハラ・セクハラ」のない柔道界を目指してきました。

しかし、一時は改善の兆しを見せたかに思えた「暴力・パワハラ・セクハラ」問題でしたが、「選手の能力向上のためには指導の中で暴力も必要である」と妄信する指導者や年長者による問題

行為は収まることなく、今日までに多くの「暴力・パワハラ・セクハラ」等事案を処分の対象としてきました。また、表に出て処分の対象になった事案だけでなく、「指導とパワハラの境界線が不鮮明」と捉えてしまい、「指導の一環である」として表面化しない問題事案も多く存在すると言われています。

今回のリーフレットでは、実際に柔道指導に当たっている指導者が持っている「自分の指導は、大丈夫だろうか?」という問いに答えるべく、過去にあった事例を取り上げ、より具体的に、「自分自身にも起こりうること」として考えることができるようにすることを目標にしました。

このリーフレットが、柔道指導者がより良い指導を実現する一助になれば幸いです。

「暴力・パワハラ・セクハラ」を起こさないために

1. 勝負がすべてではありません

柔道には、負けて学ぶことも多くあります。「勝敗」以外にも大事なものがあつたことを認識し、勝利至上主義に陥らないようにしましょう

2. 加害者も、被害者も不幸になります

「暴力・パワハラ・セクハラ」は、被害者だけでなく、加害者にとつても不幸をもたらすことを自覚し、思わず手が出そうになったり、暴言を吐きそうになったときには、自分を抑える忍耐力、コントロールする能力を持ちましょう。他者を支配できると思つてはいけません

3. プレーヤーの自発性を引き出すコーチング

プレーヤーの気づきを促して、自ら考え、工夫することを通して成長へと導いていく指導を基本としましょう

4. 学び続ける姿勢を持つ

コーチングに関する最新の情報を手に入れ、プレーヤーに新しい技術や知識などを的確にアドバイスできるよう、指導者自らが常に学び続ける姿勢を持ちましょう



実践! グッドコーチング
～暴力・パワハラのないスポーツ指導を目指して～
PHP 研究所

柔道 MIND 活動のねらいを、今一度考えてみましょう

相手への尊敬、信頼を示すものが礼法であり、他人に依存していることを自覚するのが真の「自立」です。それにより相手への感謝、尊敬の念が生じ「礼節」となります。さらに、「M 礼節」と「I 自立」の相互作用により正々堂々とした「N 高潔」さが示され、自ずと信頼が寄せられるようになり「D 品格」が完成されます。木を成長させていくことで、この相乗成長する過程をデザインして、柔道 MIND をわかりやすく表現いたしました。



嘉納治五郎師範は、「世の中の為に有為な人間を育成する教育理念」を最も重視しました。師範は、柔道を学ぶ者が到達すべき最高の目標として、

「精力善用」(善を目的に心身の力を最も有効に使用すること)

「自他共栄」(自分と他人との調和をはかり、お互いが繁栄して行くようにすること)

という言葉を残されました。この2つの言葉の意味をしっかりと理解するとともに、日々鍛錬し技を磨く中で、心の修養に努め、「自己を完成し、世の中の役に立つ人になる」という究極の目的に向かって努力して行くことが最も大切なことです。柔道修行は、人として正しく成長する為に有用であるばかりでなく、望ましい社会を作り出すことにも大きく貢献できる要素を持っています。



柔道界における

暴力 パワハラ セクハラ

最近の主な実例

分類

内 容

① 身体への攻撃

暴行・傷害を発生させる行為(必要以上に強く投げたり、マイツタしても絞め続ける行為も含む)

- Q1 指導の一環であれば、多少殴ったり、けったりしても良いのではないですか？
- Q2 体罰は愛のムチであり、選手も親も望んでいます。「勝たせるため」にしているのだから許されますよね？
- Q3 生徒の言動に大きな問題(悪ふざけ、いじめ等)がありました。このような場合、体罰も必要ではないですか？

- 事例1** 顧問が練習中、気合いが入っていない部員の顔面をプラスチック製バットで殴打し、ケガを負わせた。
- 事例2** 監督が選手の試合に臨む態度、結果が気に入らないと、出場した2名に対して顔面を平手打ち、足蹴り、突飛ばす等の暴力行為を行った。
- 事例3** 生徒が絞め技・関節技に弱いことを懸念した指導者が、「自分たちもこの厳しさを乗り越えて強くなった」という信念で、乱取り稽古中に何度も生徒を絞め技で失神させた。



Answer 「暴力行為や暴言、精神的圧迫などで威嚇して、自分の言うことを聞かそうとする行為」は、虐待的行為として社会的に大きな問題とされています。残念ながら、柔道活動の現場では、「性根を叩きなおす」「気合を入れる」「愛のムチ」等の言葉を大義名分に、指導の為には必要なこともあると黙認されることがあります。しかしながら、現代社会において決して許されるものではありません。指導者自らが学ぶことを忘れず、選手との対話を通して、言葉での説明や手本を示すことで指導し、本人の気づきを大切にしながら励まして行くといった指導を心掛けましょう。

② 精神的な攻撃

脅迫・名誉棄損・侮辱・暴言・ひどい叱責(人格を否定するような言葉、むやみに怒鳴る行為も含む)

- Q1 高い目標を達成するためには、集中力が必要です。「気を抜いたり、ミスをすると指導者に叱られる」という緊張感は必要なのではないですか？
- Q2 指導者の「熱い思い・情熱」を選手たちに伝える為、あえて怒鳴ったり、厳しい言葉で叱責することは必要なことではないですか？

- 事例1** ある柔道部顧問は練習態度や試合結果が気に入らなくと、「死ぬ」「殺す」「ごみ」などの罵声を繰り返し浴びせた(暴力・体罰を伴う)
- 事例2** ある選手が、部のルールに違反した。指導者は、「連帯責任」という名目で、同学年の選手全員を寮の外出禁止とし、食事当番や電話当番を強制したため、選手は学生の本分である授業や練習に出ることができなくなった。
- 事例3** ある指導者は、気に入らない選手が挨拶しても無視し、アドバイスを求めても「お前にはしない」と言い放った。



Answer 当然、相手を侮辱したり、差別発言を繰り返すことは、パワハラとなります。指導者としては、「反発心を力に変える」「気合を入れなおす」「叱咤激励する」といった考えで、あえて大声で怒鳴ったり、汚い言葉を使っているつもりでも、選手は自尊心を傷つけられ精神的に落ち込むことが多いものです。暴言によって生徒や選手が精神的に追い込まれ、自殺に至ったケースもあります。暴言は、ときに人権侵害に結びつくのです。スポーツ指導においては、肯定的な言葉がけや矯正を目的とした言葉がけが重要であるとされています。それはまた、主体的に考え行動できる選手を育てることにつながります。指導者と選手に上下はなく、対等な関係であるという意識を持ち、一般社会で受け入れられる言動を心がけ、互いに気持ちよく活動できる環境をつくりましょう。

③ 人間関係からの
切り離し

隔離・仲間外し・口をきかない等の行為(無視、練習相手をしない、指導をしない行為も含まれる)

Q1 生意気で指導者の言うことを聞かない選手には、その行為が皆に迷惑をかけることをわからせるために無視することも必要なのではないですか？

Q2 部の伝統に逆らったり、集団の輪を乱す部員には、「試合に出さない」「稽古に参加させない」等の罰は、必要なのではないですか？

事例1 先生から急な連絡を受けた上級生が、「練習に遅刻を繰り返す」「指示されたことを守らない」下級生にだけわざと、練習場所や時間の変更を伝えなかった。

事例2 ある指導者が選手に対し、「俺の前でよく柔道ができるな」「あんな身勝手な奴とは稽古するな」等の理不尽な発言を繰り返し、稽古をさせなかった為、選手は孤立した。



Answer 指導者の方針に従わない選手に対して、「無視」「稽古に参加させない」「試合に出さない」等によって、集団から孤立させる行為は、パワハラとなります。これが、「いじめ」等に発展し、退部や転校等につながれば社会的問題にもなりかねません。上下関係による「強制と服従」での指導は、選手が自発的に柔道を楽しむ権利を奪い、「選手自らが考え工夫する力」を育むことを阻害してしまいます。指導者は、「自分が一番正しいという妄想」を改め、他の人の意見にも耳を傾け、常に学び続ける姿勢を持ちましょう。

明らかに不要なことや実行不可能なことを要求すること(合理的な理由のない過度な練習も含む)

Q1 ある選手が手を抜いた稽古をしたので、罰として猛暑の道場で倒れこむまで打込みをさせました。気合を入れる為には、問題ないですよね？

Q2 勝敗を決めるのは、最後は精神力です。最後に勝てる強い選手を育てる為、限界を超えるくらいの練習をさせることは、問題ないですよね？

事例1 ある指導者は、試合で負けると、人が変わったように不機嫌になり、次の練習時に、腕立て伏せ千回、スクワット千回、打ち込み千回等の、過激な練習をさせるので、生徒や保護者は怪我をしないかととても不安だが、怖くて言いだせない。

事例2 ある指導者は、なかなか技の要領を覚えられない生徒に対していらだちを隠せず、「ろくに柔道の稽古ができないやつは、グラウンドでも走っている」とつきはなし、その後3時間もランニングを続けさせた。夏の暑い日で、あやうく熱中症になるところだった。



Answer ただ単に「精神力を高める」「根性をつける」等のために、厳しい稽古・長時間の練習を強いることは、パワハラというべきレベルだと考えられます。「過度の練習がスポーツ障害・外傷のリスクを高めること」をよく理解し、「柔道の特性等を踏まえた科学的指導法」を学んだ上で、個人差等にも配慮して練習メニューを設定しましょう。指導者は最新の指導法を学び、選手が競技として柔道をしている間だけでなく、競技を終えた後も「生涯柔道」を楽しむことができるような指導を心掛けましょう。

④ 過大な要求

合理的な理由なく、程度の低いことをさせる、活動をさせない等の行為(1人だけ別メニューも含む)

Q1 指導方針にいちいち異を唱える選手に対し、「私の方針に反対なら、何もするな」と言い、見取り稽古だけにしました。問題ないですよね？

Q2 ちょっとしたことでもケガをしたとってくる選手がいます。煩わしいので、「元立ち」や「投込み」はさせません。問題ないですよね？

事例1 ある柔道部では、選手の練習にのぞむ態度が少しでも気に入らないと、「もう何もなくていい」「道場の隅で正座でもしてる」「帰れ」「道場の外に出て入ってくるな」と冷たく言い放つ為、練習の雰囲気が悪くなり、みんな徐々にやる気を失っている。

事例2 ある指導者は、指導に従わない道場生に対し、みんなが見ている前で「俺の言うことが聞けないなら、道場から出ていけ」と追い出したきり、その後何のフォローもしなかった。



Answer 合理的な理由なく、「仲間とは違う程度の低いメニューを行わせる」「活動をさせない」等の行為は、「いじめ」「仲間外れ」に類する行為でパワハラとなります。また、「人間関係からの切り離し」に近い性質も持っています。どうしても、ある選手だけを別メニューにする必要がある時は、「どうして、その選手だけが違う練習をしなければならないのか」、その理由を本人だけでなく仲間にも丁寧に説明し、全体が納得した上で行うようにしましょう。

⑤ 過小な要求

⑥ プライバシーの侵害

私的事項に過度に立ち入ること。家族関係・恋人の有無・休日の予定等、私的領域に踏み込む行為

- Q 1 選手の生活を正しく管理することは、指導者の大事な役割です。プライベートなこともすべて知っておく必要があるのではないですか？
- Q 2 試合で結果が出ない選手に対して、柔道の邪魔になる「男女交際」をやめるように言いました。問題ないですよね？
- 事例1 ある先輩が、柔道部の上下関係を利用して、新入生のプライバシー（恋人、家族関係など）に立ち入ってきて、いろいろなことを言うので後輩たちは皆まいている。
- 事例2 ある指導者は、必ず親の職業を聞きだし、職によっては自分に便宜を図るように仕向けさせるので評判が悪い。



Answer 上司と部下、教師と生徒、先輩と後輩、指導者と教え子等の関係性において、「私的事項に過度に立ち入る」といったことが起こることがあります。柔道の指導とは全く関係がないのに、立場を利用して、家族関係、恋愛関係、休日の予定等のプライベートなことについて詮索することは、ハラスメントとなります（その行為が、男女関係に発展させることを意図したものであればセクハラ）。また、個人情報や相手の許可なく漏洩することは違法な行為となる場合があります。「立場を利用して、無意識にプライバシーを詮索していることもある」ということを意識して行動しましょう。

当事者の意に反した性的な性質の言動を行うこと。それによって一定の不利益を与えたり、活動環境を悪化させること

⑦ セクシャルハラスメント

- Q 1 「胸が大きいな」「ケツでかいな」等は、単なる冗談の一つです。大丈夫ですよね？
- Q 2 女子選手は、生理の関係で調子に影響が出ます。選手の生理について把握し、状況を知る為に、常に質問しても問題ないですよね？
- Q 3 選手とマッサージしながら会話することで、体調管理を行なうとともにコミュニケーションをとっています。異性ですが、問題ないですよね？
- 事例1 ある指導者が教え子に対し、寮や合宿中に「わいせつ行為」を繰り返した。
- 事例2 Tシャツの上から胸をじろじろ見てきて、「下着が透けてるぞ」などと言ってくる。
- 事例3 寝技などの練習中、不必要にお尻や胸を触ってくる。
- 事例4 試合中、柔道衣が汗で濡れて透けていたり、Tシャツの首の部分が伸びている時を狙って写真を撮ってくる。



Answer セクハラとは、「相手を不快にする、性的な言動」のことです。その行為が性別や意図的であるなしに関わらず、被害者や周りの人にとって不快なものであれば、セクハラとなります。柔道界では、時に指導者が選手に対して「絶対的権力」を有している状況が見られます。その関係性から、寮生活、合宿や遠征等で多くの時間と空間を共有する中、指導を口実とした身体接触（稽古中不必要に尻や胸を触る/無資格者によるマッサージや、密室の空間に2人きりになる等）が当然のことのように行われている現状があるのです。柔道にたずさわる人々が、安全に楽しく活動できるように、「柔道界においてセクハラは絶対に許さない」という強い姿勢を社会に示していきましょう。

生徒間の暴力・指導者/関係者の黙認・指導者の指示による学生間の暴力・私的交流におけるトラブル

- 事例1 生徒間の暴力・指導者の黙認** - 校内、道場、寮で上級生から下級生へ殴る、蹴る等の暴力や恐喝行為が繰り返されていた。
- 事例2 パワハラ・体罰が行われている場に居ながら、制止せず傍観** - 問題行動があった生徒に対し、ある指導者が、稽古中に「叩きつけるような投げ方」「故意に絞め落とし気を失ったところをビンタ」等を行った。副顧問も稽古に参加していたが、制止せず傍観していた。
- 事例3 指導者の指示による学生間の暴力** - ある大学指導者が先輩部員に対し、遅刻するなど生活態度が悪い部員を厳しく指導しろと指示した。先輩部員は、練習でしごき（殴る、蹴る、絞め落とす等）、私生活でも暴力が常態化した。
- 事例4 柔道関係者の私的交流におけるトラブル** - 県の柔道行事のあと飲食、二次会で行きつけの Snackbar に行った。Aが言葉遣いを叱責したところ、Bが従わず口論となり、Bが首筋を掴みかかる等の行動に出て、Aも相手の顔面を殴る等の暴力を加えた。



Answer 「あらゆる暴力やハラスメントは、しない・させない・許さない」という強い意識を常に持って指導に当たることが大切です。自身が気を付けるだけでなく、コンプライアンスに問題のある行動を見かけたら、黙認や隠ぺいせず改善に向けた適切な行動をしましょう。指導者・選手・関係者全員が、「暴力や暴言は許されない」ということをしっかりと認識し、自由に意見を言い合うことのできる組織、チーム・環境を作ることを心掛けましょう。

ご相談窓口

全日本柔道連盟ホームページ(<https://judo.or.jp>)から「全柔連について」→「ご相談窓口」へ進んでください。

都道府県柔道連盟(協会)

都道府県柔道連盟に関することは、都道府県窓口担当者にご相談ください。

全日本柔道連盟「柔道目安箱」

- 対象者**：どなたでもご利用できますが、内容によって、全日本柔道連盟が対応する場合と都道府県柔道連盟が対応する場合があります。
- 受付方法**：封書またはメール
※全柔連HPの「ご相談窓口」から「柔道目安箱」を選択し、「投稿フォーム」に記入してご送付ください。
 (メールの場合、担当者からの返信を受信可能な状態にしてください)
- 郵送先**：〒112-0003 東京都文京区春日 1-16-30 全日本柔道連盟 倫理推進室「柔道目安箱」係
- メール送付先**：rinri@judo.or.jp



全日本柔道連盟「内部通報制度(コンプライアンスホットライン)」

- 対象者**：全柔連登録会員、全柔連及び加盟団体の役職員
- 受付方法**：封書またはメール
※全柔連HPの「ご相談窓口」から内部通報制度(コンプライアンスホットライン)を選択し、「受付表」に記入してご送付ください。窓口は2ヶ所あります。(メールの場合、担当者からの返信を受信可能な状態にしてください)

- 郵送先**：〒105-0003 東京都港区西新橋 1-21-8 弁護士ビル 807号
あたらし橋法律事務所 赤堀文信弁護士気付 全柔連コンプライアンスホットライン
- メール送付先**：akahori@atarashibashi.com

- 郵送先**：〒107-0052 東京都港区赤坂 7-5-7 赤坂光陽ビル 5階
山田・尾崎法律事務所 山田奈美香弁護士気付 全柔連コンプライアンスホットライン
- メール送付先**：n.yamada@yamada-ozaki.com

全日本柔道連盟が求める指導者



1. 講道館柔道の魅力を正しく伝えることができる指導者

- ◆全日本柔道連盟が求める指導者は、嘉納師範の遺された以下の「理想の柔道教師」像をよく理解し、その実践に努めることができる。

理想として、柔道指導者は、攻撃防禦の技術に堪能で、勝負上の理論も心得、同時に、体育家として必要となる知識を有し、かつその方法にも修熟し、また教育者としては、道徳教育の理論にも精通し、稽古の方法にも達し、さらに柔道の原理を社会生活に応用する上において、精深なる知識を有し、方法をわきまえている事が必要である。
(意訳)

2. 社会に有益な人材を育成する指導者

- ◆全日本柔道連盟が求める指導者は、目先の勝敗に拘ることなく、生涯を通じた人間的成長を長期的視点にたって支援することができる。
- ◆全日本柔道連盟が求める指導者は、社会に有益な人材を育成し、豊かな文化の創造や柔道の社会的価値を高めることができる。

3. 人権を尊重し多様性に配慮する指導者

- ◆全日本柔道連盟が求める指導者は、いかなる差別や暴力・暴言や、ハラスメントも容認せず、すべての人々の権利や尊厳、人格を尊重し、公平に接することができる。

4. 安全に配慮しコンプライアンスを徹底する指導者

- ◆全日本柔道連盟が求める指導者は、事故を起こさないとの確たる信念を持ち、事故を予防するための十分な知識を有し、事故を予防する行動をとることができる。
- ◆全日本柔道連盟が求める指導者は、法令や社会的規範を守り、社会の一員として模範となる態度・行動をとることができる。

5. 柔道 MIND を実践する指導者

- ◆全日本柔道連盟が求める指導者は、礼節を重んじ、自らの意思で正しい行動を選択して堂々とふるまい、他者からの尊敬を得られるよう努めることができる。
- ◆全日本柔道連盟が求める指導者は、人々が、お互いに感謝・信頼し合い、かつ協力・融和・協調（「相助相譲」）できる環境をつくることことができる。

6. 自己研鑽により成長を続ける指導者

- ◆全日本柔道連盟が求める指導者は、柔道修行の究極の目的をよく理解し、目的が達成できるように真摯に取り組みながら、柔道実践者と共に成長することができる。
- ◆全日本柔道連盟が求める指導者は、常に高い向上心を持って学び続け、最新のルールや指導法等にも精通し、それらを柔道実践者に言語的に伝達することができる。

みんなで 柔道MINDを 育もう!

誰からも尊敬される
生き方をすること

D 品格 ひんかく
DIGNITY

正しいことを考え
実行すること

N 高潔 こうけつ
NOBILITY

自分で考え判断して
行動すること

I 自立 じりつ
INDEPENDENCE

みんなが気持ちよく
過ごせるために
必要なこと

M 礼節 れいせつ
MANNERS

公益財団法人 全日本柔道連盟



みんなの 柔道 結び、つづける。

様々な価値観が浸透し、変化し続ける時代のうねりの中で、
今、柔道に何が求められるだろう。

柔道には本来、個性の数だけ、
皆に寄り添える魅力が存在する。

それは、心や身体を強くする手段として、
日常に活かせる学びの場として。

あらゆる場所であらゆる個性にひらかれた、
様々な柔道の姿がある。

これからも、時代は変わりつづける。
だからこそ私たちは、人々の想いを結びつづける。

みんなの個性を、もっと愛してゆくために。

長期育成指針の詳細や対談動画は
右記のQRコードからご覧ください。



全日本柔道連盟が策定した長期育成指針は、柔道を通じて
人間形成と社会貢献を目指すグランドデザインです。
詳細はこちらからご覧ください。



公益財団法人 全日本柔道連盟

MEMO

SAGA 2024 国ス ポ 会場地

全障ス ポ



玄海町

- 相撲

大町町

- 銃剣道
- ▲ ウォーキング

小城市

- バレーボール
- ハンドボール
- ソフトボール
- バレーボール 精神

伊万里市

- 水泳(オープンウォータースイミング)
- ホッケー
- バレーボール(ビーチバレーボール)
- 軟式野球
- フライングディスク 身体 知的

基山町

- 卓球
- ▲ パワーリフティング
- 草スキー
- 卓球 身体 知的 精神
- ※ サウンドテーブルテニスを含む
- 卓球バレー

多久市

- 弓道
- スポーツクライミング

江北町

- ソフトボール
- ▲ 3B体操

有田町

- ウェイトリフティング
- 軟式野球
- ▲ 皿かぶり競走

唐津市

- バスケットボール
- セーリング
- ソフトテニス
- 軟式野球
- バドミントン
- トライアスロン
- 綱引
- ▲ スケートボード
- ▲ 滝登り
- ▲ ユニカール
- バスケットボール 知的
- 車いすバスケットボール 身体
- パラサーフィン

嬉野市

- レスリング
- 軟式野球
- なぎなた
- 武術太極拳
- ▲ スポーツチャンバラ
- ポッチャ 身体
- 電動車椅子サッカー

鹿島市

- 軟式野球
- アーチェリー
- グラウンド・ゴルフ
- ▲ さわやかグラウンド・ゴルフ
- ▲ バグー
- アーチェリー 身体

太良町

- ソフトボール
- ▲ マリンスポーツ
- ソフトボール 知的

白石町

- ソフトボール
- ▲ ソフトバレーボール
- グランドソフトボール 身体

武雄市

- 自転車(トラックレース)
- 軟式野球
- ゴルフ
- エアロビック
- ▲ スポーツウエルネス吹矢
- ▲ チャレンジ・ザ・ゲーム
- スポーツウエルネス吹矢

佐賀市

- 陸上競技
- 水泳(競泳、飛込、水球、アーティスティックスイミング)
- サッカー
- テニス
- ローイング
- バレーボール
- 体操(競技、新体操、トランポリン)
- フェンシング
- 柔道
- ライフル射撃(25m)
- ラグビーフットボール
- カヌー(スプリント)
- クレー射撃
- ボウリング
- ▼ 高等学校野球(硬式)
- バウンドテニス
- ▲ 合気道
- ▲ スカットボール
- ▲ パークゴルフ
- ▲ ビリヤード
- ▲ ラダーゲッター
- ▲ ロープ・ジャンプ・X
- 陸上競技 身体 知的
- 水泳 身体 知的
- ボウリング 知的
- バレーボール 身体
- ウォーキングフットボール
- ソーシャルフットボール

吉野ヶ里町

- バレーボール
- ハンドボール
- ▲ アジャタ

鳥栖市

- サッカー
- バレーボール
- 空手道
- ▼ 高等学校野球(軟式)
- ゲートボール
- ▲ 室内バタック
- ▲ スポGOMI
- ▲ ラージボール卓球
- バレーボール 知的
- サッカー 知的

上峰町

- ソフトボール
- ▲ クップ
- ▲ シャッフルボード
- フットソフトボール 知的
- ふうせんバレーボール

みやき町

- バレーボール
- ソフトボール

神埼市

- ハンドボール
- 剣道
- ▲ いごてだま
- ▲ フライングディスク
- ブラインドテニス



- 国スボ 正式競技
- ▲ 国スボ デモンストラーションスポーツ
- ▼ 国スボ 特別競技
- 全障スボ 正式競技
- 国スボ 公開競技
- 全障スボ オープン競技

県外開催

- 自転車……大分県日田市(ロードレース)
- ライフル射撃……大分県由布市(50m、10m、ビームライフル、ビームピストル)
- 馬術……兵庫県三木市
- カヌー(スラローム、ワイルドウォーター)……鹿児島県湧水町



競技記録結果

第78回国民スポーツ大会の正式競技、特別競技の競技記録結果を掲載しています。

開設期間：令和6年8月26日(月)～12月13日(金)

インターネット・携帯サイト

- ▶ PC・スマホ <https://kirokukensaku.net/5NS24/index.html>
- ▶ フィーチャーホン <http://kirokukensaku.net/5NS24/mob/index.html>



PC・スマホ



フィーチャーホン

国スポチャンネル

国スポ競技の動画配信を行っています。

- ▶ 国スポチャンネルHP <https://japangamestv.japan-sports.or.jp/>

